

厚生労働省補助金

てんかん地域診療連携体制整備事業

2024 年度
てんかん全国支援センター報告書

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター

令和 7 年 3 月

序にかえて

てんかんは子どもから大人まで幅広く発症する疾患で、わが国には100万人のてんかんのある人がいる。小児科、精神科、脳神経内科、脳神経外科と複数の診療科で診療しているが、高齢者の発症率が高いにもかかわらず、成人てんかんを診る専門医が不足しているという課題は未だ解決には至っていない。

各地域でのてんかん診療の実態が十分把握されていないということから、2018年度から「てんかん地域診療連携体制整備本事業」が始められ、各都道府県にてんかん対策を行う医療機関をてんかん支援拠点病院として設置され始めてから7年が経過した。てんかん支援拠点病院は、全国30施設に達した。てんかん支援拠点病院は、てんかん専門医が在籍し、MRIやビデオ脳波など必要な検査施設を備えて、てんかん診療を行うばかりではなく、患者、家族への専門的な相談支援、他の医療機関や自治体、関係機関との連携、患者、家族、地域住民や医師への教育・啓発活動を行っている。これらの業務にあたるのが、てんかん診療支援コーディネーターである。患者・家族、医療機関、各行政機関との間をつなぐコーディネーターの役割は極めて重要で、2024年度もてんかん地域診療連携体制整備事業における研修が2回行われ、今年度も新たに37名が加わり、計175名に達した。

また、2020年度からてんかん学会が中心となって、より専門的な治療が行える包括的てんかん専門医療施設の登録も24施設となり、三次医療機関として、精密な診断、難治性てんかんの精査、併存症に対する包括的ケア、薬物・非薬物治療、外科治療などを行うこととなっている。24施設のうち、15施設はてんかん支援拠点病院と重なるが、てんかん医療において、一次医療（かかりつけ医）→てんかん支援拠点病院→二次医療（神経専門医・精神専門医）→三次医療（包括的てんかん専門医療施設）の診療の流れが確立しつつあることは喜ばしい。

当センターが事務局を務めている全国てんかん対策連絡協議会は、今年度も2回開催され、各地のてんかん支援拠点病院、厚生労働省の担当者や、患者団体等てんかん対策のステークホルダーが参加し、事業の効果の検証、問題点の抽出等、提言などが行われた。本報告書には、各医療機関における取り組みと成果や課題が取りまとめられている。各機関のご尽力に敬意を表するとともに、地域連携モデルが全都道府県に普及し、わが国のてんかんのある人たちのウェルビーイングにつながることを祈念している。

令和7年3月吉日

てんかん診療全国拠点機関事業責任者

国立精神・神経医療研究センター

理事長 中込和幸

てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度報告に寄せて

世界保健機関は 2022 年に Intersectoral Global Action Plan on Epilepsy and Other Neurological Disorders (IGAP 2022-2031) を採択し、10 年間に世界各国が保健医療の重要課題としててんかん対策を推進し報告することを求めています。IGAP では特に発展途上国における treatment gap の解消が大きな目標ですが、treatment gap の問題は日本国内にも存在しています。適切な抗てんかん発作薬や外科治療へのアクセスは言うまでもなく、てんかんやてんかんと鑑別が問題となる諸疾患の適切な診断や包括的なてんかんケアまで含めると、改善すべき課題はまだ残されています。

一般社団法人日本てんかん学会は、これまでおよそ 50 年にわたり学術団体としててんかん対策に取り組んできました。疾患に関する学術活動の他、てんかん専門医の研修や認定、てんかん専門研修施設の認定に加え、2021 年から包括的てんかん専門医療施設の認定を開始しました。これはてんかんに関連するすべての診療領域を網羅して最先端の高度診療を提供する施設を、各都道府県一施設に限定することなく純粋に診療の内容で認定を行うもので、いわば先進的なてんかん対策を担うものです。

一方、2015 年度にモデル事業から開始された厚生労働省補助金事業「てんかん地域診療連携体制整備事業」は国内全体でのてんかん診療のレベルアップと均霑化のための政策医療からのアプローチであり、てんかん対策の裾野を広げて社会全体への啓発活動や適切な医療の提供体制強化を進めるための事業です。本事業では、拠点となる病院を「てんかん支援拠点病院」として各都道府県に一つ選定し、連携の中心として地域におけるてんかん対策を進めます。モデル事業開始時の 8 都道府県から、9 年間で 30 都道府県まで整備が進んだのは素晴らしい進歩です。本事業の発展は、日本てんかん学会にとっても大変大きな意義を持つもので、学会全体での支援を継続してまいります。

また、当事者団体の公益社団法人日本てんかん協会や任意団体の全国てんかんセンター協議会が同じ目的に向かって活動しています。前者は 50 年前から日本てんかん学会と連携して行政への働きかけなどを行ってきましたし、全国てんかんセンター協議会は 2013 年の設立以来、特にメディカルスタッフ間での情報交換や教育研修の推進を担っています。IGAP 活動の推進には、4 団体・事業が各々の役割を果たしつつ、これからはしっかりと連携してゆくことが欠かせません。

2024 年度の本事業報告に寄せて、本事業に関わる皆様のご尽力に深謝するとともに、来年度以降もてんかん地域診療連携体制整備事業の更なる発展をご祈念申し上げます。

日本てんかん学会理事長 川合謙介

目 次

序にかえて	中込 和幸
てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度報告に寄せて	川合 謙介
全国てんかん対策連絡協議会委員	
1. 厚生労働省 令和 6 年度てんかん地域診療連携体制整備事業（令和 6 年度報告書）	稗田 明恵
2. 整備事業を活かす地域の実状に合った社会資源のつながり	梅本 里美
3. てんかん地域診療連携体制整備事業 てんかん全国支援センター報告	中川 栄二
4. 北海道てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度活動報告	三國 信啓
5. 宮城県てんかん診療地域連携事業「東北大学病院てんかんセンターにおける活動の概要」	中里 信和
6. 令和 6 年度茨城県てんかん地域診療連携体制整備事業報告書	石川 栄一 榎園 崇 増田 洋亮
7. 栃木県のてんかん地域連携体制整備事業－自治医大てんかんセンター－	川合 謙介
8. 2024 年度 群馬県てんかん地域連携体制整備事業活動報告	高橋 章夫
9. 令和 6 年度埼玉県てんかん地域連携体制整備事業活動報告書	山内 秀雄
10. 令和 6 年度 千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告	青柳 京子
11. 令和 6 年度 東京都てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告	岩崎 真樹
12. 令和 6 年度 神奈川県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告	清水 直樹 太組 一朗 石丸 貴子
13. 新潟県におけるてんかん診療連携－西新潟中央病院－（2024 年）	遠山 潤 福多 真史
14. てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度石川県拠点機関としての活動状況報告書	廣瀬 源二郎 中川 裕康
15. 令和 6 年度 山梨県てんかん地域診療連携体制整備事業報告書	加賀 佳美
16. 令和 6 年度 長野県てんかん地域連携体制整備事業活動報告	福山 哲広
17. 令和 6 年度 静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告	今井 克美 臼井 直敬 谷津 直美 橋本 睦美 小瀧 真 森下 大輔
18. 愛知県てんかん治療医療連携協議会 2024 年度報告書	兼本 浩祐 齋藤 竜太 山本 啓之
19. 令和 6 年度京都府てんかん地域診療連携体制整備事業：拠点病院からの活動報告	池田 昭夫 林 梢 松橋 眞生
20. 大阪府てんかん地域診療連携体制整備事業 令和 6 年度の活動について	貴島 晴彦
21. 2024 年度 神戸大学医学部附属病院てんかんセンター 報告	篠山 隆司
22. 奈良県てんかん対策地域診療連携整備体制事業（2024 年度）報告	田村 健太郎
23. 鳥取県のてんかん地域診療連携事業活動の概要 －2024 年度－	岡西 徹
24. 岡山県におけるてんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度）	田中 將太 秋山 倫之
25. 広島県てんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度）	飯田 幸治
26. 令和 6 年度山口県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告	藤井 正美
27. 徳島県てんかん地域診療連携体制整備事業	森 健治
28. 令和 6 年度愛媛県てんかん地域診療連携体制整備事業	國枝 武治 元木 崇裕
29. 福岡県てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度活動報告	重藤 寛史

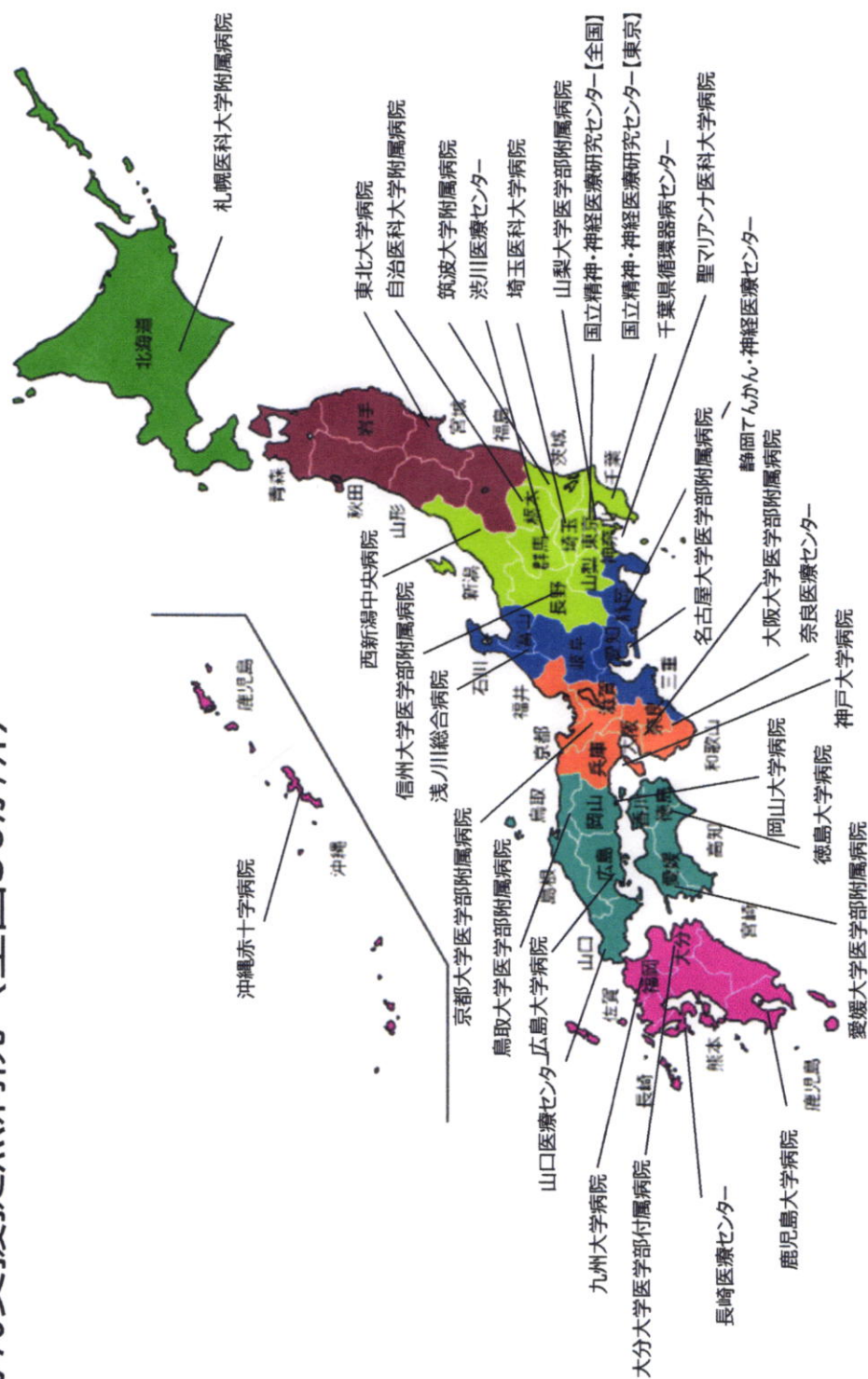
- | | |
|--|-------------|
| 30. 長崎県のてんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度） | 小野 智憲 |
| 31. 2024 年度 大分県てんかん地域連携体制整備事業活動報告 | 松田 浩幸 |
| 32. 鹿児島県におけるてんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度） | 花谷 亮典 |
| 33. 令和 6 年度 沖縄てんかん拠点病院事業報告書（2024 年 4 月～2025 年 3 月） | 廣中 浩平 饒波 正博 |

2024年度全国てんかん対策連絡協議会組織

所 属	氏名(敬称略)
厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室	稗田 明恵
一般社団法人 日本てんかん学会理事長	川合 謙介
公益社団法人 日本てんかん協会（波の会）	梅本 里美
国立精神・神経医療研究センター病院 総合てんかんセンター	中川 栄二 岩崎 真樹 谷口 豪
札幌医科大学 医学部脳神経外科学講座	三國 信啓
東北大学病院 てんかんセンター	中里 信和
筑波大学附属病院 てんかんセンター	石川 栄一 榎園 崇 増田 洋亮
自治医科大学病院 てんかんセンター	川合 謙介
渋川医療センター てんかんセンター	高橋 章夫
埼玉医科大学病院 てんかんセンター	山内 秀雄
千葉県循環器病センターてんかんセンター	青柳 京子
国立精神・神経医療研究センター病院 てんかんセンター	岩崎 真樹 中川 栄二 谷口 豪
聖マリアンナ医科大学病院 てんかんセンター	清水 直樹 太組 一朗
西新潟中央病院 てんかんセンター	遠山 潤 福多 真史
浅ノ川総合病院 てんかんセンター	廣瀬 源二郎 中川 裕康
山梨大学医学部附属病院 てんかんセンター	加賀 佳美
信州大学医学部附属病院 てんかん相談支援部門	福山 哲広

静岡てんかん・神経医療センター てんかんセンター	今井 克美 臼井 直敬
愛知県てんかん治療医療連携協議会 2024 年度報告書	兼本 浩祐 齋藤 竜太 山本 啓之
京都大学医学部附属病院 てんかん診療支援センター	池田 昭夫
大阪大学医学部附属病院 てんかんセンター	貴島 晴彦
神戸大学医学部附属病院 てんかんセンター	篠山 隆司
奈良医療センター てんかんセンター	田村 健太郎
鳥取大学医学部附属病院 てんかん診療連携協議会	岡西 徹
岡山大学病院 てんかんセンター	田中 將太 秋山 倫之
広島大学病院 てんかんセンター	飯田 幸治
山口県立総合医療センターてんかんセンター	藤井 正美
徳島大学病院 てんかんセンター	森 健治 多田 恵曜
愛媛大学医学部附属病院 てんかんセンター	國枝 武治 元木 崇裕
福岡県てんかん治療医療連携協議会 九州大学病院	重藤 寛史
長崎医療センター てんかんセンター	小野 智憲
大分大学医学部附属病院	松田 浩幸
鹿児島大学病院 てんかんセンター	花谷 亮典
沖縄赤十字病院 沖縄てんかん拠点病院	廣中 浩平
国立精神・神経医療研究センター病院 てんかんセンター事務担当	水野佐智子

全国てんかん支援センター（NCNP全国1か所）
てんかん支援拠点病院（全国30か所）



1. 厚生労働省

令和6年度てんかん地域診療連携体制整備事業（令和6年度報告書）

厚生労働省におけるてんかん対策

～てんかん地域診療連携体制整備事業～

厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部
精神・障害保健課 心の健康支援室
心の健康係長 稗田 明恵

1. てんかん地域診療連携体制整備事業

（1）背景

- ① てんかんの患者は約100万人と推計される一方、地域では必ずしも専門的な医療に結びついていなかった。
- ② 治療には精神科、脳神経内科、脳神経外科、小児科など複数の診療科で担われているが、有機的な連携がとりづらい状態にあった。
- ③ 一般医療機関・医師にてんかんに関する診療・情報などが届きにくく、適切な治療が行われにくい環境にあった。

（2）事業の目的

- ① 地域で柱となる専門医療機関を整備し、てんかん患者・家族が地域で安心して診療できるようになること。
- ② 治療に携わる診療科間での連携が図られやすいようにすること。
- ③ 行政機関（国・自治体）が整備に携わることで、医療機関間だけでなく多職種（保健所、教育機関等）間の連携の機会を提供すること。

（3）事業内容

平成27年度から平成29年度の3か年のモデル事業として開始され、モデル事業での実績を踏まえて平成30年度より自治体向け事業に位置付けられた。

① 目的

てんかん患者は全国に100万人と言われているが、専門の医療機関・専門医が全国的に少ないことが課題の一つであるので、てんかんの専門医療機関箇所数の増、まずは3次医療圏（都道府県）の設置を目指し、てんかん拠点病院を設置する自治体に対して国庫補助（1/2）する。

② 設置実績

令和7年2月末現在、てんかん支援拠点病院（以下「てんかん支援拠点病院」という）は30箇所：（内訳）

北海道（札幌医科大学附属病院）、宮城県（東北大学病院）、茨城県（筑波大学附属病院）、栃木県（自治医科大学病院）、群馬県（渋川医療センター）、埼玉県（埼玉医科大学病院）、千葉県（千葉県循環器病センター）、東京都（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院）、神奈川県（聖マリアンナ医科大学病院）、新潟県（西新潟中央病院）、石川県（浅ノ川総合病院）、山梨県（山梨大学医学部附属病院）、長野県（信州大学医学部附属病院）、静岡県（静岡てんかん・神経医療センター）、愛知県（名古屋大学医学部附属病院）、京都府（京都大学付属病院）大阪府（大阪大学医学部附属病院）、兵庫県（神戸大学付属病院）、奈良県（奈良医療センター）、鳥取県（鳥取大学病院）、岡山県（岡山大学てんかんセンター）、広島県（広島大学病院）、山口県（山口県立総合医療センター）、徳島県（徳島大学病院）、愛媛県（愛媛大学医学部附属病院）、福岡県（九州大学病院）、長崎県（長崎医療センター）、大分県（大分大学附属病院）、鹿児島県（鹿児島大学病院）、沖縄県（沖縄赤十字病院）とてんかん全国支援センター1箇所（国立精神・神経医療研究センター）が設置されている。

③ 主な事業内容

てんかん患者・家族の治療および相談支援、てんかん治療医療連携協議会の開催・運営、てんかん診療支援コーディネーターの配置、医療従事者（医師、看護師等）等向け研修、市民向け普及啓

発（公開講座、講演、リーフレットの作成等）であり、令和6年度は表のような活動が行われた。

④ 第8次医療計画との関係

第8次医療計画においては、てんかんを含む多様な精神疾患について、都道府県ごとに対応できる医療機関を明確にすることが求められており、また、本計画中で、「てんかん地域診療連携体制整備事業の取組を参考に」と記されていることから、てんかん支援拠点病院を活用した整備が図られることが求められている。

2. 第8次医療計画上のてんかんの位置づけ

（1）精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療（精神科医療・一般医療）、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合いが包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がある、このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に当たっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神の程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、一般医療機関、地域援助事業者、市町村などの重層的な連携による支援体制を構築することが必要である。

（2）多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築とそれに向けた医療機能の明確化

令和6年度からの第8次医療計画では、第7次医療計画に引き続き、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえて、多様な精神疾患と医療機関の役割分担・連携を推進できるよう、医療機能を明確化する方向性であり、医療機関は、都道府県拠点機能を担う医療機関、地域連携拠点機能を担う医療機関、地域精神科医療提供機能の担う医療機関に分けられる。

てんかんは、統合失調症、うつ・躁うつ病、認知症、児童・思春期精神疾患及び発達障害、依存症、PTSD、高次脳機能障害、摂食障害、精神科救急、身体合併症、自殺対策、災害精神医療、医療観察法とともに、多様な精神疾患・状態の一つとして組み入れられている。

3. てんかん支援拠点病院に係る事業実施に関する調査

今後のてんかん支援拠点病院の整備予定等を把握するため、令和7年1月に全都道府県を対象に調査を実施した。集計の結果は以下のとおりである。

【令和6年度調査集計結果（数字は回答自治体数。内容は回答時点。）】

1. 現在、てんかん支援拠点病院を設置する予定があるか。

① すでに指定している 30

（北海道、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、静岡県、長野県、山梨県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、愛媛県、福岡県、長崎県、大分県、鹿児島、沖縄県）

② 指定予定がある 1

③ 指定予定がない 16

2. 指定予定がない理由（未指定の自治体：複数回答可）

I. 財源を確保できない 6

II. 国の実施要綱上の指定要件が厳しい 1

III. 引き受けてくれる医療機関がない 7

IV. てんかんについて対応のノウハウがない 1

V. 別の補助金を投入し、十分対応できている 0

VI. 地域医療計画等の補助金以外の仕組みで十分対応できている 2

VII. 精神保健福祉センター等で受診勧奨から普及啓発まで十分対応できている 1

VIII. その他 9

・管内の実態を踏まえた上で検討が必要 3

・検討段階に至っていない 4

・精神科病院等で一定程度対応できている 1

・医療機関へ拠点機関としてのメリットを提案できない 1

3. てんかん対策についてのご意見等

- ・拠点病院設置のための財源確保が難しい。
- ・医療機関の協力を促すため全国医師会等に設置促進のための協力依頼を行っていただきたい。
- ・保健所や精神保健福祉センターにおいて相談対応を行っているが、てんかんに関する相談件数は少ない。
- ・医療機関の選定に時間を要する。

4. てんかんに関する研究事業

令和5年度は、てんかん地域診療連携体制整備事業の拡充の一助として、各地域でのてんかん診療支援連携の実態と既存の好事例を把握するため、障害者総合福祉推進事業において、「てんかん診療拠点病院等における心因性非てんかん性発作等の実態把握」を実施した。

心因性非てんかん性発作の患者の受診があるてんかん支援拠点病院等を対象として、心因性非てんかん性発作やてんかんではなかった症例の実態調査や好事例収集を実施して、てんかん支援拠点病院における高度な医療体制を示すとともに、より質の高い診療体制の整備や 関係医療機関での連携の必要性等が示されたところである。

5. 考察

(1) 事業の効果と意義

てんかん支援拠点病院の整備はここ数年で急速に拡充されてきており、設置自治体やてんかん支援拠点病院の関係者、日本てんかん学会、日本てんかん協会等の関係者のご尽力に感謝申し上げます。

また、てんかん支援拠点病院の効果は単にてんかん患者・家族の治療やQOLの向上の実績に留まらず

- ① 行政機関とつながることで、学校や医療機関以外の他機関（保健所、学校、ハローワークなど）との連携や協力が得られやすくなった。
 - ② 医療・保健・行政の意思疎通がしやすくなり、一次診療・二次診療施設への研修、普及啓発活動が活発になった。
 - ③ コーディネーターの配置などの契機となり、医療提供以外の取組みが進んだ。
- など、その意義と効果については評価されている。

（２）今後の課題と方策

関係各位の御尽力により、令和６年２月現在、てんかん地域診療連携体制整備事業に基づくてんかん支援拠点病院は全国３０自治体で設置されるに至ったものの、まだまだ、てんかんに関する医療・支援ニーズの高さに比べ、専門医療機関や専門医の少なさ、地域による医療の均てんかん化などが課題となっている。

今年度、てんかん支援拠点病院を未設置の自治体に対して事業実施に関する調査を実施したところであるが、てんかん支援拠点病院が未設置の理由については、自治体における事業実施のための財源の確保と、支援拠点病院となる医療機関の選定が課題となっている。本事業の予算は昨今の各自治体による指定の進捗にあわせ、さらなる予算の確保が求められているところである。ただし、本事業は裁量的補助事業であることから、地方自治体の予算措置はハードルが高い。そのため、引き続き本事業の実績と効果を着実にあげるとともに、広く国民や社会に目に見える形でその成果をアピールしていくことが求められる。

また、事業を実施しているてんかん支援拠点病院からは、事業自体の安定的な位置づけや診療報酬に関する要望のほか、体制整備事業において配置することとなっているてんかん診療支援コーディネーターの果たすべき役割等についての教育・研修の充実の必要性についての意見要望もあがっていたところ、令和２年度から、てんかん全国支援センター（国立精神・神経医療研究センター）において、「てんかん診療支援コーディネーター認定制度」が始まっており、今後、研修参加者あるいはてんかん拠点機関等からの御意見も伺いながら、てんかん診療支援コーディネーター研修の研修機会のさらなる充実が期待される。

さらに、てんかんは患者・家族だけでなく広く国民がその病気の特性や生活上の注意点さえ理解されていれば十分社会生活が営める病気であるにも拘わらず、病気に対する誤解や偏見によって、その活動や生き方が否応なく狭められている病気とも思われる。

日本てんかん協会をはじめ各関係団体においては、オンライン等を活用し、普及啓発が実施されたところであり、開催関係者の御尽力に感謝申し上げます。

今後も引き続き、てんかん全国支援センター、てんかん支援拠点病院、日本てんかん協会等の関係団体、地方自治体、厚生労働省が連携して普及啓発活動を継続して展開していくことが望まれる。

（主な方策）

- ① 全都道府県設置に向けての自治体への働きかけ
- ② 事業拡充に向けた国の予算の確保
- ③ てんかん学会等の関係学会と連携したコーディネーターの資質の向上
- ④ 日本てんかん協会等と連携した一般国民に対しての普及啓発

（３）おわりに

本事業の課題はてんかん支援拠点病院内の課題だけでなく、行政が課題解決に向けて検討を進める内容（予算の確保、事業の制度的安定、他職種・他科他機関連携等）も少なくない。

厚生労働省としては、引き続きてんかん全国支援センター及びてんかん支援拠点病院からの助言や提言を貴重な意見として真摯に受け止め、課題の改善に向けて自治体や関係機関との協力・連携体制の構築が進めていく必要があると考えている。

本事業の関係者は、

- ・てんかんという「病気」であることで夢や希望を諦める・諦めさせる社会にしない。
 - ・てんかんの患者・家族が、安心して自分らしく暮らせる社会を創っていく。
- を共通の理念として、引き続き協力・連携しててんかん対策の推進を進めていく必要がある。

厚生労働省におけるてんかん対策

～てんかん地域診療連携体制整備事業を中心に～

社会・援護局 障害保健福祉部
精神・障害保健課心の健康支援室
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

てんかんとは

様々な原因によってもたらされる慢性的脳疾患であって、大脳神経細胞の激しい電気的な乱れ（てんかん発作）を特徴とし、それにさまざまな臨床症状や検査所見がともなうもの

患者数

- 患者調査による推計患者数：47.0万人（令和5年）
- 文献等によれば、てんかんの発症率は0.5～1%との推計もあり、わが国でてんかん患者数は100万人にのぼる可能性がある。
- 平成24年度の厚生労働科学研究において、てんかんの中核群は有病率は千人当たり2,955人、周辺群も含めた有病率は千人当たり7,244人という結果がでており、日本の人口（127,799千人）に当てはめると、中核群で37.7万人、周辺群も含めると最大92.5万人という結果であった。

原因

- 大きくは症候性てんかんと特発性てんかに分けられる。
- 症候性てんかん
脳に何らかの障害や傷があることによって起こるてんかん（例）生まれたときの仮死状態や低酸素、脳炎、髄膜炎、脳出血、脳梗塞、脳外傷など
- 特発性てんかん
様々な検査をしても明らかな原因が見つからない、原因不明のてんかん

症状

- 意識の消失
- 全身を硬直させる「強直発作」
- ガクガクと全身がけいれんする「間代発作」
- 体を一瞬ビクッとさせる「ミオクローニー発作」
など様々な症状を認める

診断

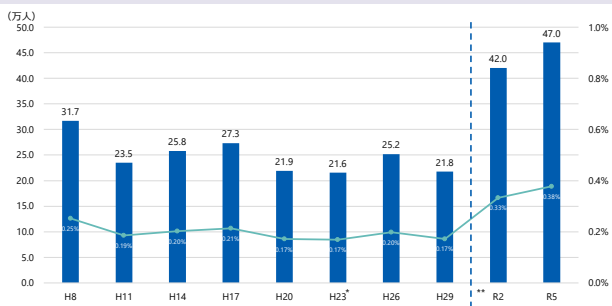
- 発作の種類と症状
- 脳波検査、脳磁図検査
- CT、MRI、SPECTなどの脳画像検査
- 血液検査
などから総合的に診断する

治療

- 抗てんかん薬*の内服が主
- 薬物療法で発作が抑制されない難治性てんかんに対しては、外科手術が検討されることもある
- 精神障害者保健福祉手帳の対象となる
- *抗てんかん薬：脳の神経細胞の電気的な興奮をおさえたり、興奮が他の神経細胞に伝っていかないようにすることで発作の症状をおさえる薬

てんかん患者数の経時変化

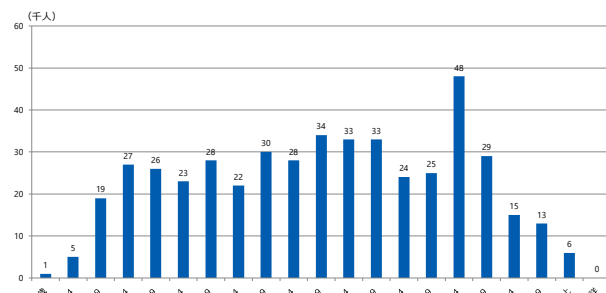
- 全人口の0.2～0.3%前後で推移している。



厚生労働省「患者調査」より精神・障害保健課で作成。
人口は人口推計（H17年、R2年は国勢調査）に基づく。
*当年度の石井基幹調査、当年度医療機関及び福祉施設等からの報告。
**R2年から患者数の推計に用いる平均診療報酬の算出において、前年度の日次調査日までの算定対象の上限を変更。
H29年までは31日以上であったが、R2年からは30日以上を除外して算出。

てんかんの年齢別患者数

令和5年患者調査より作成 総数：47.0万人



良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針

（平成26年3月7日 厚生労働省告示第65号）

三 多様な精神疾患・患者増への医療提供

5 てんかん

- ア てんかん患者は、適切な診断、手術や服薬等の治療によって症状を抑えることができる又は治癒する場合もあり、社会で活動しながら生活することができる場合も多いことから、てんかん患者が適切な服薬等を行うことができるよう、てんかんに関する正しい知識や理解の普及啓発を促進する。
- イ てんかんの診断を行うことができる医療機関の連携を図るため、専門的な診療を行うことができる体制を整備し、てんかんの診療ネットワークを整備する。

てんかんを巡る課題

- てんかんの診療拠点機関病院の整備
- てんかんの診療ネットワーク
- てんかんの普及啓発（一般国民向け）
- てんかん患者の実態把握
- てんかん診断法、新薬の研究開発
- 運転免許、就労支援、災害対応
- 幼稚園・学校現場などでの発作対応、公教育
- 患者の症状を教えるためのカード など

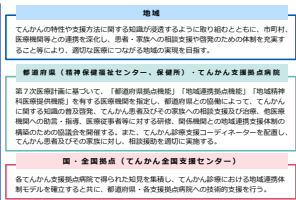
てんかん地域診療連携体制整備事業

令和7年度予算案(令和6年度予算額)：31百万円(31百万円)

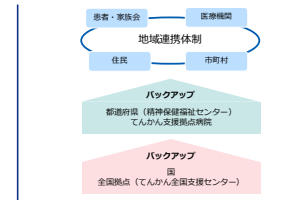
1 事業の目的

平成30年度からの第7次医療計画により、各都道府県において、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質な適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえ、多様な精神疾患等ごとに医療機能を明確化することとされており、令和6年度からの第8次医療計画においても当該方針を継続することとしている。国が国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターをてんかん全国支援センターに指定し、各都道府県において、てんかんの治療を専門的に行っている医療機関のうち、1箇所をてんかん支援拠点病院として指定し、各都道府県のてんかんの医療連携体制の構築に向けて、知見の集積、還元、てんかん診療のネットワーク作り等を引き続き進めていく必要がある。

2 事業の概要・スキーム



3 実施主体等



期待される成果

1. 地域住民や医療従事者に対して、てんかんに関する正しい知識の普及 2. てんかん診療における地域連携体制構築、てんかん診療の円滑化

事業内容

てんかんの専門医療機関の地域数の増加、まずは三次医療圏(都道府県)の設置を目指し、てんかん支援拠点病院を設置する都道府県に対して国庫補助(1/2)を行う。

主な事業内容

- てんかん患者・家族の治療及び相談支援
 - てんかん治療連携協議会の設置・運営
 - てんかん診療支援コーディネーター(※)の配置
 - 医療従事者(医師、看護師等)等向け研修
 - 市民向けの普及啓発(公開講座、講演、リーフレットの作成等)
- ※てんかん診療支援コーディネーター
自治体医療機関に所属し活動を果たし、てんかん患者及びその家族に対し相談支援を適切に実施する能力を有する医師、福祉に関する専門資格を有する者

てんかん支援拠点病院の要件

てんかんの治療を専門に行っている次に掲げる要件を全て満たす医療機関

- 日本てんかん学会、日本神経学会、日本精神神経学会、日本小児科神経学会、又は日本脳神経外科学会が定める専門医が1名以上配置されていること
- 脳神経検査やMRIが整備されているほか、発作時ビデオ脳波モニタリングによる診断が行えること
- てんかんの外科治療のほか、複数の診療科による集学的治療を行えること

厚生労働省(以下「省」)

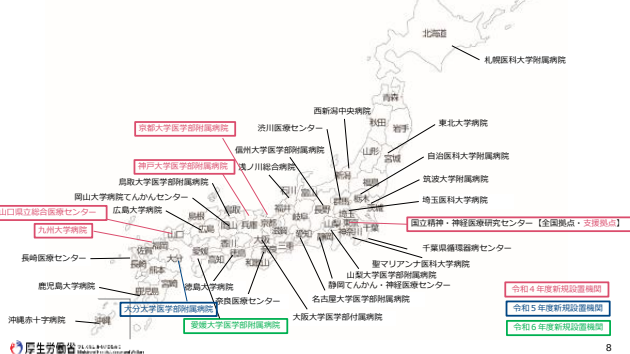
参画医療機関(令和6年5月時点)

- てんかん全国支援センター(30カ所)：国立精神・神経医療研究センター
- てんかん支援拠点病院(30カ所)：
 - 北海道(札幌医科大学附属病院)、宮城県(東北大学病院)、
 - 北海道(札幌医科大学附属病院)、宮城県(東北大学病院)、
 - 茨城県(筑波大学附属病院)、栃木県(自治医科大学附属病院)、
 - 群馬県(群馬大学附属病院)、埼玉県(埼玉医科大学病院)、
 - 千葉県(千葉県医療センター)、東京都(国立精神・神経医療研究センター)、
 - 東京都(国立精神・神経医療研究センター)、
 - 神奈川県(聖マリアンナ医科大学病院)、新潟県(新潟中央病院)、
 - 石川県(金沢総合病院)、山梨県(山梨大学医学部附属病院)、
 - 長野県(長野大学医学部附属病院)、
 - 静岡県(静岡てんかん・神経医療センター)、
 - 愛知県(名古屋大学医学部附属病院)、
 - 京都府(京都大学医学部附属病院)、
 - 大阪府(大阪大学医学部附属病院)、兵庫県(神戸大学医学部附属病院)、
 - 奈良県(奈良大学医学部附属病院)、鳥取県(鳥取大学医学部附属病院)、
 - 岡山県(岡山大学医学部附属病院)、広島県(広島大学病院)、
 - 山口県(山口県立総合医療センター)、徳島県(徳島大学病院)、
 - 愛媛県(愛媛大学医学部附属病院)、福岡県(九州大学病院)、
 - 長崎県(長崎大学医学部附属病院)、大分県(大分大学病院)、
 - 鹿児島県(鹿児島大学病院)、沖縄県(沖縄赤十字病院)

7

てんかん全国支援センター及びてんかん支援拠点病院(令和6年5月時点)

- てんかん全国支援センター：全国1カ所
- てんかん支援拠点病院：全国30カ所



8

てんかん地域診療体制の成果と課題

成果

- 医療機関以外の他機関(保健所、学校、ハローワークなど)との連携が図られやすくなった。
- 医療・保健・行政の意思疎通がしやすくなり、一次診療・二次診療施設への研修、普及啓発活動が活発になった。
- コーディネーター配置などの契機となり、医療提供以外の取組が進んだ。

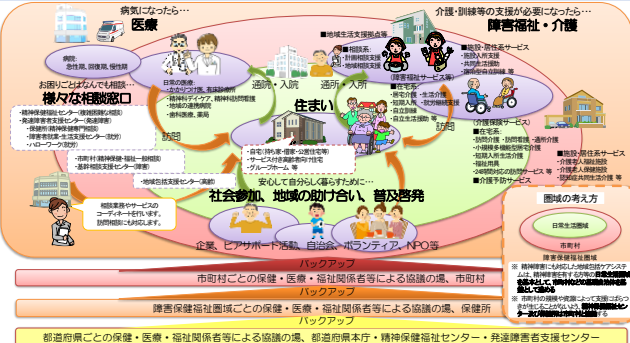
課題

- 全部道府県設置に向けての自治体への働きかけ
- 事業拡充に向けた予算の確保
- 日本てんかん学会等の関係学会と連携したコーディネーターの人材確保・質向上
- 日本てんかん協会等と連携した一般国民に対する普及啓発

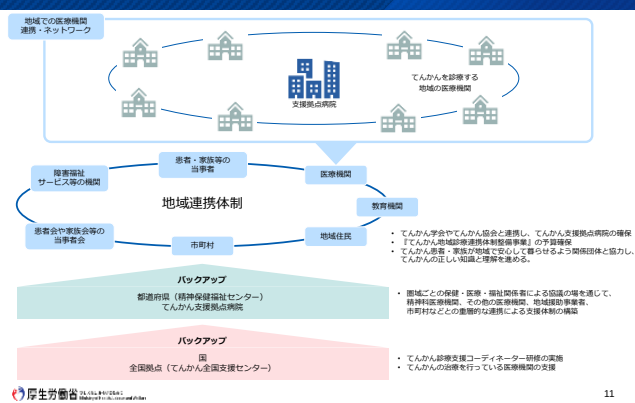
9

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(イメージ)

- 精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉、介護、住まい、社会参加(就労など)、地域の助け合い、普及啓発(教育など)が包括的に確保された精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指す必要があり、同システムは地域共生社会の実現に向けたうえで不可欠なものである。
- このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉、介護事業者が、精神障害の有無や程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、市町村ごとの保健・医療・福祉関係者等による協議の場を通して、精神科医療機関、その他の医療機関、地域活動事業、当事者、ピアサポーター、家族、居住支援関係者などの連携の基盤を整備していくことが必要。



今後のてんかん対策



11

2. 整備事業を活かす地域の実状に合った社会資源のつながり

公益社団法人 日本てんかん協会（波の会）

会長 梅本 里美

伝統を重んじながらも新しい時代に合った取り組みを模索中

わが国のてんかん（制圧）運動が始まって、2023年に50年を迎えた。そして、その流れを継承した当協会は、2026年10月に設立50年の節目を迎える。昭和、平成、令和と、多くの先輩たちが粘り強く活動を続け、50年前に灯った小さなあかりも、今では簡単には消えない全国を照らせる大きな光の輪となった。全国に地域活動の拠点（支部）を配し、てんかん情報誌「波」は毎月欠かさず発行し続け、会員は電子版も読むことができる。

一方で、インターネット社会が到来し、てんかん関連情報も毎日大量に流されている。本当に必要としている人に、正しい情報が速やかに届けられるよう、私たちも新しい時代に合った情報提供の方策を模索している。

新しい社会のうごきに埋没しないてんかん運動

コロナ禍をきっかけにオンライン診療が拡大し、マイナンバーカードと保険証や運転免許証の連動も話題となった。個人情報管理とは別に、自立支援医療制度への波及効果や手続きの簡素化などに、協会も声を上げている。

また、ドラッグ・ラグ（ロス）解消から大麻取締法等の改正、ついにJR各社も対象となる手帳サービス拡大、てんかんのある人も対象の旧優生保護法補償金等の支給、そして新たな地域医療構想改革でもテーマとなる在宅医療や介護についての研鑽など、てんかんのある人とその家族支援の立場から、意見の共有を行ってきた。

地域に根ざすネットワークが大切な整備事業

全国30カ所で取り組まれる整備事業も、市民や医療関係者の認知度はまだ低い。自治体でも、数ある拠点事業の一つと捉えるところもある。てんかん領域の自己満足とされないよう、さらに地域に根ざす活動を期待する。

協会の活動も、担い手の高齢化や新しい環境での対応の遅れなどから、地域活動の停滞が目立つ。そこで今年度は、特に2カ所で整備事業との連携に挑戦した。一つは徳島県で、拠点（徳島大学病院）と春（JEPICA 総会）と秋（協会全国大会）に連携事業を実施し、県民へのてんかん啓発などの成果を得た。もう一つは、整備事業未実施の岐阜県。てんかん診療従事者、自治体、協会が整備事業の情報交換を重ね、来年度（秋）協会全国大会を招致し、県内周知と地域性を活かした事業のあり方を検討する。

これまで、てんかん診療の担い手がある地域で事業を推進してきた。これからは、担い手がない地域での模索が増える。改めて整備事業の目的、拠点の要件・役割を各地の実状に合わせ柔軟運用できるよう議論を重ね、自治体や関係者に周知する必要がある。全国協議会でも、自治体関係者の発言・研鑽の機会が必要と考える。

「てんかん相談ダイヤル」や支部活動担い手との協働

各地の整備事業から「十分な相談事業の取り組みは困難」との意見を受け、ワンストップ事業や各地との連携を目指す協会の「てんかん相談ダイヤル（☎03-3232-3811）」今年度も、毎週3回実施した（詳細は次頁参照）。

限られた専門相談員、専用回線の状態を一日も早く克服し、フリーダイヤルで平日の日中（9時～17時）複数回線での対応をめざして、公的な助成事業化の道を模索して自治体などと協議を重ねている。

一方で、福岡県が進めるように、拠点の各事業を協会支部と役割分担をして共催する取り組みの成果に期待する。現在は、県民向けの啓発事業が中心であるが、相談活動についても一定の研修を経た協会支部関係者が、拠点の担い手の一人として事業参加することについても、今後積極的に取り組んでもらいたい。拠点施設との連携により、協会支部活動が活性化することにも期待が膨らむ。

2024年度 電話相談集計

1 相談期間： 2024年4月1日～2025年2月21日現在

2 実施日： 月・水・金（祝日除く）12:00～17:00

3 実施日数： 127日

4 相談件数： 875件 （平均 6.8件／日）

5 相談概要：

相談者は、協会のホームページ(672件／71%)で、相談ダイヤルを知って連絡をしてくる非会員(664／99%)がほとんどである。次いで、病院からの紹介や病院などに掲示されているポスターやチラシを見て連絡してくる相談者が多い(44件／4.6%)。また会員からの相談は少ない(30／4.6%)。また、大半の相談者が一回限りの相談(76%)となっており、リピート率は低い。

6 実施体制：

相談員総数 3名

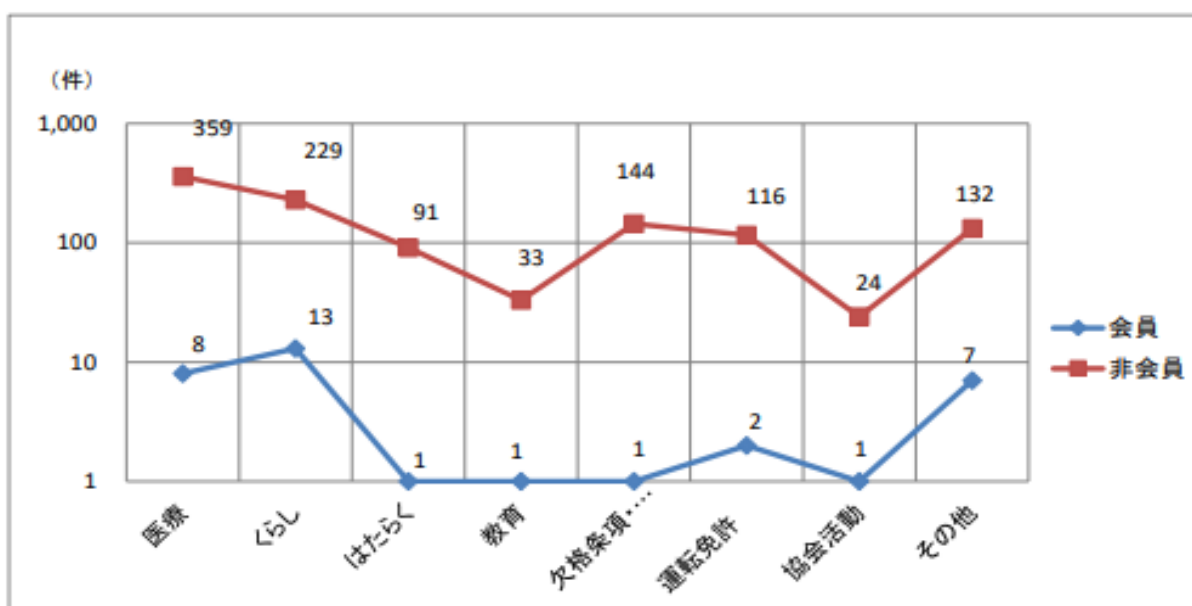
親(ピアカウンセリング)、薬剤師、臨床心理士、公認心理士

7 相談分析：

主な相談（複数相談あり）

	医療	くらし	はたらく	教育	欠格条項・権利 (運転免許を除く)	運転免許	協会活動	その他	計
会 員	8	13	1	1	1	2	1	7	34
非 会 員	359	229	91	33	144	116	24	132	1,128
計	367	242	92	34	145	118	25	139	1,162

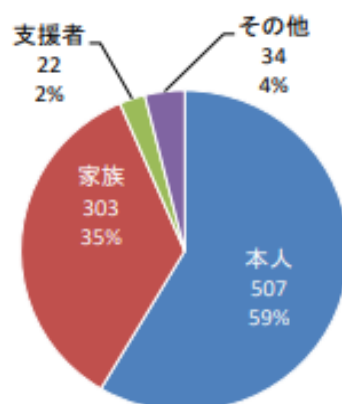
n = 875



相談者自身について

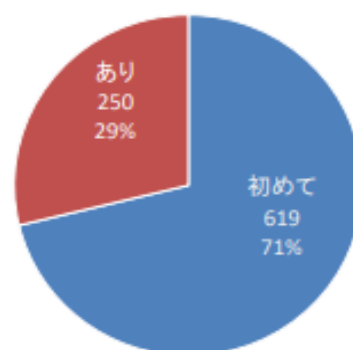
立場	件数
本人	507
家族	303
支援者	22
その他	34
不明	9
n	875

《相談者》



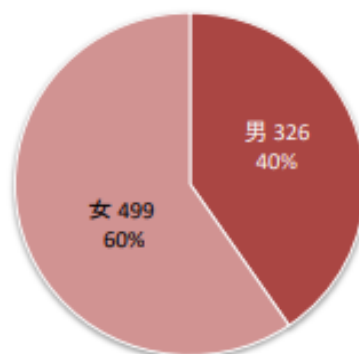
相談経験	件数
初めて	619
あり	250
不明	6
n	875

《相談経験》



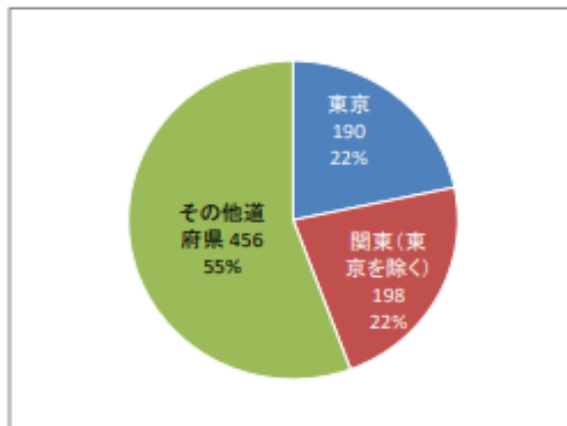
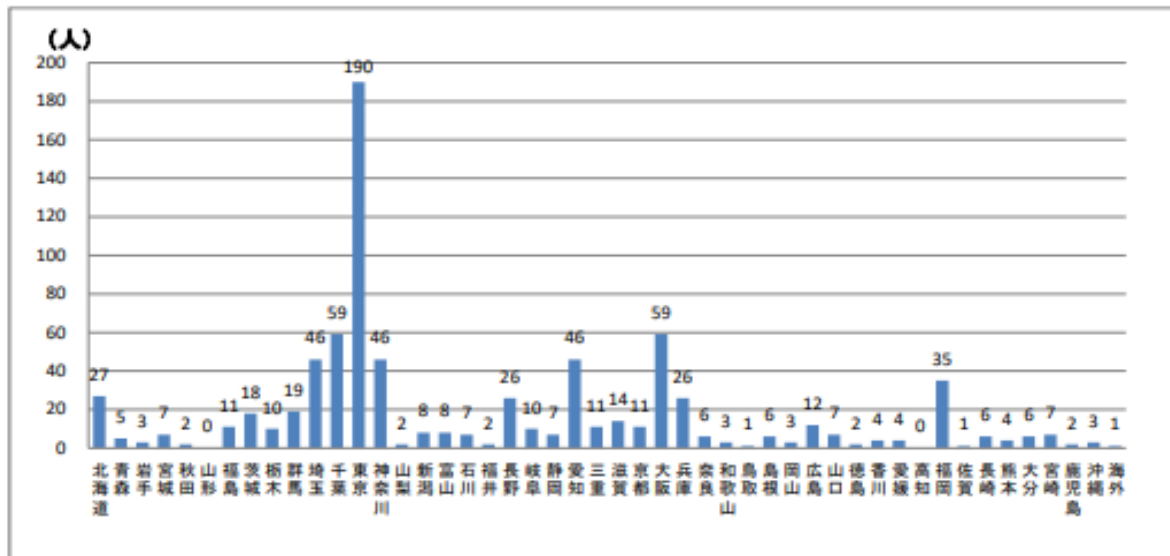
性別	件数
男	349
女	514
不明	12
n	875

《性別》



※不明は含まず。

《都道府県別》

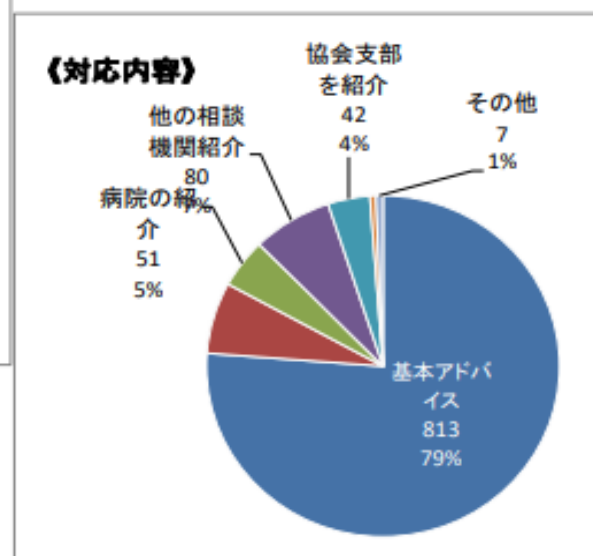


n = 875

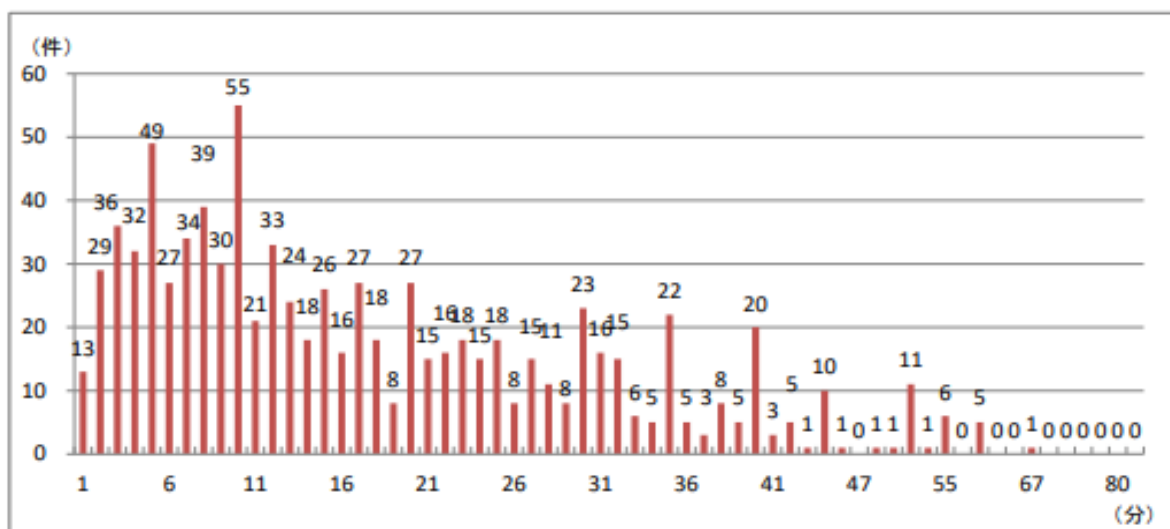
※不明は含まず。

(複数回答あり)

n = 875

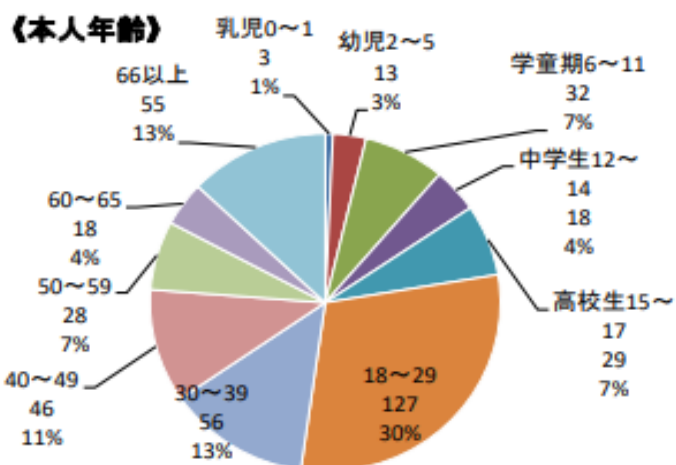


《対応時間別》



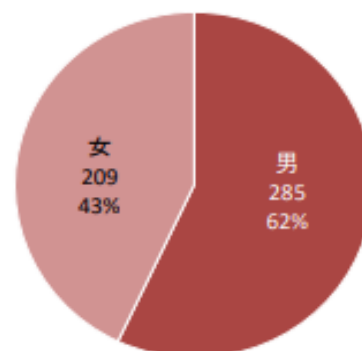
てんかんのある本人について

本人年齢	件数
乳児0～1	3
幼児2～5	13
学童期6～11	32
中学生12～14	18
高校生15～17	29
18～29	127
30～39	56
40～49	46
50～59	28
60～65	18
66以上	55
不明	450
n	875



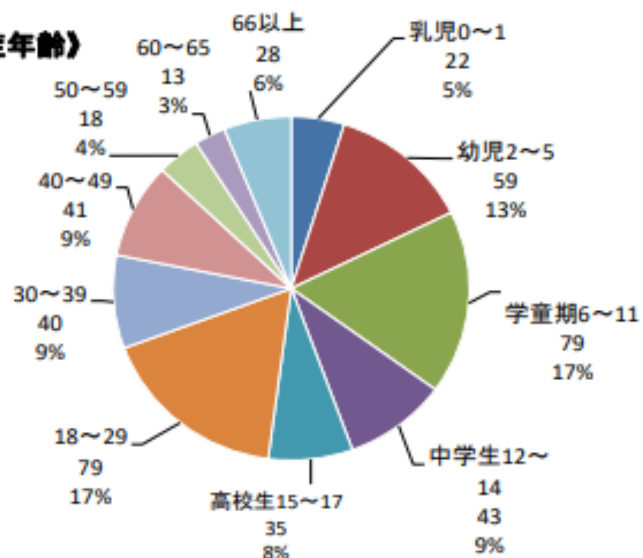
性別	件数
男	277
女	209
不明	389
n	875

《性別》



発症年齢	件数
乳児0～1	22
幼児2～5	59
学童期6～11	79
中学生12～14	43
高校生15～17	35
18～29	79
30～39	40
40～49	41
50～59	18
60～65	13
66以上	28
不明	418
n	875

《発症年齢》



※不明は含まず。

3. てんかん地域診療連携体制整備事業

てんかん全国支援センター報告

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

てんかん診療部、総合てんかんセンター

てんかん全国支援センター

中川栄二

連絡先

〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1

国立精神・神経医療研究センター病院 てんかん診療部

中川栄二

電話 042-341-2711 FAX 042-346-1705

メールアドレス nakagawa@ncnp.go.jp

Eiji Nakagawa, M.D., Ph.D.

Department of Epileptology, National Center Hospital,

National Center of Neurology and Psychiatry

【総括】わが国のてんかん医療は、これまで小児科・精神科・脳神経内科・脳神経外科などの診療科により担われてきた経緯があり、その結果、多くの地域で、どの医療機関がてんかんの専門的な診療をしているのか、患者ばかりでなく医療機関においても把握されていない状況が生まれている。一般の医師へのてんかん診療に関する情報提供や教育の体制は未だ整備されていないなど、てんかん患者が地域の専門医療に必ずしも結びついていない。このような現状を踏まえ、各都道府県において、てんかん対策を行う医療機関を選定し、てんかんの治療を専門に行っている医療機関のうち1か所をてんかん診療拠点機関として指定し、専門的な相談支援、他の医療機関、自治体等や患者の家族との連携・調整を図る「てんかん地域診療連携体制整備事業」が2015年からモデル事業として開始された。3年間のモデル事業を経て2018年から本事業となった。てんかん診療拠点機関の業務は、てんかん患者及びその家族への専門的な相談支援及び治療、管内の医療機関等への助言・指導、精神保健福祉センター、保健所、市町村、福祉事務所、公共職業安定所等との連携・調整、医療従事者、関係機関職員、てんかん患者及びその家族等に対する研修の実施、てんかん患者及びその家族、地域住民等への普及啓発活動である。このてんかん支援事業で重要な役割を渡すのが、てんかん診療支援コーディネーターである。コーディネーターの要件は、精神障害者福祉に理解と熱意を有し、てんかん患者及びその家族に対し、相談援助を適切に実施する能力を有し、医療・福祉に関する国家資格を有することである。コーディネーターの教育、育成のためコーディネーター研修・認定制度を2020年度から開始した。また、てんかん診療のすそ野を広げるため「てんかん支援ネットワーク」として全国のてんかん診療を行っている医療施設を全国てんかん支援拠点のホームページで公開している。

I. 第7次医療計画とてんかん医療政策

精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、精神科医療・一般医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合いが包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がある。このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に当たっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神の程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、一般医療機関、地域援助事業者、市町村などの重層的な連携による支援体制を構築することが必要である。2018年からの第7次医療計画では、てんかんは、統合失調症、うつ病等、認知症、児童・思春期精神疾患、発達障害、依存症、PTSD、高次脳機能障害、摂食障害、精神科救急、身体合併症、自殺未遂、PTSD、災害医療、医療観察とともに、精神疾患・状態の一疾患として組み入れられている⁽¹⁻⁸⁾。

II. てんかん地域診療連携体制整備事業

てんかんは、小児から高齢者まで、どの年齢でも誰でもが発症する可能性がある罹病率が0.8-1%と患者数の多い病気であり、わが国では約100万人の患者が推計されている。高齢者人口の増加しているわが国では、特

に高齢者の発症率が高くなり、今後更にてんかん医療の必要性が増加することが予想される。てんかん患者の70-80%は適切な内科的・外科的治療により発作が抑制され、日常生活や就労を含む社会生活を営むことが可能である。しかしながら、わが国では成人てんかんを診る専門医が不足しており、てんかんに対する知識不足と偏見から、患者の社会進出が妨げられている。日本てんかん学会が認定しているてんかん専門医の所属科は、小児科の専門医比率が高く、脳神経内科、脳神経外科、精神科の成人科の専門医が少ない。また、てんかん専門医の極端な地域偏在が認められている（図1-2）。また、地域で必ずしも専門的な医療に結びついておらず、治療には小児科、精神科、脳神経内科、脳神経外科など複数の診療科で担われているが、てんかんに関する診療・情報などが届きにくく適切なてんかんの移行期医療が円滑に行われていないのが現状である。こうした背景を踏まえ、2015年度から厚生労働省が8つのてんかん地域拠点機関を選び「全国てんかん対策地域診療連携整備体制モデル事業」を開始した。モデル事業での実績を踏まえて2018年度より「てんかん地域診療連携体制整備事業（てんかん整備事業）」となった。てんかん整備事業では、てんかん支援拠点病院を設置する自治体に対して国庫補助（事業予算の半額補助）が行われている。本事業は、ピラミッド型の医療連携体制ではなく、複数の医療機関が横に連携して、それぞれが専門とする領域でてんかん診療を支えるコンソーシアム型の連携体制構築を目指している⁽¹⁻⁸⁾（図3-6）。

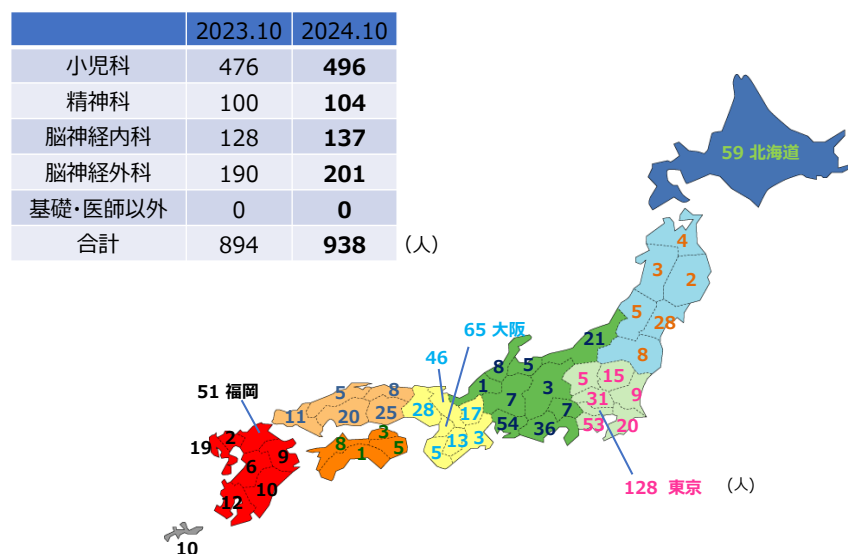
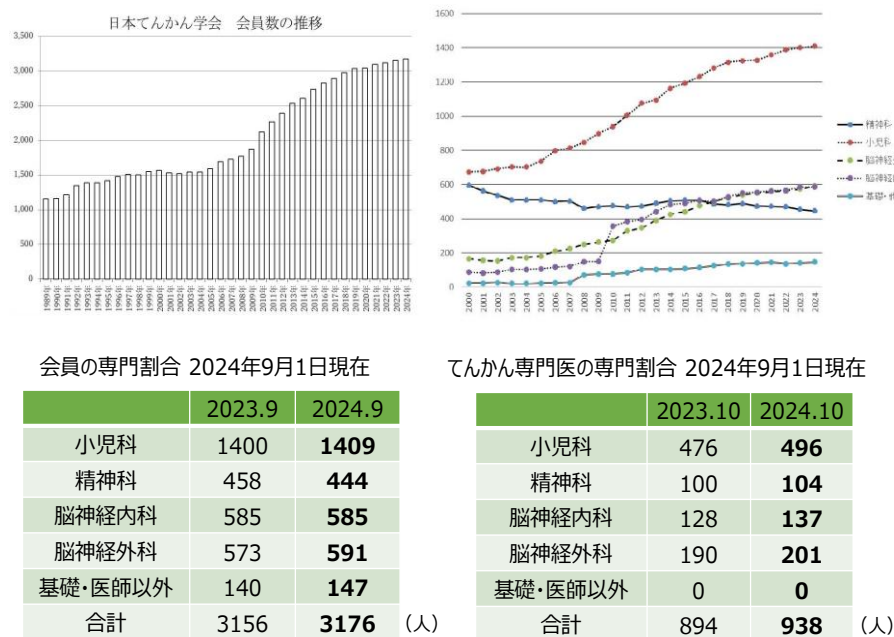




図 3. てんかん地域診療連携体制構築

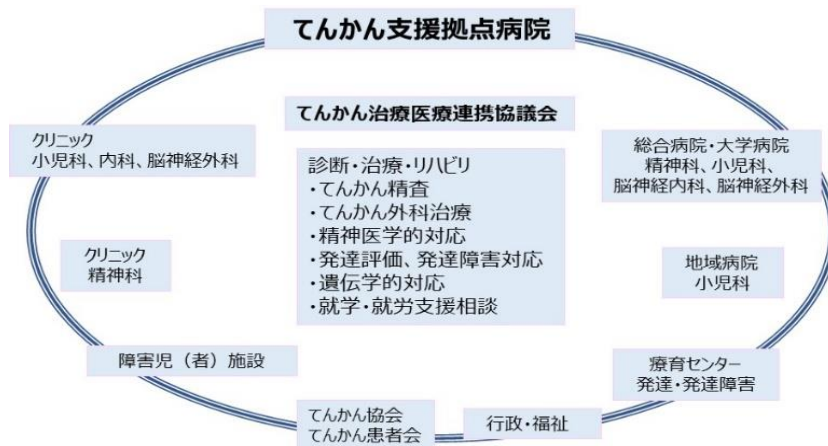


図 4. てんかん地域診療コンソーシアム

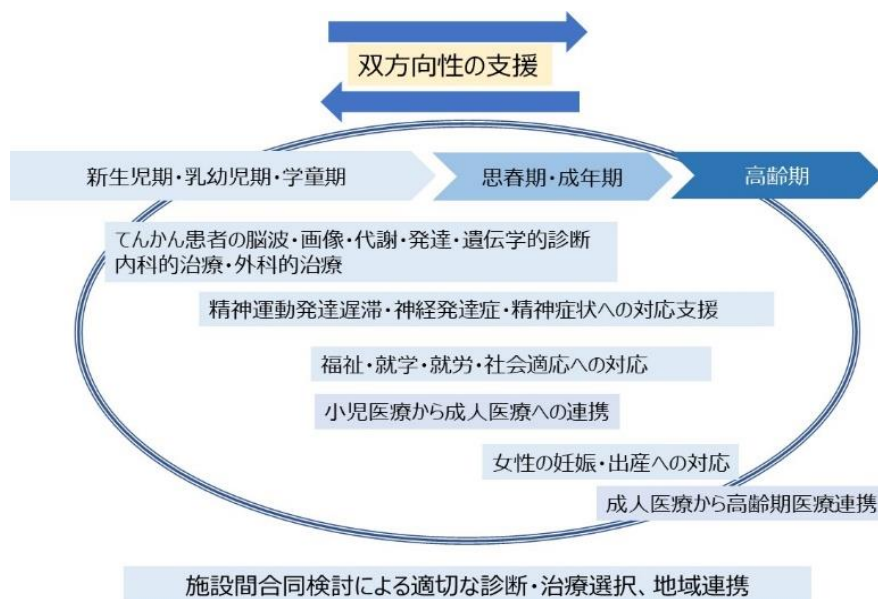


図 5. てんかん移行期医療

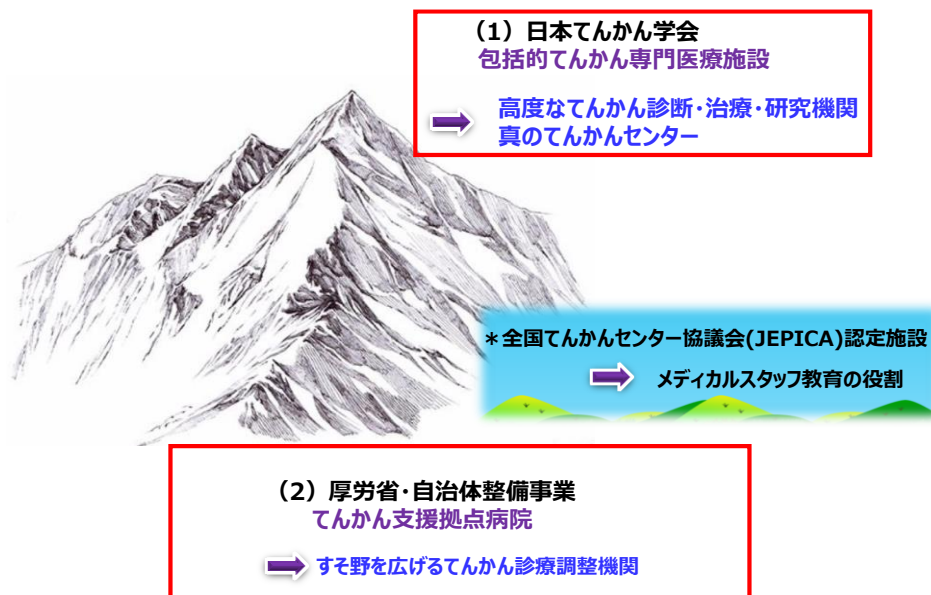


図 6. 本邦におけるてんかん医療体制の構築

Ⅲ. てんかん地域支援拠点の要件と業務

各自治体により次に掲げる要件を全て満たす医療機関 1 か所がてんかん支援拠点として指定されている。日本てんかん学会、日本神経学会、日本精神神経学会、日本小児神経学会、日本脳神経学会が定める専門医が 1 名以上配置されていること、脳波検査や MRI 検査が整備されていること、発作時ビデオ脳波モニタリングによる診断が行えること、てんかんの外科治療のほか、複数の診療科による集学的治療を行えることが指定要件である。てんかん支援拠点の業務は、てんかん患者及びその家族への専門的な相談支援及び治療、管内の医療機関等への助言・指導、関係機関（精神保健福祉センター、管内の医療機関、保健所、市町村、福祉事務所、公共職業安定所等）との連携・調整、医療従事者、関係機関職員、てんかん患者及びその家族等に対する研修の実施、てんかん患者及びその家族、地域住民等への普及啓発活動である。2024 年度末にはてんかん支援病院は、各都道府県で 30 施設に指定された⁽¹⁻⁸⁾（図 7）。

てんかん全国支援センター（全国 1 か所：NCNP）
てんかん支援拠点病院（全国 30 か所）
2024 年 12 月現在

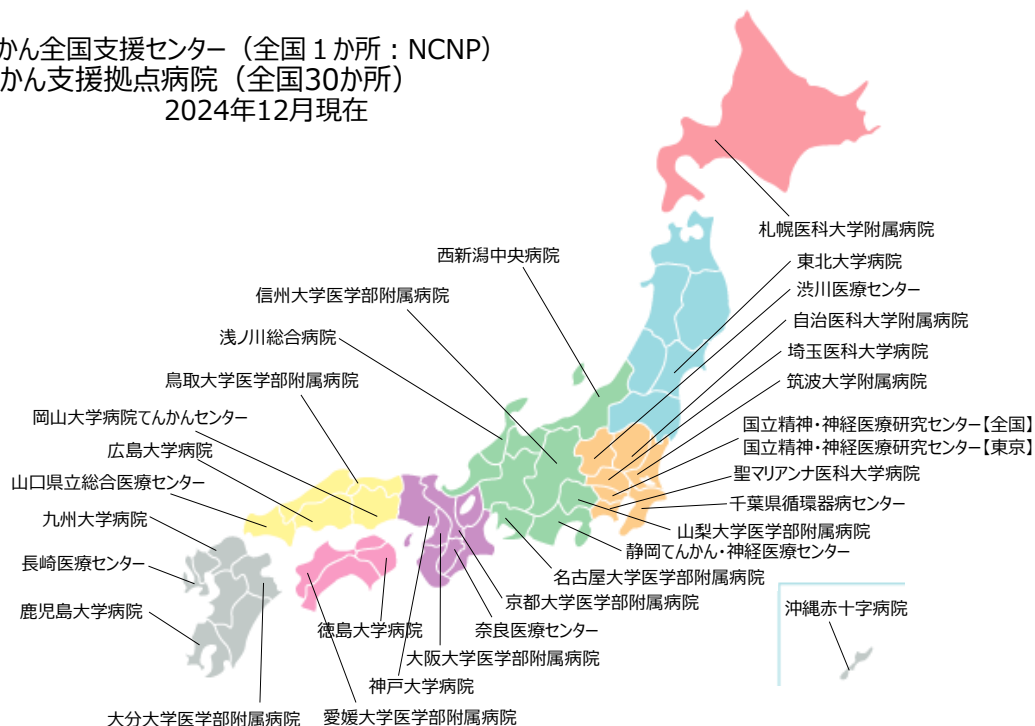


図 7. てんかん全国支援センター及びてんかん支援拠点病院

IV. てんかん診療支援コーディネーター認定制度

てんかん拠点病院は、上記の業務を適切に行うため、てんかん診療支援コーディネーターを配置する必要がある。てんかん診療支援コーディネーターの要件は、精神障害者福祉に理解と熱意を有すること、てんかん患者及びその家族に対し相談援助を適切に実施する能力を有すること、医療・福祉に関する国家資格を有することである。てんかん診療支援コーディネーターの具体的な業務としては、てんかん患者及びその家族への専門的な相談支援及び助言、管内の連携医療機関等への助言・指導、関係機関（精神保健福祉センター、管内の医療機関、保健所、市町村、福祉事務所、公共職業安定所等）との連携・調整、医療従事者、関係機関職員、てんかん患者及びその家族等に対する研修の実施、てんかん患者及びその家族、地域住民等への普及啓発活動である。これらの活動を支援するため、2020年度からてんかん全国支援センターが、定期的なてんかん診療支援コーディネーター研修会と認定制度を開始した。てんかん診療支援コーディネーター認定のための条件として、3時間以上のてんかんに関する下記の講義・研修を3年間に6回以上受講することが認定条件である。てんかん全国支援センターが行う研修会（年2回開催）、全国てんかんセンター協議会（JEPICA）での研修会、各地域てんかん支援拠点病院が行う研修会、てんかん学会、国際抗てんかん連盟開催学会を認定対象研修会としている。てんかん診療認定コーディネーターは3年ごとの更新で、2020年度から認定証の交付を行っている⁶⁻⁸⁾（図8-11）。

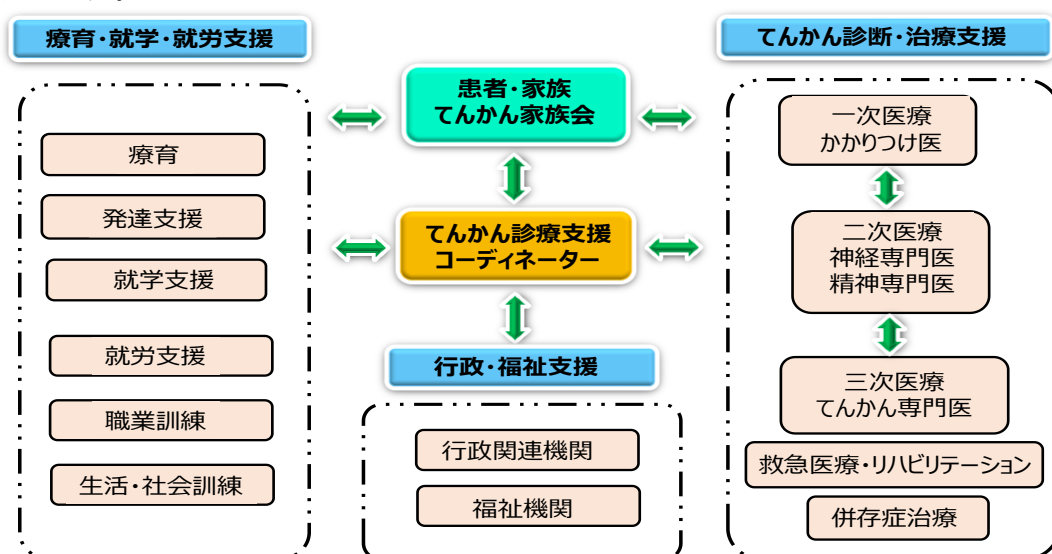


図8. てんかん診療支援コーディネーターの役割

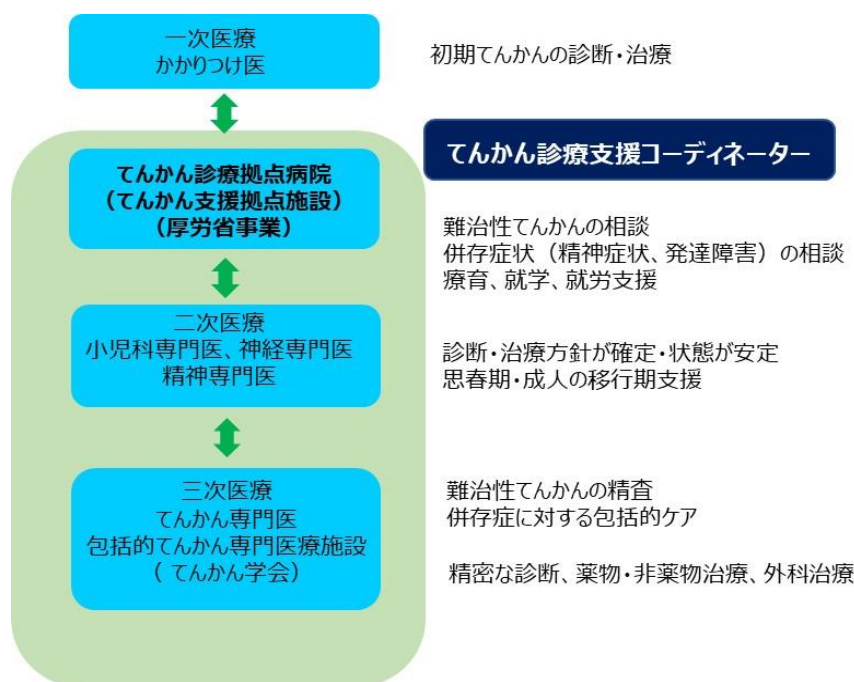


図9. てんかん診療支援の流れ

過去の研修会での受講者数					
2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	総受講者集
148	287	451	522	290	1698
職種別受講者数（累計）					
医師	看護師	SW	その他		計
301	298	355	744		1698
受講証発行数					
2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	総発行数
148	147	287	321	182	1085
職種別受講証発行数					
医師	看護師	SW	その他		総発行数
177	253	369	286		1085
認定証発行数					
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計
6	32	49	51	37	175
職種別認定証発行数（累計）					
医師	看護師	SW			計
33	50	92			175

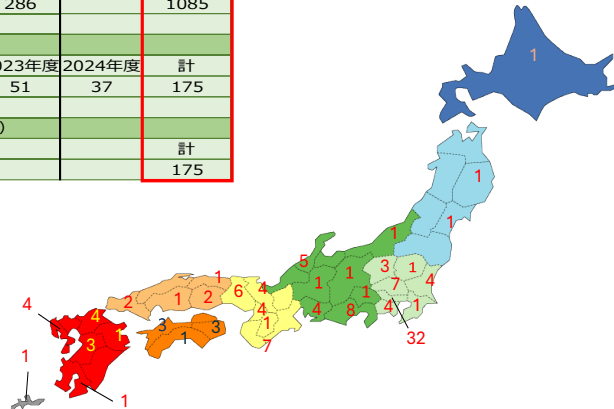
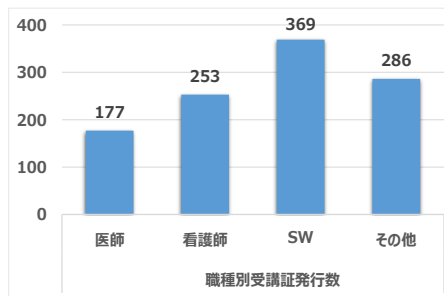
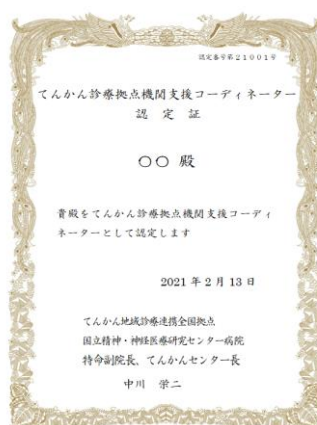


図 10. てんかん診療支援コーディネーター認定証発行者数（2024 年 12 月現在）



受講証発行数 1085

認定証発行数 175

職種別認定証発行数

- 職種別認定証発行数（累計） 医師
- 職種別認定証発行数（累計） 看護師
- 職種別認定証発行数（累計） SW

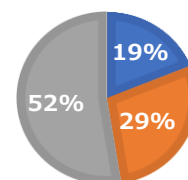


図 11. てんかん診療支援コーディネーター受講証・認定証

- (1) 2024 年度第 1 回てんかん診療支援コーディネーター研修会 2024 年 7 月 21 日（日）
- 全国てんかん地域診療支援整備事業の現況と新規抗てんかん薬：
NCNP てんかん診療部 中川 栄二
 - てんかんと発達障害：個別支援の必要性と心理的アプローチ：
埼玉医科大学医学部総合医療センター神経精神科 倉持 泉
 - てんかんと看護：NCNP 3 南病棟 原 稔枝
 - 保育士の立場で、小児てんかんと療育：静岡てんかん・神経医療センター 高橋 輝
 - てんかんの遺伝学的検査：NCNP 脳神経小児科 竹下 絵里
 - てんかん外科（DBS）：NCNP 脳神経外科 木村 唯子
 - 認知症とてんかんについて：NCNP 脳神経内科 金澤 恭子
 - てんかん患者さんの社会復帰支援・精神科デイケアについて：
NCNP 精神リハビリテーション部 田中 優

(2) 2024 年度第 1 回全国てんかん対策連絡協議会

1. 厚生労働省からの挨拶・報告
2. てんかん学会からの挨拶（報告） 川合 謙介 理事長
3. てんかん協会からの挨拶・報告 梅本 里美 理事長
4. 全国てんかん支援拠点からの報告 中川 栄二
5. てんかん地域支援施設からの報告
（テーマ）てんかん治療医療連携協議会の運営・活動について

- 1) 筑波大学附属病院
- 2) 信州大学医学部附属病院
- 3) 山口県立総合医療センター

2024年度第1回てんかん診療支援コーディネーター研修会と
全国てんかん対策連絡協議会のお知らせ

2024
7/21 日 ZOOMウェビナーで開催
10:00～14:30 参加費無料

以下URLもしくはQRコードより事前登録してください。
ご参加用リンクを送付いたします。

https://us02web.zoom.us/join/register/WN_hz2KYPE2T-2WQKXIV0dJg

てんかん診療支援コーディネーター研修会プログラム（各講演研修30分）
（敬称略）

1. 全国てんかん地域診療支援整備事業の現況と新規抗てんかん薬／中川 栄二
2. てんかんと発達障害：個別支援の必要性と心理的アプローチ／倉持 泉
3. てんかんと看護／原 稔枝
4. 保育士の立場で、小児てんかんと療育／高橋 輝

12時～12時半休憩

5. てんかんの遺伝学的検査／竹下 給里
6. てんかん外科（DBS）／木村 唯子
7. 認知症とてんかんについて／金澤 恭子
8. てんかん患者さんの社会復帰支援・精神科ケアについて／田中 優

15時～
2024年度第1回全国てんかん対策連絡協議会
ZOOMミーティングで開催

次ページの注意事項を
よくお読みになってください

2024年度第1回てんかん診療支援コーディネーター研修会と
全国てんかん対策連絡協議会のお知らせ

2024年度第1回全国てんかん対策連絡協議会
2024年7月21日（日）15時～
ZOOMミーティングで開催

（敬称略）

1. 厚生労働省からの挨拶・報告（10分）
2. てんかん学会からの挨拶（報告） 川合 謙介 理事長（10分）
3. てんかん協会からの挨拶・報告 梅本 里美 理事長（10分）
4. 全国てんかん支援拠点からの報告 全国てんかん支援拠点 中川 栄二（10分）
5. てんかん地域支援施設からの報告（各15分間）
（テーマ）てんかん治療医療連携協議会の運営・活動について

- 1) 筑波大学附属病院
- 2) 信州大学医学部附属病院
- 3) 山口県立総合医療センター
6. 総合討論

15時からの2024年度第1回全国てんかん対策連絡協議会については、
参加対象者の方へ個別にZOOM招待メールを送付いたします。
コーディネーター研修会だけでなく協議会も参加したい方は、担当者までメールでご連絡ください。

次ページに注意事項があります。
よくお読みの上、お申込み下さい

図 12. てんかん診療支援コーディネーター研修会・全国てんかん対策連絡協議会

(3) 2024 年度第 2 回てんかん診療支援コーディネーター研修会 2024 年 12 月 22 日（日）

1. 全国てんかん地域診療支援整備事業の現況と新規抗てんかん薬：
NCNP てんかん診療部 中川栄二
2. てんかん外科治療と看護：NCNP 病棟師長 原 稔枝
3. てんかん治療における家族支援と発達支援：静岡てんかん・神経医療センター 高橋 輝
4. プレコンセプションケア てんかんの方が妊娠する前に伝えたいこと：
横浜こころと脳波・てんかんのクリニック 原 恵子
5. 韓国でのてんかん患者会についての現状：韓国 심재신 Shim JaeShin
6. 小児てんかん外科の術前説明で話していること：
長崎医療センター 脳神経外科 小野智憲
7. 小児科からの精神科医療：NCNP てんかん診療部 中田千尋
8. てんかんの突然死：東北大学病院てんかん科 神 一敬

(4) 2024 年度第 2 回全国てんかん対策連絡協議会

1. 厚生労働省からの挨拶・報告
 2. てんかん学会からの挨拶（報告） 川合謙介 理事長
 3. てんかん協会からの挨拶・報告 梅本里美 理事長
 4. 全国てんかん支援拠点からの報告 中川栄二
 5. てんかん地域支援施設からの報告
- テーマ：てんかん相談支援におけるてんかん診療コーディネーターの役割
- ・群馬県 独立行政法人国立病院機構渋川医療センター
 - ・埼玉県 埼玉医科大学病院
 - ・山梨県 山梨大学医学部附属病院

**2024年度第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会と
全国てんかん対策連絡協議会のお知らせ**

**2024
12/22日** ZOOMウェビナーで開催
参加費無料

10:00～14:30

以下URLもしくはQRコードより**事前登録**してください。
ご参加用リンクを送付いたします。

https://us02web.zoom.us/join/register/WN_uNgHBJHFTYqLD310_CIA9A

てんかん診療支援コーディネーター研修会プログラム (各講演研修30分)
(敬称略)

1. 全国てんかん地域診療支援整備事業の現状
／NCNPてんかん診療部 中川 栄二
2. てんかん外科治療と看護／NCNP病棟師長 原 稔枝
3. てんかん治療における家族支援と発達支援
／静岡てんかん・神経医療センター療育指導室 高橋 輝
4. プレコンセプションケア てんかんの方が妊娠する前に伝えたいこと
／横浜こころと脳波・てんかんのクリニック 原 恵子

12時～12時半休憩

5. 韓国のてんかん患者会についての現状／韓国 심재신 Shim JaeShin
6. 小児てんかん外科の術前説明で話していること
／長崎医療センター脳神経外科 小野 智恵
7. 小児科からの精神科医療／NCNPてんかん診療部 中田 千尋
8. てんかんの突然死／東北大学病院てんかん科 神 一敬

15時～
**2024年度第2回全国てんかん対策連絡協議会
ZOOMミーティングで開催**

次ページの注意事項を
よくお読みになってください

**2024年度第2回てんかん診療支援コーディネーター研修会と
全国てんかん対策連絡協議会のお知らせ**

2024年度第2回全国てんかん対策連絡協議会
2024年12月22日（日）15時～
ZOOMミーティングで開催

(敬称略)

1. 厚生労働省からの挨拶・報告 (10分)
2. てんかん学会からの挨拶(報告) 川合 謙介 理事長 (10分)
3. てんかん協会からの挨拶・報告 梅本 里美 理事長 (10分)
4. 全国てんかん支援拠点からの報告 中川 栄二 (10分)
5. てんかん地域支援施設からの報告 (各15分)
(テーマ) てんかん相談支援におけるてんかん診療コーディネーターの役割
1)群馬県 独立行政法人国立病院機構渋川医療センター
2)埼玉県 埼玉医科大学病院
3)山梨県 山梨大学医学部附属病院
6. 総合討論

15時からの2024年度第2回全国てんかん対策連絡協議会については、
参加対象者の方へ個別にZOOM招待メールを送付いたします。
コーディネーター研修会だけでなく協議会も参加したい方は、担当者までメールでご連絡ください。

次ページに注意事項があります。
よくお読みの上、お申込み下さい



図 13. てんかん診療支援コーディネーター研修会・全国てんかん対策連絡協議会

V. てんかん支援ネットワーク

「てんかん診療ネットワーク」は、よりよいてんかん医療の推進を目的として、当初は、厚労科研費による研究班と日本医師会及び日本てんかん学会の共同調査を基に構築された全国の主なてんかん診療施設のネットワークであった。上記研究班が終了したため、2021 年度から、てんかん地域診療連携体制整備事業の一つとして、新たに、「てんかん支援ネットワーク」として、てんかん診療を行っている医療機関・診療科の紹介を各てんかん診療拠点からの情報として公開している。

**てんかん
支援
ネットワーク**

MENU

ホーム

一般の方へ
ご家族の方へ

てんかん診療に
関わっている方へ

てんかん支援
ネットワーク施設一覧



このサイトはてんかんの地域診療連携の推進を目的として
厚生労働省・都道府県およびてんかん学会・てんかん協会・全国てんかんセンター協議会の支援を下に
てんかん地域診療連携体制整備事業により運営されています。

てんかん支援ネットワークのURLが新しくなりました。
URL : https://epilepsy-center.ncnp.go.jp/epilepsy_support_nw
※検索は上記URLにてご確認ください。

お知らせ Information	2024.10/12	施設一覧を更新しました。	>
	2024.09/24	施設一覧を更新しました。	>
< 一覧へ	2024.08/31	施設一覧を更新しました。	>

図 14. てんかん支援ネットワーク

北海道	65	東京都	113	滋賀県	22	香川県	11
青森県	12	神奈川県	66	京都府	38	愛媛県	23
岩手県	28	新潟県	14	大阪府	99	高知県	9
秋田県	7	富山県	10	兵庫県	56	福岡県	57
宮城県	25	石川県	28	奈良県	44	佐賀県	8
山形県	11	福井県	8	和歌山県	17	長崎県	27
福島県	22	山梨県	8	鳥取県	6	熊本県	16
茨城県	24	長野県	11	島根県	15	大分県	20
栃木県	15	岐阜県	16	岡山県	26	宮崎県	10
群馬県	22	静岡県	28	広島県	32	鹿児島県	23
埼玉県	46	愛知県	47	山口県	24	沖縄県	21
千葉県	52	三重県	11	徳島県	11	合計	1304

1,554施設登録

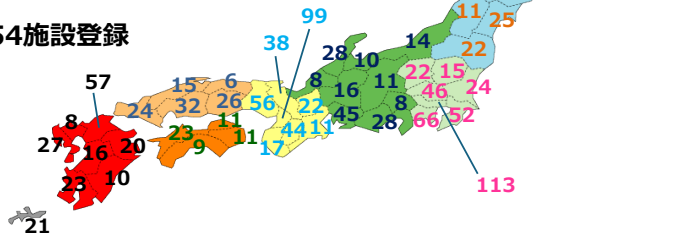


図 15. てんかん支援ネットワーク参加施設数・診療科別登録数（2024 年 12 月現在）

現在のところ、全国でてんかん診療施設が 1,307、診療科としての登録は 1,554 箇所登録されている⁽⁶⁻⁸⁾（図 14-15）。

VI. てんかん全国拠点機関における今後の課題

てんかん医療の均てん化を目指して、2018 年度からてんかん地域診療連携体制整備事業に基づくてんかん支援拠点病院の整備が開始され、現在のところ 47 都道府県のうち 30 自治体での設置となった。各都道府県では、国の定める基本方針に基づき、地域の実情に応じて医療提供体制を充実させるために医療計画を作成している。医療計画は原則 6 年ごとに改定され、第 7 次医療計画（2018－2023 年度）を経て、2024 年度からは第 8 次医療計画に基づいて医療計画が実施されている。5 疾病・6 事業は、この医療計画に記載されている重要なテーマで、疾病や事業ごとの医療資源、医療連携に関する現状を把握し課題の抽出や見直しが行われている。5 疾病として、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患があげられているが、てんかんは、統合失調症、うつ病等、認知症、児童・思春期精神疾患、発達障害、依存症、PTSD、高次脳機能障害、摂食障害、精神科救急、身体合併症、自殺未遂、PTSD、災害医療、医療観察とともに、15 の精神疾患・状態の 1 疾患として政策対応がなされている。

てんかん全国支援センターとしては、てんかん支援拠点機関設置に向けて各自治体への働きかけや、事業の安定及びコーディネーターの人材確保のための予算増（現状では病院の持ち出しが多いため、経営面から厳しい指摘がある）、事業の安定的な位置付けなどの要望を関係諸機関に行っている。てんかんの医療の均てん化に向けたてんかん支援拠点の整備を進めるためには、支援拠点の「数」を求めるだけでなく、「質」も求める形で事業を進めていく必要がある。本事業は義務的事業ではなく裁量的補助事業であることから、地方自治体の予算措置はハードルが高い。そのため、引き続き本事業の実績と効果を挙げるとともに、広く国民や社会に目に見える形でその成果をアピールしていくことが必要である。

参考資料

1. 中川 栄二. てんかん地域診療連携体制整備事業. クリニシアン 2020 ; 67 (5-6) : 492-498.
2. 中川 栄二. てんかん地域診療連携体制整備事業. 精神科 2020 ; 36 (6) : 459-464.
3. 国立精神・神経医療研究センター病院. 患者のギモンに答える！てんかん診療のための相談サポート Q&A. 診断と治療社. 2021.
4. 中川 栄二. 精神・神経トピックス てんかん地域診療連携体制整備事業の現況. 医療の広場 2022 ; 62 (1) : 25-27.
5. 中川 栄二. てんかんの移行期医療. 脳と発達 2022 ; 54 (3) : 2.
6. 中川 栄二. てんかんコーディネーターの新たな役割. クリニシアン 2021 ; 68 (8-9) : 416-422.
7. 中川 栄二. 成人患者における小児期発症慢性疾患. 成人期における主な小児期発症疾患の病態・管理 神経・筋疾患 てんかん. 小児内科 2022 ; 54 (9) : 1562-1567.
8. 中川 栄二. てんかん地域診療連携体制整備事業. 医療 2023 ; 77 (3) : 165-172.

4. 北海道てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度活動報告

札幌医科大学 医学部脳神経外科学講座
三國 信啓

北海道での整備事業は 2019 年 12 月に行政（北海道）とてんかん診療拠点として選定された札幌医科大学付属病院との間で、協定書が取り交わされた。これに沿って、てんかん治療医療連携設置要綱を設置し、2020 年 3 月 3 日から施行している。その後北海道では、COVID19 緊急事態宣言が全国的に先駆け発令され、その後保健所や行政はその対応に追われ、予定された道内各地保健所への周知や講演会など教育活動、相談事業は制限された。協議会を開催し、地域診療施設へのポスター送付、てんかん学会地方会や診療連携に関する WEB 開催研究会、医師会における紹介という形で本事業の周知を行った。第 7 次および第 8 次医療計画にも参画し、てんかん地域診療連携体制整備事業に係る二次診療医療機関（56 施設）および三次診療医療機関（札幌医科大学附属病院、北海道大学病院、旭川医科大学病院、中村記念病院の 4 施設）リストを作成し北海道庁の HP（<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/shf/tenkanhp.html>）にて公表した。また、相談窓口として公益社団法人日本てんかん協会北海道支部の参画を得た。

厚生労働省 北海道 てんかん 地域診療 連携体制整備事業

てんかんのある方は決して稀ではなく、1000人に8人(日本全体で100万人)ほどです。
乳幼児から高齢者のいずれの年齢層でも発症し、
成長や自動車運転に支障が及び、認知症や脳卒中と関係します。
厚生労働省と北海道による「てんかん地域診療連携体制整備事業」が令和元年12月に始まりました。
北海道医療計画に関わる診療連携体制構築のほか、
市民啓発活動、相談支援体制構築、情報提供や研修などを予定しています。

地域協議会

旭川医科大学
北海道大学
中村記念病院
道立保健所
札幌医科大学
患者会
精神保健福祉センター
北海道

お問い合わせ 札幌医科大学医学部 脳神経外科学講座
〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目 TEL:011-000-0000 FAX:011-000-0000

てんかん治療医療連携協議会 構成員

区 分	所 属		職・氏名
医 師	札幌医科大学	脳神経外科	教授 三國 信啓
	北海道大学	脳神経内科	教授 矢部 一郎
	旭川医科大学	小児科	教授 高橋 悟
	中村記念病院	脳神経内科	溝渕 雅広
	社会医療法人 元生会 森山病院		心療内科・さいびん外来部長 千葉 茂
	マロニエ通クリニック		院長 越智 さと子
コーディネーター	札幌医科大学	脳神経外科	講師 江夏 怜
北海道	障がい者保健福祉課		医療参事 儀同 咲千江
			課長補佐 柏木 博樹
			主査（相談支援） 土田 奈美
道立精神保健福祉センター	道立精神保健福祉センター		所長 岡崎 大介
道立保健所	（別途依頼）		
てんかん患者等			梅本 里美
			萩原 賞子
事務局	医事経営管理部医事経営課		副課長 木村 哲晃
			係長 戸澤 涼
			主事 帰山 結花

5. 宮城県てんかん診療地域連携事業

「東北大学病院てんかんセンターにおける活動の概要」

東北大学病院てんかんセンター 中里信和

<まとめ>

東北大学病院てんかんセンターでは、大学病院のメリットを活かして「診療・研究・教育」の三位一体での活動を展開している。

まず臨床面では、これまでの多診療科・多職種による連携をさらに強化し、とくにてんかん診療連携コーディネーター研修を受けたソーシャルワーカーらが入院患者の全例において社会資源の利用を促進させるとともに、地域医療連携センターにおいて院内外の連携を強化すべく活動を展開した。

研究面においては、てんかん科、脳神経外科、脳神経内科、高次機能障害科を中心に活発な臨床研究を展開した。英語原著論文、国際学会活動もきわめて活発である。てんかん科が運営する株式会社 eMind との「てんかんスマート医療共同研究講座」は第 I 期が 2025 年 3 月で終了するものの、2025 年度以降は大塚製薬も新たに加わっての第 II 期 3 年が開始されることになった。工学部や大塚製薬株式会社、株式会社スピセンシングファクトリーと連携している「先端スピントロニクス医療応用共同研究講座」も 2024 年 3 月で第 I 期が終了したが、新たに 2025 年 4 月より第 II 期 3 年が開始された。研究目的での外部資金の獲得も増えており、教員スタッフ以外の大学院生も含めての国際的活動が実現している。

教育面で特筆すべきは、オンラインによる遠隔てんかん症例検討会の推進である。これによって全国に、新たなてんかん専門医を取得し、また新たなてんかんセンターが誕生することになった。

以上の活動の詳細を以下の目次にしたがって解説する。

<目次>

1. 2024 年度てんかん診療医療連携拠点協議会委員名簿
2. 2024 年度の代表的活動
3. 東北大学病院広報誌「Hesso」2 月号での特集
4. 役者が演じる「てんかん発作ビデオ」の動画配信
5. 発表論文（2024 年以降）
6. 知的財産（2024 年以降）
7. 海外招待講演（2024 年以降）

1. 2024 年度てんかん診療医療連携拠点協議会委員名簿

	氏名	所属先
1	中里 信和	東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野 教授（日本てんかん学会専門医・指導医，日本脳神経外科学会専門医）
2	遠藤 英徳	東北大学大学院医学系研究科神経外科学分野 教授（日本脳神経外科学会専門医，日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医，日本脳卒中学会専門医・指導医）
3	青木 正志	東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 教授（日本神経学会専門医）
4	菊池 敦生	東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野 教授（日本小児科学会専門医・指導医，日本小児神経学会専門医，日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医）
5	富田 博秋	東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野 教授
6	高瀬 圭	東北大学大学院医学系研究科放射線診断学分野 教授（日本医学放射線学会専門医）
7	三木 俊	東北大学病院生理検査センター 診療技術部生理検査部門長
8	浦山 美輪	東北大学病院 看護部長
9	神 一敬	東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野 准教授（日本てんかん学会専門医・指導医，日本神経学会専門医）
10	小川 舞美	東北大学大学院医学系研究科てんかんスマート医療共同研究講座 助教（公認心理師）
11	末永 洋子	東北大学病院事務部次長兼地域医療連携課長

12	根本 直美	東北大学病院地域医療連携センター ソーシャルワーク部門（社会福祉士・精神保健福祉士）
13	本庄谷 奈央	東北大学病院地域医療連携センター ソーシャルワーク部門 てんかん診療支援コーディネーター（精神保健福祉士）
14	上埜 高志	東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 教授（精神保健指定医，日本精神神経学会専門医・指導医）
15	萩野谷 和裕	宮城県立こども病院 副院長（日本てんかん学会専門医・指導医，日本小児神経学会専門医）
16	北村 太郎	仙台市立病院小児科 医長（日本小児神経学会専門医，日本小児科学会専門医・指導医）
17	角藤 芳久	宮城県立精神医療センター 院長（精神保健指定医）
18	村上 靖	宮城県保健福祉部精神保健推進室 室長
19	鶴若 美亜	宮城県保健福祉部精神保健推進室 技術主幹（精神保健推進班長）
20	小原 聡子	宮城県精神保健福祉センター 所長
21	大村 悠子	仙台市保健所太白支所 障害高齢課 地域支援係長
22	萩原せつ子	日本てんかん協会宮城県支部 事務局長（てんかん患者の家族）

2. 2024 年度の代表的活動

開催日	名称	研修内容
4 月 15 日	第 155 回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
5 月 18 日	第 156 回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
5 月 18 日	てんかん包括医療東北研究会	てんかん診療に関わる東北地方の医師及び医療関係者を対象として，獨協大学小児科教授の白石秀明先生他 2 名の講演。
6 月 8 日	東北なるほどてんかんゼミナール	てんかん診療に関わる東北地方の医師及び医療関係者を対象として、てんかん診療の基本について 5 名の医師による講演および総合ディスカッション。
6 月 17 日	第 157 回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
7 月 20 日	日本てんかん学会東北地方会	東北 6 県の医療者を対象とした学術大会。今回の大会長は、弘前大学脳神経外科の斉藤敦志教授。特別講演として、日本てんかん学会理事長・自治医科大学病院長の川合謙介先生。
7 月 20 日	東北てんかんフォーラム	てんかん診療に関わる東北地方の医師及び医療関係者を対象として、「治療可能な代謝性てんかん」をテーマに、自治医科大学小児科教授の小坂仁先生が講演。
8 月 3 日	第 158 回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
8 月 19 日	第 159 回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
9 月 28 日	第 160 回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
10 月 15 日	てんかんセミナー	宮城県内の非てんかん専門医を対象とした新規抗てんかん発作薬に関するウェブセミナー
10 月 21 日	第 161 回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。

10月22日	宮城県教育庁保健体育安全課での講演（※）	宮城県内の養護教諭を対象としたてんかんの基礎知識ならびに発作時対応に関する最新情報についての講演ならびに実技指導。講師は中里教授。
11月23日	第162回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
12月13日	CrossTalk 2024 in Tohoku	東北6県の医療者を対象として、てんかん・片頭痛・中枢神経系疼痛という3疾患をテーマに、最新トピックスを紹介しあい、これらに共通した問題やその解決策を模索する討論会。
12月16日	第163回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
1月11日	第164回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
1月11日	東北てんかんフォーラム	てんかん診療に関わる東北地方の医師及び医療関係者を対象として、県外から講師を招いての講演会。
1月28日	てんかん研修「知って安心、てんかん」	てんかん患者に関わる医療者、支援者を対象として県内外へのウェブによる講演会。講師は中里教授と本庄谷コーディネータ
2月3日	第165回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
3月15日	てんかん包括医療東北研究会	てんかん診療に関わる東北地方の医師及び医療関係者を対象として、国立循環器病センター脳神経内科の田中智貴先生による講演会。
3月15日	第166回東北大学てんかん症例検討会	難治性てんかん症例の入院精査結果に基づいた包括的症例検討会。遠隔会議システムを用いて全国各地の専門施設からの参加有り。
3月20日	パープルデー宮城	てんかん啓発の国際的イベント「パープルデー（3月26日）」を前に、エフエム仙台などのメディアを活用したイベントを開催。

上記の年間活動のうち、今年度に新たに実施した特筆すべき活動の詳細は以下の通り。

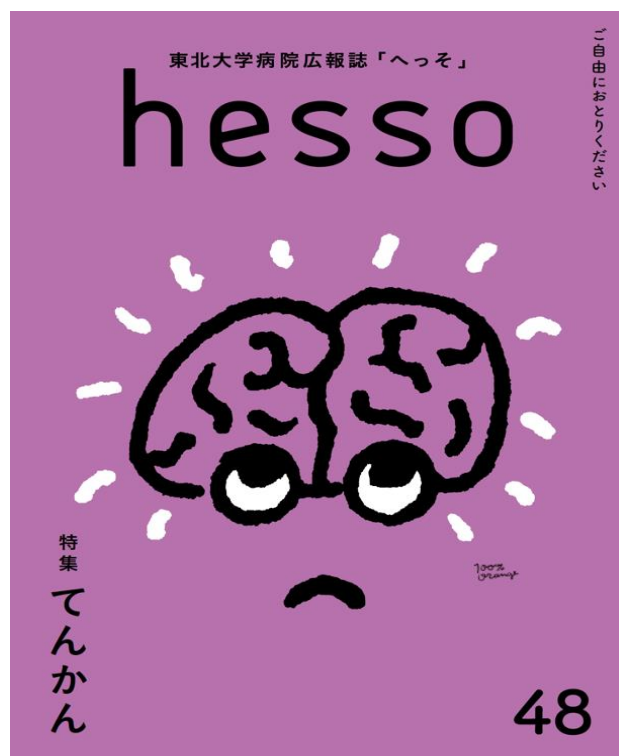
（1）宮城県教育庁保健体育安全課による研修会での講演（10月22日）

毎年、宮城県教育庁保健体育安全課では、宮城県内の教員、とくに養護教諭を中心とした教諭を対象として勉強会を開催している。今年度のテーマとしては「てんかん」が取り上げられ、その基礎知識ならびに発作時対応に関する最新情報についての講演依頼があった。中里信和教授が講師をつとめた。

参加者は124名であり、全員に事前アンケートを実施し、講義において聞きたいことや、発作時対応への理解を確認しておいたため、参加者の期待に応えられる形での準備ができ、講演後の満足度もきわめて高いものであった。

（2）東北大学病院「てんかん研修『知って安心、てんかん』」（1月28日）

てんかん患者に関わる医療者、支援者を対象として県内外への完全ウェブによる講演会を実施した。講師



は中里信和教授と本庄谷奈央コーディネータ。事前申し込みを実施したところ定員の200名はすぐに満杯になり、後日、期間を限ってのウェブ配信も実施することになった。

終了後、このような講演会をさらに開催して欲しいとの要望が多く寄せられたため、今後も継続して実施する方向で検討中である。

3. 東北大学病院広報誌「Hesso」2月号での特集

広報誌「Hesso」は、東北大学病院のさまざまな診療科が毎月、交替で執筆しており、親しみやすい内容から、2023年度には日本グッドデザイン賞を獲得している。2月号の特集は「てんかん」であり、表紙のカラーには啓発活動の色「パープル」が選ばれた。

寄稿

知って安心、てんかん

てんかん科 中里 信和

赤ちゃんからお年寄りまで、脳をお持ちなら誰でもいつでも「てんかん」を発症する可能性があります。どの年代でも「100人に一人」の病気といわれています。

医師も例外ではありません。患者が医師の場合、自己判断で治療が遅れるケースもあります。偏見から病名を隠すだけでなく、専門医を受診しない医師もいます。医師でも誤解しているのですから、一般の方が誤解や偏見を持つのは無理ありませんね。

「てんかんかも？」と思い悩む方、あるいは「てんかんです」と言われてショックを受けてはいませんか？正しい知識を持てば、てんかんの有無で人生は変わりません。この特集を読んで、てんかんの基本を押さえておきましょう。

突然倒れて白目をむき、全身を硬直させてガタガタ震える。これが全身けいれんです。でも、てんかん以外でも全身けいれんは起きます。血圧が一瞬低下する「失神」、心理的ストレスからの「心因性発作」、飲酒や薬物の禁断症状などです。効果がないのに、抗てんかん発作薬を飲み続けている人もいます。一方、てんかんでは全身けいれん「以外」の小さい発作もあります。本人が気付かなくとも、「ボーッと」して一点を見つめる、呼びかけても返事がない、動作が止まっている、無意識な行動を数分間続けるなどです。もっと小さい発作では、「上腹部がムカムカと込み上げる、恐怖や不安に襲われる、おかしい音や人の声が聞こえる」などで、てんかん診療に慣れた医師でないと発作を見抜けません。

てんかんには良いニュースがあります。最近、新しい抗てんかん発作薬が次々と登場したのです。従来の薬に比べて副作用が少ないのが特徴です。てんかんでも、発作が2年消失しているなどの条件を満たせば、車の運転も可能です。薬を飲みながらでも、妊娠や出産、授乳も禁止されなくなりまし。もしあなたが「てんかんの診断で働けない」という悩みを抱えているのなら、ぜひ一度、専門の医師に相談してください。



薬で発作を抑えられないてんかん患者は約3割です。あれこれ薬を試すより、思い切って入院した上で精密検査を受けるのが良いでしょう。

当院てんかん科では2週間が入院の基本です。最初の3泊4日は脳波とビデオで長時間の「モニタリング検査」を行います。この間、発作が起きても起きなくても診断精度が一気に高まります。中には、てんかんが否定される方もいます。てんかんのタイプによって治療薬も変わります。手術を受けたほうが発作を止めやすいと判断される場合もあります。

入院は発作を診断するだけではありません。公認心理師やソーシャルワーカーが、お一人おひとり時間をかけて、さまざまな相談に乗ります。心の問題や経済的問題など、患者が抱える悩みは発作以外にもたくさんあるからです。退院後、多くの患者さんに「もっと早く入院していれば良かった」と言ってもらえることが、私たちの喜びです。どんな悩みでも結構です。てんかんで困っているなら現在の主治医に相談して、ぜひ紹介状を用意してもらってください。

患者や家族は、てんかんの全てを勉強する必要はありません。てんかんのタイプは千差万別ですから、自分自身の（あるいは家族の）てんかんについて、

誰よりも詳しくなることが大切です。そのためには医師の説明をよく聞くことが大切ですが、患者や家族向けの書籍で正しい知識を身に付けることも大切です。自分のてんかんに誰よりも詳しく。そうすれば、てんかんを克服して自分らしい人生を歩むための逆転の発想が生まれるでしょう。

2010年に東北大学病院てんかん科科長に就任。医学系研究科てんかん学分野教授を兼任。てんかん関連の入門図書やメディアを紹介した啓発活動も展開中。

中里 信和
1984年東北大学医学部卒業。同脳神経外科助手、米カリフォルニア大学ロサンゼルス校研究員、広南病院副院長などを経て、



4. 役者が演じる「てんかん発作ビデオ」の動画配信

役者が演ずる9種類の発作ビデオを東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野の中里信和教授、神一敬准教授、柿坂庸介講師の3名が監修して作成し、株式会社ユーシービージャパンが2014年よりCD版として全国に無料で配布していた。その後、藤川真由助教の協力も得て英語版も作成され、続いてインドネシア語や、台湾語による字幕付きの版とあわせての世界各地で普及が進んでいた。

この発作ビデオ集については、以前から動画配信サイトでの公開への要望が高かった。しかし、動画の配信によって疾患への偏見や誤解がかえって助長されるのではないかとの懸念もあり、実現してはいなかった。これに対して、日本てんかん学会の国際担当委員会からは、動画配信に対する要望を出していた。

そこで、あらためて株式会社ユーシービージャパンとも協議を重ねた結果、国際抗てんかん連盟の新分類に準拠した形で修正が行われ、最初の作成から10年を経た2025年3月より、YouTubeでの公開が実施されることになった。

5. 発表論文 (2024年以降)

- 1) Kikuchi H, Osawa SI, Kakinuma K, Ota S, Katsuse K, Ukishiro K, Jin K, Endo H, Nakasato N, Suzuki K: Impact of aphasia on verbal memory: Insights from the selective anesthesia for functional evaluation. *J Neurosurg* (in press)
- 2) Kikuchi H, et al. Verbal memory localized on non-language dominant hemisphere: Atypical lateralization revealed by material-specific memory evaluation using super selective Wada test. *Neurol Med Chirurgica* (in press)
- 3) Ninomiya A, Osawa SI, Suzuki K, Kakinuma K, Ukishiro K, Shimoda Y, Jin K, Uematsu M, Sato S, Mugikura S, Suzuki H, Miyata H, Nakasato N, Endo H: Motor deficit after resective surgery for peri-Rolandic epilepsy is caused by perforating artery injury besides cortical dysfunction: a voxel-based morphometric analysis. *J Neurosurg*, 2025 (<https://thejns.org/doi/abs/10.3171/2024.10.JNS24878>)
- 4) Kakinuma K, Osawa SI, Kikuchi H, Katsuse K, Ishida M, Ukishiro K, Jin K, Kayano S, Mugikura S, Endo H, Nakasato N, Matsuda M, Suzuki K: Recurring utterances induced by local administration to the left frontal lobe. *Cortex* 183: 15–20, 2025 (<https://doi.org/10.1016/j.cortex.2024.10.019>)
- 5) Yu C, Ukishiro K, Kakisaka Y, Nakasato N: Achievement and challenges in China's standardized residency training system. *Med Education* 55: 493–495, 2024 (https://doi.org/10.11307/mededjapan.55.6_493)
- 6) Ukishiro K, Osawa SI, Iwasaki M, Kakisaka Y, Jin K, Uematsu M, Yamamoto T, Tominaga T, Endo H, Nakasato N: Complete corpus callosotomy brings worthwhile seizure reduction in both pediatric and adult patients. *Neurosurg*, 2024 (doi: 10.1227/neu.0000000000003092)
- 7) Sasaki T, Irie W, Sugahara A, Jin K, Nakasato N, Shiwa H: Perceptions in the experience of transition from pediatric to adult care of patients with childhood-onset epilepsy in Japan. *Epilepsy Behav* 161: 110119, 2024 (<https://doi.org/10.1016/j.yebeh.2024.110119>)
- 8) Hirano R, Asai M, Nakasato N, Kanno A, Uda T, Tsuyuguchi N, Yoshimura M, Shigihara Y, Okada T, Hirata M. Deep learning based automatic detection and dipole estimation of epileptic discharges in MEG: a multi-center study. *Sci Rep* 14:24574, 2024 (doi: 10.1038/s41598-024-75370-9)
- 9) Ogawa M, Fujikawa M, Tasaki K, Ukishiro K, Kakisaka Y, Jin K, Nakasato N: Individual and relational factors related to disclosure of epilepsy in the workplace. *Epilepsy Behav*, 2024 (<https://doi.org/10.1016/j.yebeh.2024.110079>)
- 10) Ukishiro K, Osawa SI, Kakisaka Y, Jin K, Tominaga T, Endo H, Nakasato N: Remission of startle epilepsy provoked by acoustic stimuli following complete callosotomy: A case study. *Epileptic Disord*, 2024 (DOI: 10.1002/epd2.20238)
- 11) Osawa SI, Suzuki K, Ukishiro K, Kakinuma K, Ishida M, Niizuma K, Shimoda Y, Kikuchi H, Kochi R, Jin K, Matsumoto Y, Uematsu M, Nakasato N, Endo H, Tominaga T: Super-selective injection of propofol into the intracranial arteries enables Patient's self-evaluation of expected neurological deficit. *Cortex* 176: 209–220, 2024 (<https://doi.org/10.1016/j.cortex.2024.04.016>)
- 12) Ishida M, Kakisaka Y, Jin K, Kanno A, Nakasato N: Somatosensory evoked spikes in normal adults detected by magnetoencephalography. *Clin Neurophysiol* 164: 19–23, 2024 (<https://doi.org/10.1016/j.clinph.2024.05.006>)

- 13) Konomatsu K, Kakisaka Y, Aiba T, Takahashi S, Ueda H, Kubota T, Soga T, Ukishiro K, Aokoi M, Nakasato N: Genetic generalized epilepsy with catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia complicated by ryanodine receptor 2 variant: A case report. *European J Epilepsy* 117: 284-287, 2024 (<https://doi.org/10.1016/j.seizure.2024.04.003>)
- 14) Konomatsu K, Kakisaka Y, Sato S, Kubota T, Soga T, Ukishiro K, Mugikura S, Aoki M, Nakasato N: “Caterpillar sign” in corpus callosum associated with curvilinear pericallosal lipoma in MRI: a case report. *Radiol Case Rep* 19: 2058-2061, 2024 (<https://doi.org/10.1016/j.radcr.2024.02.058>)
- 15) Kakinuma K, Osawa SI, Katsuse K, Hosokawa H, Ukishiro K, Jin K, Niizuma K, Tominaga T, Endo H, Nakasato N, Suzuki K: Assessment of language lateralization in epilepsy patients using the super-selective Wada test. *Acta Neurochir (Wien)*, 166:77, 2024 (DOI: 10.1007/s00701-024-05957-8)
- 16) Ille N, Nakao Y, Taura T, Ebert A, Bornfleth H, Asagi S, Kozawa K, Itabashi I, Sato T, Sakuraba R, Tsuda R, Kakisaka Y, Jin K, Nakasato N: Ongoing EEG artifact correction using blind source separation. *Clin Neurophysiol* 158:149-158, 2024 (<https://doi.org/10.1016/j.clinph.2023.12.133>)
- 17) 藤川真由, 小川舞美, 中里信和: てんかん診療における公認心理師の役割. *Epilepsy* 18: 134-137, 2024
- 18) 柿沼一雄, 大沢伸一郎, 菊地花, 太田祥子, 勝瀬一登, 土屋真理夫, 浮城一司, 神一敬, 遠藤英徳, 中里信和, 鈴木匡子: 超選択的 Wada テストで言語優位半球と言語性記憶力の側方性不一致が示された側頭葉てんかんの 1 例. *神経心理学 (J-Stage 早期公開)*, 2024 (DOI: 10.20584/neuropsychology.17228)
- 19) 藤原耕輔, 中野貴文, 福島隼人, 稲垣大, 石田誠, 熊谷静似, 松崎斉, 中里信和, 大兼幹彦: トンネル磁気抵抗センサを用いた室温生体磁場計測. *日生磁誌* 37: 80-81, 2024
- 20) 大村花薫子, 石田誠, 柿坂庸介, 神一敬, 大沢伸一郎, 中里信和: 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん患者における側頭葉深部の脳磁図棘波信号源の臨床的意義. *日生磁誌* 37: 140-141, 2024

6. 産業財産権 (2024 年以降)

デービット・エー・リーブレック, 古村智, 中里信和, 神一敬, 浮城一司, 小川舞美, 藤川真由: 特許第 7534745 号 発作予測プログラム、記憶媒体、発作予測装置および発作予測方法.

7. 国際学会招待講演 (2024 年以降)

- 1) Nakasato N: How I became an epileptologist. Alkhairaat University School of Medicine. January 11th, 2025, Palu, Indonesia (Invited Web Lecture)
- 2) Nakasato N: Combined EEG and MEG in the diagnosis of focal epilepsy. The 23th International Conference on Biomagnetism. August 26-29, 2024, Sydney (Symposium)
- 3) Nakasato N: MEG-based brain mapping for epilepsy and other diseases. Korean Epilepsy Society, June 22nd, 2024, Seoul (Invited Lecture)
- 4) Nakasato N: Biomagnetic measurements using tunnel magneto-resistive sensors. MEG Nord, May 28th, 2024, Gothenburg (Keynote Lecture)
- 5) Nakasato N: Detection, separation, and localization of epileptiform activity in EEG and MEG. Queen Elizabeth Hospital in Hong Kong, April 11th, 2024, Hong Kong (Invited Lecture)

6. 令和6年度茨城県てんかん地域診療連携体制整備事業報告書

筑波大学附属病院てんかんセンター 部長 石川 栄一
筑波大学附属病院てんかんセンター 副部長 榎園 崇
筑波大学附属病院てんかんセンター 副部長 増田 洋亮

1. はじめに

筑波大学附属病院では、各診療科がそれぞれ診療していた縦割りのてんかん診療から、各科連携の強化のために2019年7月からてんかんセンターとして活動を行い、令和2年（2020年）10月に茨城県よりてんかん診療拠点機関として指定を受けた。
ここに令和6年度の活動を報告する。

2. 診療実績

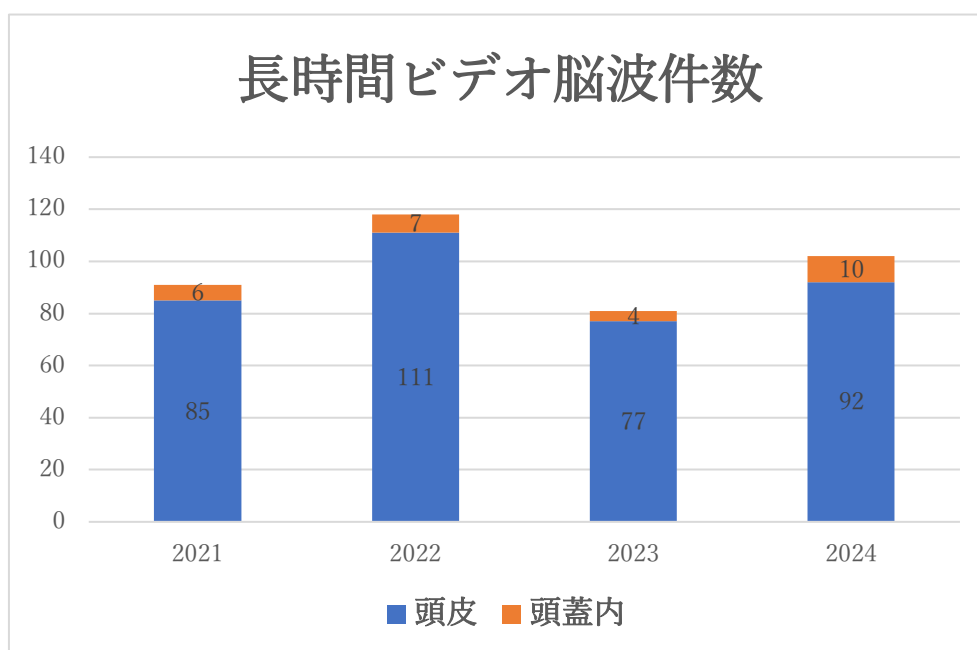
令和6年度のてんかん診療に関わる入院件数はいかに示す通りである。（括弧内は昨年数。）

<令和6年のてんかん関連の診療実績（提出時点）>

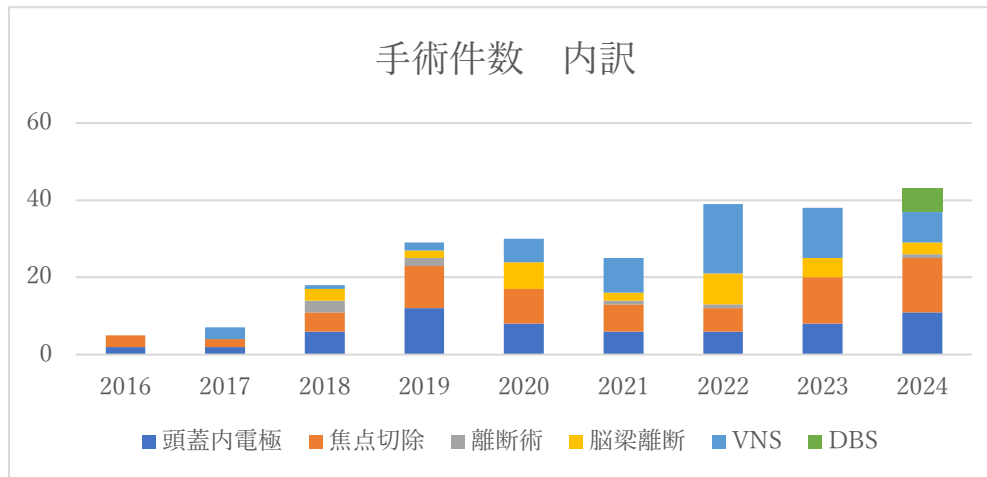
頭皮ビデオ脳波件数：合計92件（77件）

成人科51件（44件）、小児科41件（33件）

頭蓋内ビデオ脳波件数 成人10件（4件）



てんかん手術人数（予定含む） 32人（30人）
てんかん手術件数（予定含む） 43件（38人）



手術内訳は例年通りであるが、本年から DBS が新たに保険適応となったため、治療が開始された。

3. 地域連携事業

① てんかん診療コーディネーター

令和 5 年 1 月よりてんかんコーディネーター（看護師 1 名）を新たに配置。

令和 5 年度には当院てんかんセンターホームページにお問い合わせフォームを開設。 かかりつけ以外の患者、家族などから相談事業を行なうことができるようになった。

- ・相談体制

非常勤パートタイムであるため、月曜 10 時 30 分～17 時、水曜 9 時～17 時の間で相談に対応。

- ・相談件数

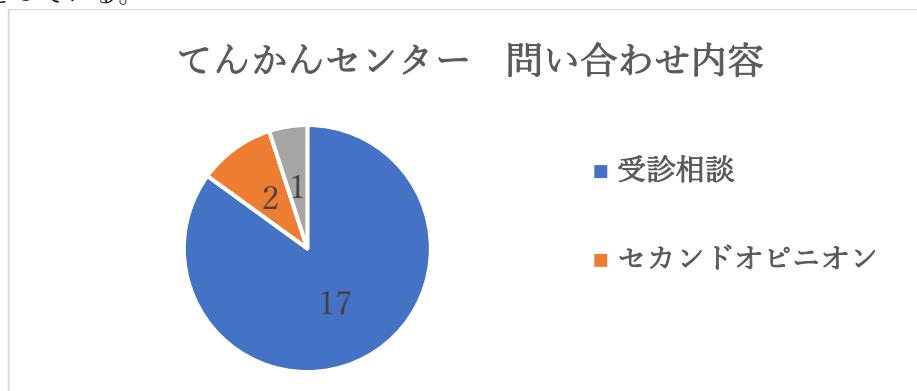
令和 6 年度：20 件

- ・主な相談内容

相談件数で一番多いのは受診相談である。（17 件）その他は、セカンドオピニオンについての相談が 2 件、再手術についての相談が 1 件であった。

お問い合わせフォームに予め患者の居住地（都道府県）を記載していただき、茨城てんかん専門医が外勤等で診察を行う近隣の病院を紹介。

その後医師の判断により、手術やその他の治療が必要であれば当院やその他てんかんセンターへ紹介する形をとっている。



② 茨城県てんかん診療ネットワーク

昨年度、県内のてんかん診療の課題やニーズを明らかにし、将来の問題解決につなげることを目的とし、「茨城県におけるてんかん診療の実態調査」を実施した。茨城県内 199 の医療機関を対象として Google forms にて調査を行った。69 名（約 35%）、計 49 施設から回答を得た。回答結果では、専門科は小児科、脳神経外科、脳神経内科、精神科の順で多く、県内 9 つ全ての保健医療圏より回答を得た。

てんかん重積発作が持続する場合、「搬送可能な専門医療機関は明確である」という回答は 52%であった。薬剤抵抗性てんかんを診療した場合、「紹介可能な医療機関は明確である」という回答は 74%であった。「16 歳以上のてんかん患者を紹介可能な医療機関は明確である」かについては 65%が明確ではないと回答した。「小児期発症のてんかん患者を移行することが可能か」については、条件付きで可能という回答が 71%を占めた。その条件は、発作が十分に抑制されていること、専門医療機関との

併診体制が整っている、などであった。

まとめとして、薬剤抵抗性てんかんに関しては、紹介可能な専門医療機関の認識は比較的浸透しつつあると考えられた。一方で、てんかん重積発作が持続した場合の対応や、成人てんかん患者の診療連携が今後の課題と考えられた。今後、県内それぞれの医療機関の診療体制について、どの医療機関で、どのような患者を対応可能で、どのような検査や処置が可能か、今後、情報共有のシステム作りをすすめていきたい。詳細については、茨城県医師会報へ投稿準備中である。昨年のでんかん診療の実態調査を踏まえて、現在、県内のでんかん診療施設について、実施可能な検査や診療可能な年齢層や病態が一目でわかるように、リスト化を進めている。

4. 教育・啓発活動

① 院内活動

- ・令和6年度の脳波カンファレンス 15回
- ・令和6年度のでんかん症例検討会 10回
- ・パープルデーイベント 1回

脳波カンファレンスは月2回、てんかん症例検討会は月1回定期開催している。

今年度、WEB上でカンファレンスを配信できる環境を整えられたため、来年度外部の病院に声掛けを行い配信予定。他院の医師や他職種もWEB上で参加できるためより深く意見交換が行えると考えられる。

パープルデーには院内でリーフレットとパープルデージャパンの缶バッジを配布し、てんかんの啓発活動を実施した。

② 院外活動

令和6年3月24日、啓発のための市民公開講座「てんかんと周囲の支援」をWEB上で実施。133名に参加していただいた。

市民公開講座 筑波大学附属病院てんかんセンター

てんかんと周囲の支援

令和6年3月24日（日）16:00~18:00 web

講演1 16:00~17:00 「てんかん基礎講座」 総合司会 石川 崇一 先生
(てんかんセンター長 脳神経外科)
こどものてんかん 上野 裕一 先生 (筑波大学附属病院 小児科)
成人てんかん 荒木 幸太 先生 (筑波大学附属病院 脳神経外科)
てんかんとこころのケア 高橋 卓巳 先生 (筑波大学附属病院 精神神経科)

講演2 17:15~18:00 特別講演「てんかんと周囲の支援」
子どもに対する家族・園・学校側の支援 榎園 崇 先生 (小児科)
てんかんのある人への支援制度・運転免許 増田 洋亮 先生 (脳神経外科)

主催: 茨城県・筑波大学附属病院
(茨城県てんかん支援拠点機関)

共催: NPO法人
筑波脳神経外科研究会

てんかんという脳の病気をどう思いますか？
今年ではてんかんのある人に対する周囲の支援や制度について詳しく解説していきます。てんかんのある人が利用できる制度はありますが、患者さん自身もご存知ないことが多いです。てんかんの支援制度や周囲の支援方法について一緒に勉強しませんか？

お申し込み・お問い合わせ先
※お申し込みはQRコードまたは下記のURLから登録サイトにアクセス願います。
<https://tsukuba-neurosurgery.org>

■参加費
・無料
・定員 (450名) になり次第締切。当日のお問い合わせにはお答え出来ません
・ご参加には、パソコン・スマートフォン、タブレットおよびインターネット接続環境が必要です
・通信料は参加者個人の負担となります。

＜お問い合わせ＞ nenkan@tsukuba-neurosurgery.org

参加費 無料
定員 450名

皆さんで応援してみませんか？

Purple Day

3.26

「てんかん」啓発の日

2024 3.28 Thu
13:00-16:00

筑波大学附属病院 玄関ホールにて展示

カナダに住む女の子、キャシディー・メーガンさんが始めたキャンペーン。
この日は世界各国の人がてんかんをもつ人への応援のメッセージを込めて「紫色のもの」を身につけます。
皆さんも一緒に紫色のものを身につけて、てんかんのある人を応援しましょう！

主催: 筑波大学附属病院てんかんセンター

5. 今後の課題

令和5年より、当院では専任のてんかんコーディネーターを配置し、てんかん患者の皆様がより相談しやすい環境を整えるためにお問い合わせフォームを開設した。この取り組みにより、これまで以上に多くの患者様が適切な情報を得られるようになっていっていると考えられる。

お問い合わせフォームを開設してから1年間が経過し、当院のてんかんセンターホームページを通じて20件の相談があった。なお、ホームページには茨城県のでんかん専門医を紹介する表を掲載しており、多くの方がこれを参考にして直接受診されるケースも増えていると考えられる。

しかしながら、まだまだこのお問い合わせフォームを知らない方も多くいらっしゃると感じており、今後も市民公開講座などの場を通じて、お問い合わせフォームについての啓発活動を継続していく。今後もより多くの方に正しい情報を提供し、適切な医療を受けていただけるよう努めていく。

パープルデー・市民公開講座も、市の職員などを含め多くの方に啓発していただき、毎年参加者は100名を超えている。今後も様々な場面で啓発を行い、より多くの方に参加・興味を持ってもらえるよう努めていきたいと考える。

7. 栃木県のてんかん地域連携体制整備事業

－自治医大てんかんセンター－

自治医科大学てんかんセンター、脳神経外科 川合謙介

まとめ

今年度は、新型コロナウイルスの影響がほとんどなく、施設としてのてんかん診療やその他の事業を特に制限なく実施することができた。また、栃木県のてんかん診療拠点として、今後の事業継続を目指し、新たに2名のコメディカルスタッフを対象とした「てんかんコーディネーター養成」を開始した。

「てんかん診療連携協議会」は、3年ぶりに対面形式で開催し、事業評価や問題点の共有、次年度の事業計画を策定した。また、2019年から開始した教員対象のてんかん研修会は、昨年度より新型コロナウイルス感染拡大を受けてWeb配信を中心としたハイブリッド形式で開催されており、例年多くの参加者が集まった。参加アンケートの結果では、9割以上が新規参加者であり、研修会が広く認知されていることが分かった。内容についても好評であり、今後も継続して実施する予定である。

さらに、拠点病院としての機能強化（ビデオ脳波モニタリングと手術の増加）を継続し、多職種・多診療科による他医療機関との定例症例検討会を通じて医療連携と診療レベルの向上を図った。その結果、外来体制が拡充され、検査入院数が大幅に増加した。てんかん手術件数も、小児例を中心に昨年度より増加傾向にある。

1. 概要

栃木県は人口約200万人を抱えるが、てんかん専門医の地域偏在が見られ、診療の均てん化が急務であった。2015年に「てんかん地域診療連携推進事業」の8拠点の1つに選定され、2016年に自治医科大学てんかんセンターが設立されたことで、多診療科・多職種の連携体制が本格的にスタートした。この体制により地域連携が強化され、自治医大の診療機能向上のため施設や人員の拡充が進められている。

現在、自治医大には常勤のてんかん専門医が8名（指導医3名を含む）在籍しており、単一の大学病院としては国内でも有数の規模である。脳神経外科医、小児科医、脳神経内科医、精神科医、看護師、検査部門、事務部門が連携して診療を行っている。特に、こども医療センターに併設された小児集中治療室（PICU）を活用し、高難度の小児てんかん外科治療にも積極的に取り組んでいる。

1-1) 具体的な取り組み

1. てんかん診療連携協議会の開催

新型コロナウイルス感染症が収束したことを受け、3年ぶりに対面形式で開催した。事業評価や次年度の計画策定を行い、連携体制の維持と情報共有を図った。

2. 教員対象の研修会

2019年に第1回を実施し、以降、毎年開催している。昨年度からはWeb配信を主体としたハイブリッド形式を採用し、より多くの参加者が参加できる形を実現した。内容の見直し（例：迷走神経刺激装置の学校での管理方法の紹介）を行い、受講後アンケートでは新規参加者が90%以上を占めるなど、広く周知されていることが確認された。

3. 拠点病院の機能強化

ビデオ脳波モニタリングや手術件数の増加により診療機能を向上させるとともに、他施設の医師も参加可能な定例症例検討会を開催し、医療連携の強化と診療レベルの向上を目指した。

4. てんかんコーディネーター養成

これまでは医師が実質的なコーディネーター業務を兼務していたが、患者相談機能の強化や事業の持続性向上を目的として、2名のコメディカルスタッフ（PSW/MSW）の養成を新たに開始した。今後、業務拡大に伴い、さらなる人員配置も検討している。

2. 栃木県のてんかん地域診療連携体制整備事業

県てんかん連携事業コンセプト

2-1) てんかん地域診療連携協議会

栃木県では、てんかん診療拠点病院を中心に、多施設、行政、てんかん協会栃木支部で構成される地域診療連携体制を整備している。今年度は3年ぶりに対面での協議会開催となったが、事業評価や次年度計画の策定を行い、連携体制の維持と情報共有に努めた。2019年度からは、てんかん啓発を目的に医療機関向けのパンフレット作成および頒布、県内てんかん診療医療機関の情報を県庁ホームページで公開する取り組みを継続している。昨年度は診療機関の公表内容を再調査し、最新の診療内容を反映する形で情報を更新した。

2-2) 拠点機関（自治医科大学）の活動

①てんかん患者数の推移

この事業が始まった2015年から2023年まで8年間で、てんかんの初診患者数は213人から229人に、入院は573人から653人に増加した。2024年度は小児てんかん手術患者が増加した。

②長時間ビデオ脳波検査

長時間ビデオ脳波モニタリング検査は年々増加しており、2024年度には116件を実施した。2025年2月時点では100件を超え、大幅な増加が見込まれる。

③てんかん手術

2023年は30件を施行した。術式としては焦点切除術、頭蓋内電極留置、全脳梁離断術、迷走神経刺激装置植込術に加え、ロボットを用いた定位的頭蓋内電極留置術が3例行われた。

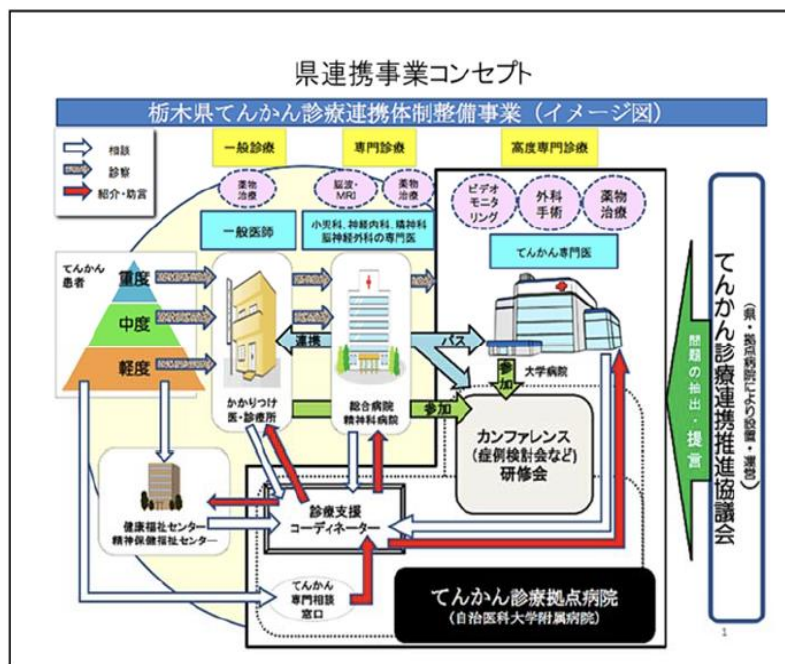
2-3) てんかんの研修

自治医大てんかんセンターは包括的てんかんセンターとして、高度な診療だけでなく、周辺医療機関への教育にも取り組んでいる。月1回の多職種・多診療科参加による症例検討会を開催し、県内外から述べ1530名（院内1460名、院外70名）が参加している。今年度は他院からの参加や症例提示が増加しており、引き続き開かれたカンファランスを目指して開催を継続する。

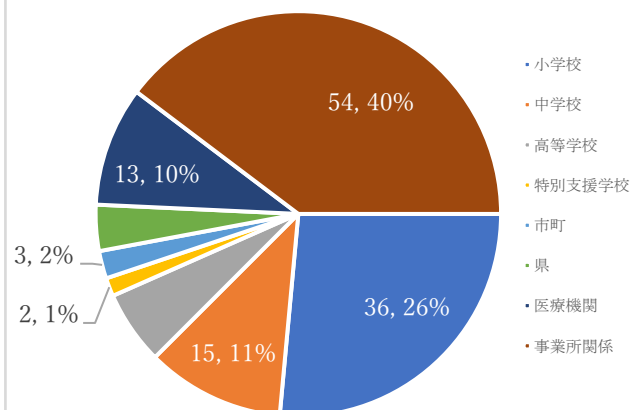
3. 教育啓発活動

3-1) 教員対象の研修会

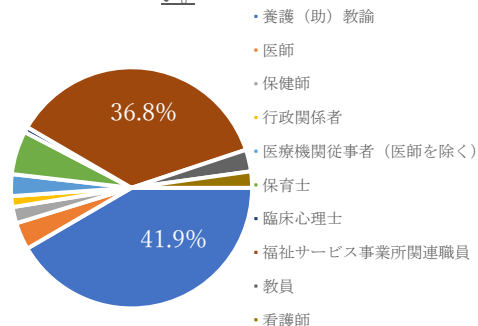
2019年8月に第1回を開催した教員対象てんかん研修会は、参加者から好評を得て以降毎年継続している。昨年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、Web配信を主体としたハイブリッド形式を採用している。今年度も同様の形式で開催予定であり、内容は参加者の事前アンケートを基に改善を重ねている。主なテーマには、プレホスピタルでの抗てんかん薬（ブコラム®）の使用法や、迷走神経刺激装置の学校での管理方法が含まれる。受講後アンケートでは、新規参加者が9割以上を占め、一般教員の参加割合も増加している。



1 ご所属についてあてはまるものを選んでください。



3 職種について、あてはまるものを選んでください。



3-2) てんかん市民公開講座

てんかん協会栃木県支部主催の市民講座は、例年 2 回開催されている。当施設の医師が講師を務めており、今年度も Web 形式で実施した。

4. コーディネーター関連業務

立ち上げ当初は専門職（特に神経系）の確保が困難であり、現在もてんかんセンター医師がコーディネート業務を兼務している。2023 年度の直接問い合わせ件数は 8 件であり、内容は就業、自動車運転、疾病への不安など多岐にわたる。患者相談機能を強化した「てんかん総合支援センター」の立ち上げや事業の持続性向上を目的として、2 名のコメディカルスタッフ（PSW/MSW）の養成を開始した。業務拡大に伴い、さらなる人員配置も検討している。

また、てんかん協会栃木県支部との連携を強化し、業務の効率化と体制の整備を進めている。

5. 日本てんかん学会学術集会の開催

2025 年 10 月 2 日から 4 日にかけて、日本てんかん学会学術集会を自治医科大学の主幹で開催予定である。テーマは「変革の時代におけるてんかん学とてんかん医療」とし、医療の急激な変革に対応するための新たな発想や連携のきっかけとなる場を目指している。本学会を契機に、栃木県におけるてんかん医療のさらなる啓発と発展に取り組む。



6. 成果と今後の展望

この 6 年間で、ビデオ脳波モニタリングや手術件数の増加、多職種・多科で他医療機関と連携する症例検討会の開催などを通じて、診療機能の向上を図った。また、医療啓発のためのパンフレット作成や、運転免許に関する調査、教育機関へのアンケート、教員対象の研修会を実施した。今年度から新たにコーディネータ養成事業を開始している。2025 年度には学術集会を開催予定であり、これを契機に栃木県でのてんかん医療の啓発をさらに推進していく。

8. 2024 年度 群馬県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

独立行政法人国立病院機構渋川医療センター
院長、てんかんセンター長 高橋 章夫

1. 概要と診療体制、院内での活動

今年度当初はてんかんセンターの主たる診療科である脳神経外科の常勤医が一時的に1人減となったため、モニタリングやてんかん外科手術件数などが減少したが、10月よりてんかん専門医、てんかん専門医指導医の資格を有し、運動異常症に対する定位脳手術も専門とする宮城島孝昭医師が群馬大学より脳神経外科医長、てんかんセンターの外科部門を担うニューロモデュレーションセンター長として赴任した。次年度からはDBS、SEEG等のてんかん外科の新しい技術の導入が期待される。井田久仁子副てんかんセンター長は、小児科、重心医師として移行期医療に注力、重度のてんかん性脳症患者の重心病棟への短期、長期入所を推進した。3人のてんかん診療支援コーディネーター（山浦美和子MSW、狩野未樹言語聴覚士、岩丸樹看護師）が院内外で広く活動を展開し、多職種連携や他施設連携をさらに推し進め、病院をあげててんかん診療に取り組む姿勢をアピールした。

MOSESについては新たに2名のてんかん病棟看護師がトレーナーとなり、2025年2月3～7日に3名の患者が参加して行った。4月よりてんかん専門医を目指す2人の脳神経内科医師が非常勤医師として勤務、外来診療と研修を開始（群馬大学脳神経内科 道崎瞳医師、太田記念病院神経内科 黒澤亮医師）、群馬県初となる脳神経内科のてんかん専門医取得を目指している。

2. 市民啓発などの対外事業

昨年度末に施行したパープルデーイベントでは、渋川市の全面的な協力を得て、伊香保温泉石段と渋川スカイランドパークの観覧車のパープルライトアップ、市民ホールでのパネル展示、動画放映、職員の缶バッジ着用を行ったが、今年度も同様の活動が予定されている（図1、写真は昨年度のもの）。今年度は下記の講演及び患者談話会を行った。

1) 2024年8月24日「てんかんを学ぼう—PART2—」

演 題：「てんかんと向き合い方」

講 師：国立精神・神経医療研究センター てんかん診療部 谷口 豪 先生

参 加 者：現地参加18名、Web参加35名 計53名

2) 2025年2月15日「てんかんを学ぼう—PART3—」

演 題：「てんかん発作の観察対応、日常生活の注意点」

講 師：国立精神・神経医療研究センター 看護師長 原 稔枝 先生

参 加 者：現地参加13名、Web参加17名 計30名

これらのセミナー終了後、てんかん患者及び家族が音楽を聴き、お茶を飲みながら自由に医師やコーディネーターをファシリテーターとして語り合う形式の談話会「えびカフェ」を行い、それぞれ、てんかん患者5名、家族9名、合計14名（第3回）、てんかん患者4名、家族9名、合計13名（第4回）の参加があった。「えびカフェ」については今回で4回目の開催であるが、非常に好評であり、毎回参加してくれる方もいて、当院のユニークなイベントとして定着しつつある（図2）。

医療機関向けには、県内のてんかん診療を行っている130医療機関（訪問実績及び第9次保健医療計画より同意を得たてんかん連携候補医療機関）にアンケートを行い、てんかん診療の実態や当センターに対する要望を記載してもらい、現在集計、解析を行っている。県内の教育機関については、9月5日に井田副センター長が桐生特別支援学校において教員向け講習会として「てんかんへの対応について」を行った。



図1 パープルライトアップ（左：伊香保温泉石段、右：渋川スカイランドパーク観覧車）

渋川医療センター
てんかんセミナー

日時:2024年8月24日(土)14:00~15:00
開催方法:オンライン開催(Zoom)

PART2

「てんかんを学ぼう！」

てんかんのある人も、
周りにてんかんのある人がいる人も、
てんかんのある人を支援する人も、

てんかんという「個性」と付き合うための知識
を一緒に学びませんか？

今回学ぶ内容は…
「てんかんと向き合い方」です

＜講師＞
国立精神・神経医療研究センター
てんかん診療部 谷口 豪 先生

市民公開セミナーのお知らせ
渋川医療センター

てんかんセミナー

日時:2025年2月15日(土)14:00~15:00
開催方法:オンライン開催(Zoom)

PART3

「てんかんを学ぼう！」

てんかんのある人も、
周りにてんかんのある人がいる人も、
てんかんのある人を支援する人も、

てんかんという「個性」と付き合うための知識
を一緒に学びませんか？

テーマ
「てんかん発作の観察対応、日常生活の注意点」

講師
国立精神・神経医療研究センター
看護師長 原 稔枝 先生

えびカフェ

えびカフェ：てんかん（Epilepsy）のこと、その周りで暮らす場所「カフェ」

開催予定

日時:2025年2月15日(土)15:00~15:50
会場:渋川医療センター 大会議室

参加対象 渋川医療センターに通院中の
患者さん、そのご家族

てんかんセミナー終了後に
えびカフェを開催します！

てんかんの患者さん、そのご家族
が自由にお話ができる場です。

てんかんと付き合い方、悩み
や経験の共有など、気持ちを言葉
にしてみませんか？

【参加にあたって】
心療内科受診のため、マスクの着用を
お願いいたします。
○熱・発熱症状のある方はご参加
出来ません。ご参加ください。
○付き合っている患者さんやご家族の
いらっしゃる場合は、ご参加ください。
○「えび」にてスタッフが待機いたします。

◆申し込み方法◆
以下のURLまたはQRコードより
お申し込みください。

【申し込みURL】
<https://forms.gle/IQn1uFCMXbdv4rsy8>

※申し込みは、お申し込みの日の前日までです。
※申し込みは、お申し込みの日の前日までです。
※申し込みは、お申し込みの日の前日までです。

○お問い合わせ先○
渋川医療センターてんかん診療支援コーディネーター
電話 0279-23-0210（病棟代表）

興味のある方はぜひご参加ください！

図2 てんかんセミナーとえびカフェ（ポスター）

9.令和6年度埼玉県てんかん地域連携体制整備事業活動報告書

埼玉医科大学病院小児科・てんかんセンター 山内秀雄

まとめ

1. 令和6年度に埼玉医科大学病院が実施したてんかん診療医療連携協議会開催、相談体制、治療体制、研修の実施、てんかん普及啓発事業、後援事業について報告する。
2. てんかん相談体制では、埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」で4名のてんかん診療支援コーディネーターによる総件数266件の電話相談を行った。また、日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回のインターネットによる公開相談会を開催した。
3. 治療体制としては、「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の年度改訂を行い、令和6年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開する予定である。
4. 院内のてんかん研修では、てんかんセンターカンファレンスを計11回、特別講演会を1回を実施した。また、院外でのてんかん研修として、てんかん診療コーディネーター4名が全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回参加した。
5. 一般市民を対象としたてんかん啓発事業として、市民公開講座や難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベント、パープルデーの開催を各1回開催した。YouTubeにおいて埼玉医科大学病院てんかんセンターチャンネル開設し啓発事業の動画公開を行った。さらに、埼玉県内の学校教員・校医のためのてんかん教育講座を1回開催した。埼玉県学校保健会が設置した緊急時の医薬品投与等に関する参考資料作成委員会に参加しててんかん発作時の医薬品投与に関する研修資料（講演動画）を作成した。

1. 緒言

平成30年（2018年）11月1日に埼玉医科大学病院は埼玉県てんかん地域連携体制整備事業埼玉県てんかん診療拠点機関に指定された。実務は同院てんかんセンターが行い、院内運営委員会（年6回開催）によって運営されている。当センターは「学際的包括的連携による医療と福祉の理想郷を実現するため、高度なてんかん医療を提供する基幹施設として地域医療に貢献する」ことを理念とし、以下の基本方針を持っている。

- 1) 患者さんの幸せのために安心して質の高いてんかん医療を実践し、地域医療に貢献する
- 2) 高度なてんかん医療を提供する地域基幹施設としての役割を果たし、関連施設との連携を行う
- 3) 人格的にすぐれ高い技能を持つ人材を育成し、診療に役立つてんかん研究の推進に努める

これらの方針に基づき、令和6年度に本院が実施した埼玉県てんかん地域連携体制整備事業を報告する。

2. 令和6年度事業計画

令和6年度埼玉県てんかん地域診療連携協議会（以下、協議会）において、山内秀雄が協議会長に就任し、議長を務めた。協議会の委員は表1に示される通りである。令和6年4月22日に開催された協議会では、令和5年度埼玉県てんかん診療拠点機関事業の報告が行われた後、令和6年度の事業計画案が提案され審議された。提案内容の概要は以下の通り。

- 1) てんかん相談体制として、「埼玉県てんかん診療相談マニュアル」に基づき、てんかん電話相談を実施すること、またウェブ上で公開てんかん相談会を行うこと。
 - 2) てんかん治療体制として、令和5年度版「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の作成。
 - 3) てんかん研修の実施として、てんかんセンターカンファレンス症例検討会（毎月1回）、てんかん診療コーディネーター研修会（年2回）への参加。
 - 4) てんかん普及啓発事業として、てんかんセンターカンファレンス特別講演会（年1回）、てんかん市民公開講座（年2回）の開催、学校教職員・校医を対象としたてんかん教育講演の実施、そしててんかんセンター・難病センター合同啓発イベントの開催。パープルデーキャンペーン開催、埼玉県ウェブサイト、埼玉医科大学病院・同院てんかんセンター、Twitter、Facebook などからてんかん相談・啓発事業の案内と報告、YouTube 専用チャンネルからの講演会動画配信、等。
- 上記の提案内容は審議され、承認された。

表 1

氏 名	所属及び役職名
山内 秀雄	埼玉医科大学病院 小児科教授・てんかんセンター長
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科准教授
中澤 望美	埼玉医科大学病院 看護部看護師 てんかん診療支援コーディネーター
佐藤 祐子	埼玉医科大学病院 看護部看護師 てんかん診療支援コーディネーター
落合 卓	おちあい脳クリニック 院長
浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター 神経科
中本 英俊	TMGあさか医療センター 脳神経外科部長・てんかんセンター長
相川 博	大宮西口メンタルクリニック 院長
横田 淳一	埼玉県保健医療部 健康政策局長
鈴木 久美子	埼玉県保健医療部疾病対策課 課長
丸山 浩	埼玉県川越市保健所 保健所長
福田 守	日本てんかん協会埼玉支部
高山 久雄	てんかん患者さんのご家族、日本てんかん協会埼玉支部
丸木 雄一	埼玉県医師会 常任理事、埼玉精神神経センター 理事長

3. 実施内容

1) てんかん相談体制

①埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において「てんかん診療相談マニュアル」に基づき、4名のてんかん診療コーディネーター（佐藤祐子、中澤望美、坂本綾佳、加藤加奈子）による総件数266件の電話相談を行った。相談内容としては、治療薬の調整に関する最も多く107件であり、次いで検査・疾患に関するものが122件、妊娠などに関するものが23件、その他14件であった。

②インターネットによるてんかん相談会「埼玉県てんかんなんでもウェブ相談会」を日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回開催した（令和6年6月15日、9月21日、12月21日）。相談役は埼玉医科大学病院小児科山内秀雄・松本浩、精神科渡邊さつき、脳神経外科平田幸子・高畠和彦、おちあい脳クリニック落合卓が担当した。

。

2) てんかん治療体制

①埼玉県内てんかん診療機関、治療レベル、診療連携状況を把握するための「埼玉県てんかん診療実態調査」を実施した。調査結果に基づき「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の改訂を行い令和6年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開予定である。

3) てんかん研修の実施

①医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医学生を対象とするてんかんセンターカンファレンスを計11回と特別講演会を1回開催した（表2）。オーガナイザーは伊藤康男（脳神経内科）、事務担当は颯佐かおり（小児科）が担当した。

表 2

53	2024年4月12日	脳神経内科	見上真吾・岡田真里子	痙攣重積を引き起こしたMELASの1例
54	2024年5月10日	脳神経外科	平田幸子	頭蓋内脳波記録を用いて、右側頭葉てんかんの焦点同定を行った症例
55	2024年6月14日	神経精神科	渡邊さつき	扁桃体腫大を伴う左側頭葉てんかんの一例
56	2024年7月12日	小児科	小泉紗友里・寺西宏美	集中治療を要している難治頻回部分発作重積型急性脳炎疑い例
57	2024年8月9日	脳神経内科	岡田真里子	繰り返す変形視と拍動性頭痛を呈した後頭葉皮質静脈奇形の一例
58	2024年9月20日	脳神経外科	高畠和彦	診断に難渋する運動誘発性発作の一例
59	2024年10月11日	神経精神科	木村理沙	テレビゲーム中に発作が生じる10代男性
60	2024年11月8日	小児科	松本 浩	新生児てんかんの1例
61	2024年12月13日	脳神経内科	山口智子	急に「眼の前の物が迫ってくる！」と訴えはじめた63歳男性例
62	2025年1月10日	神経精神科	木村理沙	記憶障害を主訴に精神科外来を受診した側頭葉てんかんの一例
63	2025年2月14日	特別講演会	脳神経外科担当	難治性てんかんへのアプローチ update 脳神経外科 准教授 國井尚人先生
64	2025年3月14日	小児科	寺西宏美	ウエスト症候群の1例

②院外でのてんかん研修としててんかん診療支援コーディネーター担当者（佐藤祐子、中澤望美、坂本綾佳、加藤加奈子）が令和6年度全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回（令和6年7月21日、12月22日）参加し修了証が授与された。

4) てんかん啓発事業

1. 一般市民を対象とした啓発事業として、i) てんかん市民公開講座、ii) 長期療養児教室、iii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベント、iv) パープルデー、v) てんかん啓発のためのYouTubeチャンネル開設を行った。

i) てんかん市民公開講座は令和6年5月18日に開催し、渡邊さつき、寺西宏美、高畠和彦（埼玉医科大学病院神経精神科、小児科、脳神経外科）による講演が行われた。

ii) 小児慢性特定疾患や小児難治てんかんを持つ患者・家族・支援者を主な対象者として坂戸保健所・東松山保健所と共催で長期療養児教室を令和6年10月30日に開催した。山内秀雄（埼玉医科大学病院てんかんセンター長）、中澤望美（同、てんかん診療支援コーディネーター）による講演の後、受講者、講演者と保健所職員による座談会が開催された。

iii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベントでは埼玉医科大学病院内てんかんセンターおよび同難病センター（埼玉県難病診療連携拠点病院）合同企画として「難治てんかん・希少難病疾患に関するポスター展示会」を令和7年2月10日～29日に開催した。開催期間は毎年2月の第2月曜日が世界てんかんの日に指定され、また2月末日が希少難病の日であることが開催期間の主な理由である。ASrid (<https://asrid.org/>) より提供される希少難病に関するポスターパネル、てんかんセンターから難治てんかんに関するポスターパネル、難病センターから希少難病に関するパネルの院内提示を行った。さらに同企画記念講演会として「難治性疾患の予防と新しい治療」というテーマで埼玉医科大学病院医師ら3人の講演者による講演会が令和7年3月8日に開催された。即ち、①「てんかん発作がなかなかおさまらないとき、どんな検査や治療があるかを知ろう」平田幸子（脳神経外科）、②「小児の神経筋疾患の最新治療 エクソン・スキッピングについて」松本浩（小児科）、③「膠原病患者における妊娠を考えた治療と管理」舟久保ゆう（リウマチ膠原病科）。

iv) パープルデーは令和7年3月26日～29日に埼玉医科大学病院てんかんセンター外来に専用ブースを設置して開催され、てんかん啓発ポスター掲示、医師看護師をはじめとするてんかんセンタースタッフの紫色Tシャツ・パープルデーピンバッジの着用、記念クッキーの配布などを行った。

v) てんかん啓発のためのYouTube「埼玉医科大学病院てんかんセンターちゃんねる」の開設を行い、過去3回分の市民公開講座で行った講演記録から10分から15分程度に講演動画を編集作成し配信を行った。配信前には病院内で第三者委員会による個人情報保護に留意した厳重な検閲を行った。

2. てんかんに携わる職種対象とする啓発事業として県内小中高等学校及び特別支援学校の教職員・校医、市町村教育委員会及び教育事務所の職員を対象としたてんかん研修会「現場で役立つ小児てんかんの知識 ～発作時の口腔用液プログラムの使用方法を中心に～」を埼玉県教育委員会共催、埼玉県医師会・埼玉県医師会学校医会後援で令和5年10月23日に開催した。参加者は154名であった。さらに、埼玉県学校保健会が設置した緊急時の医薬品投与等に関する参考資料作成委員会に参加し、てんかん発作時の医薬品投与に関する研修資料（講演動画）を作成した。

4) まとめ

令和6年事業計画で企画した内容をほぼ達成することができた。また予定されていた企画以外に、埼玉県内保健所との共催で小児慢性疾患・難治てんかんに焦点を当てた啓発事業、埼玉県学校保健会の企画でてんかんに携わる教職員に対するてんかん啓発のための教育動画を作成した。てんかん啓発には従来のような対面式の啓発活動に加え、ITを利用した事業を行うことが多くなり、今年度はYouTube専用チャンネルを設置し講演の動画配信を行った。来年度も引き続きそれぞれの優れた点を考慮しながら、埼玉県内におけるてんかん診療のすそ野を広げ、てんかんの啓発をさらに進める予定である。

10. 令和6年度 千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

千葉県循環器病センター 脳神経外科 青柳 京子

まとめ

令和6年度も、千葉県循環器病センターは千葉県てんかん支援拠点病院に指定され、てんかん地域診療連携体制整備事業は5年目を迎えた。WEB研修会や市民公開講座の開催を通じた啓発活動に加え、症例検討会の参加者数・参加施設数の増加、外来患者数や手術件数の増加など、昨年度を上回る成果を上げることができた。また、東邦大学医療センター佐倉病院小児科および浅井病院精神科からの紹介症例のうち、手術に至る症例や、周術期の精神症状に関して浅井病院に診療を依頼する症例が増加し、連携体制の構築による成果が実感された1年となった。

1. 診療に関する事業

1) 診療実績

令和6年度は、脳神経外科医の異動により人員不足の状態での診療体制となり、診療実績が半減することが危惧されたが、集計時点では各指標とも今年度目標値を上回る見込みである。特に外科手術に関しては、本邦初症例を含め難治性てんかんに対する脳深部刺激療法（ANT-DBS）をこれまでに4例実施しており、治療件数も前年と比較し増加している。

2) 診療連携・患者支援に向けての取り組み

今年度は社会福祉士・精神保健福祉士の資格を持ったコーディネーターが加わり2名体制で患者相談に対応し、福祉制度活用のための案内や地域の支援者との連携を行った。昨年同様、外科治療を受ける患者の心理・社会面での支援のために外来から入院まで継続した面談を行い、外来・病棟看護師と連携しながら患者および家族の支援をおこなった。電話相談業務においては引き続き、行政や学校関係者からの相談にも対応し、受診につながる支援をした。てんかんを持つことにより心理的な負担を感じている患者・家族のために、今年度作成したメンタルヘルスに関するパンフレットを用いて心理教育を行っている。昨年同様顔の見える関係の構築を目的とし、コーディネーターが地域のソーシャルワーカーの連絡協議会に積極的に参加した。

3) 多職種・多施設によるてんかん症例検討会開催

平成30年のてんかんセンター設置以来、院内の多職種（脳神経外科医・精神科医・脳神経内科医・看護師（看護局・病棟・外来・手術室）・薬剤師・栄養士・社会福祉士・言語聴覚士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師・事務局）による症例検討会を開催し、診断・治療のみならず、家族背景への配慮や社会福祉資源の活用も含めた検討を重ねてきた。令和2年度よりZoomを用いたオンラインカンファレンスを導入し、多くの施設の多職種の参加者にご参加いただき、各症例についてより活発な議論がなされた。（現在 院内 27名、院外 39名が参加登録）

表1 症例検討会参加者

施設名	医師（診療科）	コメディカル
千葉県循環器病センター	脳神経外科、脳神経内科、精神科	看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、放射線技師、社会福祉士、公認心理師、言語聴覚士、作業療法士、事務
浅井病院	精神科	社会福祉士、精神保健福祉士、臨床検査技師、看護師
東邦大学医療センター佐倉病院	小児科、精神科	
千葉大学医学部附属病院	小児科、脳神経外科	臨床検査技師
行徳総合病院	脳神経外科	言語聴覚士、公認心理師、薬剤師、臨床検査技師
国際医療福祉大学成田病院	脳神経内科、精神科	
亀田クリニック	精神科	
セコメディック病院	脳神経外科	
高根病院		臨床検査技師
千葉県こども病院	小児科	

成田赤十字病院	脳神経外科	
産業医科大学	脳神経外科	

4) 外来医師派遣・オンライン診療導入

てんかんは有病率の高い疾患であるにもかかわらず専門医療へのアクセスが困難であることが課題となっている。一般の脳外科医・神経内科医・精神科医で診断・治療に難渋する症例は当院への紹介を勧めているが、当院の交通アクセスが不良であることから患者が受診を希望しないという現状もある。このため、千葉大学医学部附属病院にててんかん専門外来を開設している。同様に遠方からの通院患者に対しオンライン診療を用いて頻繁に外来受診を行うことで、服薬コンプライアンスの向上と適切な薬剤コントロールを図るべく、令和3年4月よりオンライン診療システムを導入した。今後、遠隔連携診療料の対象となる医療機関同士の連携体制の構築も計画している。

2. 教育・啓発活動に関する事業

1) ホームページ開設

令和2年4月に病院ホームページ内に脳神経外科から独立しててんかんセンターのホームページを開設し、てんかんセンター、てんかんの診断や治療についての情報を掲載した。下記3)のパンフレットのPDF掲載や研修会案内を適宜アップロードしたところ、アクセス数が増加した。また、患者・患者家族が自身でホームページの情報を検索し、専門診療問い合わせや新規外来紹介受診につながる例も多数みられ、外来患者数の増加に寄与した。

2) 研修会・公開講座開催

今年度4回の研修のうち10月および2月開催の市民公開講座は現地開催とWEB開催のハイブリッド開催とした。第1回市民公開講座は、千葉県循環器病センターでの現地開催し「こどもとてんかん」をテーマとした。現地・オンライン合わせて137名にご参加いただき、現地で専門の医療関係者から直に話を聞けることについて高い評価を得た。また、令和7年2月15日の第2回市民公開講座は「てんかんとともに生活するために」をテーマとして千葉ペリエホールでの開催し、現地・オンライン合わせて139名にご参加いただき、活発な質疑応答が行われた。またWEB研修会は、第1回は医療関係者を対象としメンタルヘルスについて、第2回は教育・福祉関係者を対象に発作時対応をテーマとして取り上げた。来年度以降、継続して同様の企画を継続する予定である。

表2 R5年度研修会・公開講座開催実績

研修区分	日付	テーマ	参加人数
医療関係者向け研修会	令和6年7月27日	なんとかなる?なんとかしよう! てんかんプライマリケア<ステップ4>みんなで知ろう、てんかん医療に役立つメンタルケアの基本～精神科以外の支援者のためのコツ～	27
市民公開講座	令和6年10月5日	てんかんを知ろう! その3: こどもとてんかん	137
教育・福祉関係者向け研修会	令和6年12月14日	なんとかなる?なんとかしよう! てんかんプライマリケア<ステップ5>みんなで知ろう、てんかん発作への対応	62
市民公開講座	令和7年2月15日	てんかんを知ろう! その4: てんかんとともに生活するために	139

令和6年度千葉県てんかん支援拠点病院 WEB研修会

なんとかなる？なんとかしよう！
てんかんフライマリア＜ステップ4＞
みんなで知ろう。てんかん医療に役立つメンタルケアの基本
～精神科以外の支援者のためのコツ～

令和6年7月27日(土) 14:30～16:00
Zoomのうえで開催
参加費無料・事前登録制・ライブ配信あり

総合司会 原 広一郎 浅井病院 精神科
同席 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター

第1部 てんかんのメンタルヘルズ対応で困ること
～精神科以外で困ること～
講師 廣二 千葉県立精神センター 精神科
こころについて考える ～心理士の立場から～
講師 地子 水戸市立病院 脳心臓科/脳神経内科

第2部 “そんなことくらいわかっている”という落とし穴
～専門家以外のための精神医学的対応のポイント～
講師 廣二 水戸市立病院 脳心臓科/脳神経内科

質疑応答 司会 金村 英秋 茨城大学医療センター 脳神経科 小児科
原 広一郎 浅井病院 精神科

参加方法
千葉県立精神センター てんかんセンター ホームページから登録ください。
資料の配付、オンライン配信は予定しております。
<https://zoom.us/join?url=https://us02amz7lslh.zoom.us/j/98585858585>

申し込み締め切り：令和6年7月26日
15時(当日17時以降は受付できません) 申し込みは、
TEL 0436-663111 FAX 0436-663032

令和6年度千葉県てんかん支援拠点病院 市民公開講座

てんかんを知ろう！その3
こどもとてんかん

令和6年10月5日(土) 14:00～15:45
Zoomのうえで開催
参加費無料・事前登録制・ライブ配信あり

総合司会 原 広一郎 浅井病院 精神科
同席 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター

イントロダクション
講師 地子 千葉県立精神センター てんかんセンター
こどもとてんかんの看護・ケア
山口 真由 茨城大学医療センター 脳神経科 小児科 主任看護師
てんかんと家族の課題
講師 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター
特別講演
講師 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター
講師 廣二 浅井病院 精神科

てんかんのあるこどもの生活について
～製作・鑑賞・発表～
講師 廣二 浅井病院 精神科

質疑応答 司会 金村 英秋 茨城大学医療センター 脳神経科 小児科
原 広一郎 浅井病院 精神科

参加方法
お近くのQ&Aより事前申し込みをお願いします。
※千葉県立精神センター てんかんセンター ホームページから登録可能です。
※当日は当日参加も可能です。
申し込み期間：令和6年9月1日～10月4日
申し込みは、
TEL 0436-663111 FAX 0436-663032

令和6年度千葉県てんかん支援拠点病院 WEB研修会

なんとかなる？なんとかしよう！
てんかんフライマリア＜ステップ5＞
みんなで知ろう。てんかん発作への対応

令和6年12月14日(土) 14:00～15:35
Zoomのうえで開催
参加費無料・事前登録制・ライブ配信あり

総合司会 原 広一郎 浅井病院 精神科
同席 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター

第1部 てんかんとはどのような病気か
講師 廣二 浅井病院 精神科
てんかん発作を起こした方へのケア
講師 廣二 浅井病院 精神科

第2部 こんなときどうする？
～てんかん発作時の対応～
講師 廣二 浅井病院 精神科

第3部 指定医療 子どものてんかんの特徴
講師 廣二 浅井病院 精神科

Q&A
講師 廣二 浅井病院 精神科

参加方法
千葉県立精神センター てんかんセンター ホームページから登録ください。
資料の配付、オンライン配信は予定しております。
<https://zoom.us/join?url=https://us02amz7lslh.zoom.us/j/98585858585>

申し込み締め切り：令和6年12月13日
15時(当日17時以降は受付できません) 申し込みは、
TEL 0436-663111 FAX 0436-663032

令和6年度千葉県てんかん支援拠点病院 市民公開講座

てんかんとともに生活するために

令和7年2月15日(土) 14:00～15:40
Zoomのうえで開催
参加費無料・事前登録制・ライブ配信あり

総合司会 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター 精神科
原 広一郎 浅井病院 精神科

てんかんとはどんな病気？
講師 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター 精神科
てんかんの福祉制度：利用できるものは？
講師 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター 精神科
仕事を続ける支援：フレックスタイムなどについて
講師 廣二 千葉県立精神センター てんかんセンター 精神科

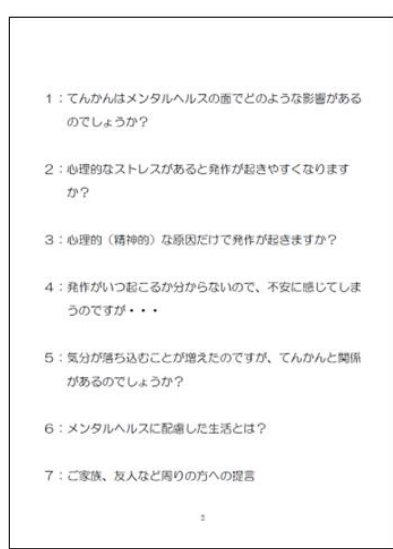
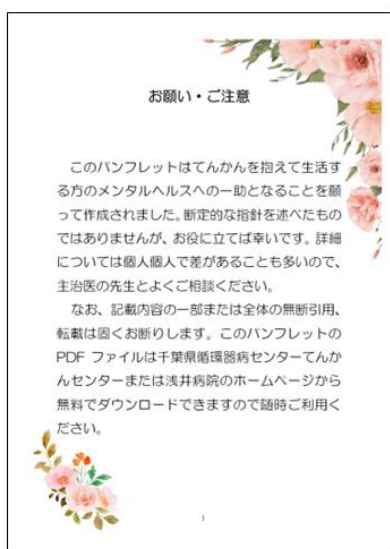
こどものてんかんの特徴 ～理解と支援に向けて～
講師 廣二 浅井病院 精神科

質疑応答 司会 金村 英秋 茨城大学医療センター 脳神経科 小児科
原 広一郎 浅井病院 精神科

参加方法
お近くのQ&Aより事前申し込みをお願いします。
※千葉県立精神センター てんかんセンター ホームページから登録可能です。
※当日は当日参加も可能です。
申し込み期間：令和7年1月1日～2月14日
申し込みは、
TEL 0436-663111 FAX 0436-663032

3) パンフレットの作成・配布

令和2年度に作成した外来患者向けパンフレット「てんかんと診断された方へ」「てんかんの外科治療について」「災害への備え」を外来に設置するほか、ホームページからPDFとしてダウンロードできる形で公開している。今年度、「てんかんとメンタルヘルズについて」のパンフレットを作成し、ホームページへのアップロード及び外来設置を開始した。



1 1. 令和 6 年度 東京都てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

国立精神・神経医療研究センター病院脳神経外科 岩崎真樹

概要

2022 年 9 月 1 日に国立精神・神経医療研究センターが東京都のてんかん支援拠点病院に指定された。昨年度に続き、ウェブフォームによる相談事業と市民啓発活動等を継続し、てんかん治療医療連携協議会を 2 回開催した。令和 6 年度は、てんかん医療機関を検索できる診療マップを作成し、ホームページに公開した。また、当事者によるピア相談を実施するための準備を行った。

東京都は背景人口が多く、てんかん専門医療施設も複数存在するため、拠点病院と複数の連携病院が連携しながら事業を進めていく体制が必要である。過去の協議会における議論を経て定めた要綱に従って連携病院を応募し、選定作業を進めた。

都内の指定自立支援医療機関（精神通院医療）およびてんかん診療ネットワーク掲載機関（計約 2100 件）を対象に実施したアンケート調査にもとづき、掲載希望があった医療機関 283 件の情報をホームページ上に公開した。てんかん診療マップの情報をもとに、拠点病院と連携病院が共同しながら地域連携を強化していこうと考える。

東京都の実態（指定前の令和 3 年度事業より）

令和 3 年度東京都てんかん診療連携体制整備事業の委託で実施したアンケート調査の結果を転記する。2021 年 6 月に、東京都医療機関案内サービス（ひまわり）に登録されているてんかん診療施設を対象に調査し、計 864 件の郵送に対して 304 件の回答を得た（施設単位の回答率 26.2%）。

53.5%の施設は、月当たりの平均てんかん患者数が 10 人未満であった。内科やその他の診療科からの回答が相当数あり、てんかん診療の裾野が広く、てんかん患者を診療する非てんかん専門医が多いことが伺えた。

61.5%の施設が薬剤調整～診断治療一般を実施していると回答したが、85.8%の施設は年間紹介数が 10 人未満もしくはゼロであった。紹介目的の約 20%は患者都合・希望であり、紹介を必要とする患者が少ない、あるいは紹介が必要だが紹介先が分からないなどの理由が考えられ、てんかん診療レベルに応じた病院・診療所間連携がうまくいっていない可能性が示唆された。てんかん専門施設への医療圏を跨いだ紹介や東京都外への紹介も目立った。なお、小児科の回答割合は想定よりも少なく、調査対象に偏りがあった可能性がある。

1. てんかん治療医療連携協議会

2024 年 9 月 25 日と 2025 年 1 月 20 日の 2 回、てんかん治療医療連携協議会を Web 開催した。委員の構成は以下のとおりである。

- ・日本てんかん協会東京支部と連携して、当事者によるピア相談『てんかん患者と家族のピア相談』を、2025 年 3 月 19 日のパープルデイイベントにあわせて開催予定となった。
- ・支援拠点病院と複数の連携病院がネットワークを形成して事業を進める。東京都てんかん地域診療連携体制整備事業実施要綱に基づいて、連携病院を応募し、5 施設から申請があった。
- ・連携病院の申請書類の簡略化を進め、三年未満の複数年指定を可能とした。
- ・東京都庁ライトアップの要望について相談を行った。

令和 6 年度東京都てんかん治療医療連携協議会メンバー

区分	氏名	所属等
支援拠点病院	岩崎真樹	NCNP 病院 脳神経外科
	中川栄二	NCNP 病院 副院長／てんかん診療部
	谷口豪	NCNP 病院 てんかん診療部
医師会等	平川博之	東京都医師会副会長
	菊池健	東京精神科病院協会常務理事
	岩木久満子	東京精神神経科診療所協会理事
てんかん専門医療施設	前原健寿	東京科学大学病院医学部付属病院てんかんセンター
	飯村康司	順天堂てんかんセンター
	嶋田勢二郎	東京大学医学部附属病院てんかんセンター
	松尾健	東京都立神経病院てんかん総合治療センター

	須永茂樹	東京医科大学八王子医療センター
患者・家族	中村千穂	日本てんかん協会東京都支部・事務局長
	川上純一	日本てんかん協会東京都支部代表
東京都	菊地章人	東京都福祉局障害者医療担当部長
	桑波田悠子	東京都保健医療局多摩小平保健所・保健対策課長

2. ホームページの運用

・東京都てんかん支援拠点病院のホームページ（2023年3月1日公開）を運用した。ホームページは、事業概要、東京都てんかん治療医療連携協議会、てんかんとその診療に関する概説、てんかん相談、事業の活動報告、リンク集から構成される。このホームページ上のフォームを介しててんかんに関する相談を受け付けた。活動報告には、市民公開講座の配布資料と動画を掲載し、広く公開した。

3. てんかん相談

・ホームページ上のトップにてんかん相談へのリンクを設け、ウェブ上のフォームから相談を受け付けるシステムである。開始から2025年1月8日現在まで、計155件の相談を受け付けた。1ヶ月に2～13件程度の相談件数となっている。相談対象者の年齢は、20代以下と40代が最も多く、診断や検査治療に関する内容が半分以上を占め、続いて医療機関紹介に関すること、自動車運転・運転免許に関することが続く。相談者の居住地域は、東京都が61%、東京都を含む関東が90%を占めるが、一部北海道や沖縄など、遠方からの相談も見られた。

・医師を含む院内のてんかん診療支援コーディネータが分担して回答を作成しているが、医療的な相談が多いことから医師の負担が大きくなっている。65%は7日以内に回答を送付しているが、10日以上かかることもあり、改善が必要である。

・相談結果について、概ね1ヶ月後を目処にアンケートを行っている。ホームページやSNSを見て東京都てんかん相談を知った方が72%を占めた。約6割の方が相談結果に満足した一方で、1割程度は満足な回答が得られなかったと答えた。丁寧な回答に対してお礼メールをくださる方も少なくない。一方、特に診断や治療方針の相談に対しては医学的に責任のある回答が難しいため、相談者の期待に応えられていないと思われる。転医が望ましいかもしれない相談について、「まずは主治医への相談」を勧めることが多いが、実際には診断・治療への疑問を主治医に相談しにくいと、回答への不満を呈する意見が目立った。

・対面相談については、院内の医療連携福祉相談室にてんかんを担当するソーシャルワーカーを2名配置して受け入れた。

国立精神・神経医療研究センター 総合てんかんセンター

てんかん 市民公開講座
てんかんについて知ろう！
※参加費無料 事前登録が必要です

事前登録URL
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_5ZsdBjokT0y7EGk9-h4D7w#/registration
登録はこちら

2023年度開催てんかん市民公開講座動画 YouTube 配信中
<https://tokyo-esc.ncnp.go.jp/activity.html>

2024年7月28日(日)
14:00~16:00 オンライン開催

プログラム

司会 齋藤貴志(脳神経小児科副部長)
開会のあいさつ 岩崎真樹(脳神経外科部長)

1. てんかんと子どもの発達 齋藤貴志(脳神経小児科)
2. てんかんとこころの問題 谷口豪(てんかん診療部)
3. 車の運転と免許について 岩崎真樹(脳神経外科)
4. 支援制度と生活のサポート 外山愛(地域連携医療福祉相談室)

開会のあいさつ 中川栄二(総合てんかんセンター長)

主催 国立精神・神経医療研究センター病院 総合てんかんセンター
東京都てんかん地域診療連携体制整備事業 お問い合わせ: epi-tokyo@ncnp.go.jp

2024年度 第2回 **てんかん 市民公開講座**
てんかんについて知ろう！
※参加費無料 事前登録が必要です

事前登録URL
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_9SIOEps6Si2OwsgB8ShR0Q

2024 12/15 日 事前登録はこちら
14:00~16:00 オンライン開催

プログラム

司会/岩崎真樹(脳神経外科部長)
開会のあいさつ/中川栄二(総合てんかんセンター長)

1. てんかんとともに生きる 日常生活の注意点と工夫 /原稔枝(看護部)
2. てんかんの検査 /住友典子(脳神経小児科)
3. てんかんのニューロモジュレーション治療 /林貴啓(脳神経外科)
4. てんかんに関するQ&A /齋藤貴志(脳神経小児科)

質疑応答の時間もあります

開会のあいさつ/谷口豪(てんかん診療科医長)

主催 国立精神・神経医療研究センター病院 総合てんかんセンター
(東京都てんかん支援拠点病院)
東京都てんかん地域診療連携体制整備事業
お問合せ: epi-tokyo@ncnp.go.jp

3. 医療従事者、関係医療機関、てんかん患者及びその家族等に対する研修

・てんかん市民公開講座

第1回 2024年7月28日： 登録者235名、参加者148名（出席率63%）

第2回 2024年12月15日： 登録者184名、参加者123名（出席率67%）

いずれも開催後にホームページ上で資料と動画を公開した（原稿執筆時点で第2回の動画については公開予定）。また、講座退室時にアンケートを実施した。参加者は、40～50代の女性が中心で、患者さんのご家族と医療従事者が多かった。ホームページやSNSを介して知った参加者が多く、6割以上は関東圏だったが、近畿や北海道、九州など全国からの参加者があった。

・パープルデイイベント

2024年3月22日に市民向けの疾患啓発イベントとして国立精神・神経医療研究センター病院外来棟で開催した。てんかん啓発に関するクイズに85名が参加した（全問正解率36.5%）。イベントに合わせて病院前をパープルにライトアップした。参加者にハート型のメッセージカードを貼つてもあり、力を合わせて大きなハートを作るイベントを行った。クイズ等の参加者には疾患啓発のグッズを配布した。今年度も、2025年3月19日にパープルデイイベントを予定している。



4. てんかん診療マップ作成と公開

・てんかんのかかりつけ医を探せる医療機関マップの作成を目標に、アンケート調査を実施した。東京都内の指定自立支援医療機関（精神通院医療）とてんかん支援ネットワーク（https://epilepsy-center.ncnp.go.jp/epilepsy_support_nw/）に掲載されている都内施設、計2,173件を対象に、2024年1月25日にアンケートを送付した（2月19日締切）。回答項目は、てんかん診療を行う診療科目、てんかん診療の対象年齢、各科におけるてんかん専門医の有無、てんかんの診療機能、実施できる検査、てんかん患者の入院診療の可否、てんかん発作・重積患者の救急搬送受け入れの可否である。診療機能には、安定した患者さんの継続診療（処方）が可能かどうか、併存症を有する患者さんの通院が可能かどうかを選択肢に含めた。FAXに加えて、Google formで回答できるようにした。

・最終的に、計419施設から回答を得て、そのうち269件はGoogle formによる回答だった。診療マップとしてホームページに掲載可と回答したのは283施設であった。この集計結果は、事業を進める上での資料として活用予定である。

・ホームページに掲載可能と回答した施設を対象に、てんかん診療機関リストを2025年1月6日に公開した。医療機関検索のバナーをホームページのトップに設けて、分かり易いように配慮した。診療科目、対象年齢、てんかん専門医の有無、てんかんの診療機能、実施できる検査、二次医療圏に従った検索機能をつけた。医療機関の案内には、ホームページと地図へのリンクを設けた。また、新たに登録を希望する医療機関向けの登録票と案内をつけた。てんかん診療マップの掲載内容は、年に1回程度継続的に更新する方針である。





てんかんを診る医療機関の検索

事業概要



てんかんを診る 医療機関の検索



てんかんに関する相談



てんかんと その診療について



東京都てんかん治療 医療連携協議会



活動報告



リンク集



てんかんを診る医療機関の検索

登録を希望される医療機関の方へ

診療科目	☐ 脳神経内科 ☐ 小児科 ☐ 脳神経外科 ☐ 精神科 ☐ その他 ☐ 全て選択
対象年齢	☐ 小児 ☐ 思春期 ☐ 成人 ☐ 高齢者 ☐ その他 ☐ 全て選択
てんかん専門医の有無	☐ 有 ☐ 無
てんかんの診療機能	☐ 安定した患者さんの継続診療（処方） 継続処方 ☐ 発作がある患者さんの内服調整 内服調整 ☐ 知的障害を併存している患者さんの通院 知的障害 ☐ 発達障害を併存している患者さんの通院 発達障害 ☐ 身体障害・医療的ケアを要する患者さんの通院 身体障害 ☐ 精神的併存症を有する患者さんの通院 精神症状 ☐ 迷走神経刺激療法の管理 VNS ☐ てんかん患者の入院診療 入院診療 ☐ てんかん発作・重症患者の救急搬送受入れ 救急搬送 ☐ 全て選択
実施できる検査	☐ 抗てんかん薬の血中濃度測定 ☐ 脳波 ☐ 長時間ビデオ脳波 ☐ MRI ☐ 全て選択
市区町村	☐ 区中央部（千代田区、中央区、港区、文京区、台東区） ☐ 区南部（品川区、大田区） ☐ 区西南部（目黒区、世田谷区、渋谷区） ☐ 区西部（新宿区、中野区、杉並区） ☐ 区西北部（豊島区、北区、板橋区、練馬区） ☐ 区東北部（荒川区、足立区、葛飾区） ☐ 区東部（墨田区、江東区、江戸川区） ☐ 北多摩南部（武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市） ☐ 北多摩北部（小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市） ☐ 北多摩西部（立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市） ☐ 南多摩（八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市） ☐ 西多摩（青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原市、奥多摩町） ☐ 島しょ（大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村） ☐ 全て選択

検 索

※施設情報は、調査時点の施設の自己申告に従って掲載しております。対象年齢や診療機能などはあくまで目安です。受診の可否については、医療機関に直接お尋ねください。

1 2. 令和6年度 神奈川県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンター
センター長 清水 直樹

副センター長 太組 一朗

てんかん診療支援コーディネーター 石丸 貴子

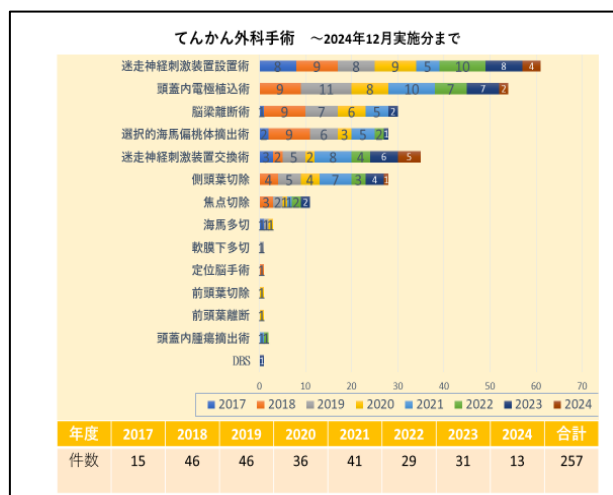
1. 神奈川県てんかん支援拠点病院としての取り組み

神奈川県支援拠点病院では、令和6年度も引き続き難治てんかん患者への高度な治療の提供、複数科からなる包括的な医療の体制の整備、専門医・コメディカルの育成等を行ってきた。また、拠点病院を中心として、てんかん診療に関わる医師、政令市代表、精神保健福祉センター、医師会、労働局、SW、患者、家族等をメンバーとしててんかん医療・社会連携協議会を運営し、県民に向けて普及啓発活動や医療、福祉関係者への研修等を行ってきた。ホームページや行政の広報、新聞等のメディアを通じて、拠点事業やてんかんセンターに関する情報発信にも力を入れている。前年度から包括的てんかん専門医療施設に認定され、引き続き神奈川県てんかん診療の拠点施設としての役割を担う。

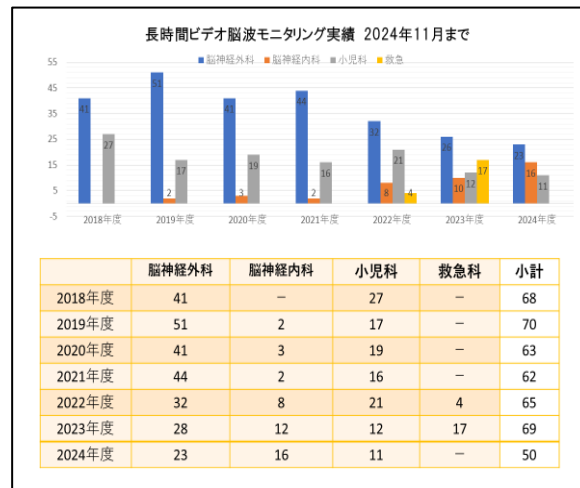
2. 支援拠点病院診療実績

てんかん外科手術：2018年度45件、2019年度45件、2020年度33件、2021年度44件、2022年度29件、2023年度31件。内訳は（資料1）。長時間ビデオ脳波モニタリング：2018年度68件、2019年度70件、2020年度63件、2021年度62件、2022年度65件、2023年度69件。（資料2）。今年度は12月までで、てんかん外科手術13件、長時間ビデオ脳波モニタリング50件となっている。てんかん外科手術、長時間ビデオ脳波モニタリング共に年間を通してコンスタントに実施している。今年度からDBSを開始した。てんかん受診外来患者数（延べ人数）：2018年度17,126人、2019年度16,354人、2020年度14,658人、2021年度15,950人、2022年度16,071人、2023年度15,691人。入院患者数（延べ人数）：2018年度358人、2019年度485人、2020年度407人、2021年度433人、2022年度439人、2023年度518人。紹介件数：2018年度422件、2019年度442件、2020年度420件、2021年度462件、2022年度444件、2023年度481件。2020年度はコロナの影響で患者数、紹介数が減少していたが、2021年度以降は増加している。紹介患者に関しては、川崎市、横浜市からが多数を占めるが、横浜市、川崎市以外の地域からの割合も増加傾向にある。紹介元の医療機関数は2018年度の255施設を起点として2019年度には168施設増加、2020年度には135施設増加、2021年度には102件、2022年度には227件の新たな施設から紹介があり、5年間で延べ774施設となっている。てんかん診療支援コーディネーターが担当しているてんかん相談件数については2018年度100件、2019年度275件、2020年度180件、2021年度は207件、2022年度は256件、2023年度は304件となっている。今年度は11月までで177件と前年度よりは減少しているが、てんかん相談窓口はインターネットで情報を公開しているため、相談者の居住地域は広範囲にわたり、県外からの相談も多く内容も多岐にわたる。

（資料1）



（資料2）



3. 啓発活動

神奈川県では、例年通り年2回の「てんかんの研修会・市民公開講座」を実施しており、1回目は11月23日に実施済みで、2回目は3月16日に実施する。今年度から会場での実施を再開し、11月は対面で行った。また、YouTubeを使用し、オンデマンド視聴も可能にした。今年度1回目の「てんかんの研修会・市民公開講座」では、研修会で就労について、市民公開講座ではCBDや最新治療をテーマに講演を行った(資料3)。専門医の講演に加え、実際事業所で支援を行う専門家を招いて講演を実施し、参加者や講師を交え活発な意見交換がなされた。3月には2回目の「てんかんの研修会・市民公開講座」の実施を予定しており、「小児てんかん」をテーマとしたプログラムを組んでいる。(資料4) また、毎年実施しているパープルデーライトアップについても、3月に例年通り行う予定となっている。(資料5) 県内7施設での実施を予定しており、こちらもYouTubeを活用した、映像の配信を行う。協議会で公式エクス(旧Twitter)アカウントを作成しており、随時最新情報の発信を行っている。パープルデーの写真を撮影して、エクスで投稿してもらい、パープルデーを盛り上げるよう、呼びかけている。

4. 協議会

てんかん診療に関わる医師、県、政令市の代表、精神保健福祉センター、医師会、労働局、SW、患者、家族等をメンバーとしたてんかん医療・社会連携協議会を年2回実施している。(表1) 今年度は8月に行い2回目は年度末の3月に実施を予定している。協議会では事業の実施計画や報告、啓発の方向性や、県内のてんかん診療連携の問題点等、様々な議題を取り扱っている。ここ3年ほどはZoomを使用しオンラインで会議を行っている。協議会のメンバーに県や政令市の担当課長や労働局の担当者等が加わっていることで、行政の協力が得やすい点は、本事業における最大のメリットであり、利点を生かして今後も事業を進めていく。

5. その他取り組み

てんかん診療支援拠点機関の役割として、複数診療科、多職種による包括診療を行う環境整備が求められており、当院では医師、看護師、コメディカル等多職種をメンバーとするてんかんセンター運営委員会を年3回開催している。また、複数科の医師、コメディカルが参加するてんかん症例カンファレンスを週1回実施しており、今年度てんかん症例に関するカンファレンスは2月までで32回ほど実施された。参加者は現在11施設、延べ57名程となっており、てんかん診療に関わる複数科の医師らが集まり、意見交換やスキルアップを行う場を設けている。

また、研究活動も積極的に実施しており、令和6年度は厚生労働省科学研究「カンナビノイド医薬品とカンナビノイド製品の薬事監視」を実施している。

4. 今後の課題

神奈川県は人口922万人に比して専門医の数は少なくかつ偏在しており、未だ県内のてんかん医療の均てん化には課題を残している。また神奈川県内の専門医の診療科は53名中小児科34名、脳神経外科7名、脳神経内科8名、精神科4名と偏りがあり、大人を診る専門医の数は特に少ない。

横浜、川崎地区から離れた県央、県北、湘南地区からの相談は多く、今後も引き続き県内の医療連携体制の構築に力をいれ、てんかん患者が適切な医療を等しく受けられるような環境を検討し整備していく必要がある。

(資料3)

(資料4)

(資料5)

てんかん医療・社会連携協議会構成

(表1)

		所属先・推薦団体等	役職（職種等）
1	拠点機関	聖マリアンナ医科大学病院	教授・脳神経外科 てんかんセンター副センター長
2		聖マリアンナ医科大学病院	教授・小児科医長 てんかんセンター 副センター長
3		聖マリアンナ医科大学病院	主任教授・小児科 てんかんセンター センター長
4		聖マリアンナ医科大学病院	主任教授・脳神経内科 てんかんセンター 副センター長
5		川崎市立多摩病院	教授・小児科部長
6	てんかん治療に関わる医療従事者	鎌倉療育医療センター小きさきの園	小児神経科
7		日本医科大学武蔵小杉病院	病院教授・精神科
8		神奈川県立こども医療センター	神経内科部長
9		重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎	副施設長・小児科
10		横浜医療福祉センター港南	診療支援部長
11		横浜市立大学附属病院	神経内科学・脳卒中医学助教 神経内科・脳卒中科
12		てんかんと発達横浜みのる 神経クリニック	院長
13		北里大学病院	講師・小児科
14		原クリニック	院長
15		東海大学医学部付属病院	講師・脳神経内科
16	地域医療連携	神奈川県医師会	理事
17	労働問題	神奈川労働局 職業対策課	地方障害者雇用担当官
18	社会福祉	てんかん診療支援コーディネーター (聖マリアンナ医科大学病院)	社会福祉士
19	当事者・家族	日本てんかん協会	当事者
20		日本てんかん協会	家族
21	「神奈川県健康福祉局 福祉センター」内 「保健福祉部社会福祉課」	神奈川県健康医療局保健医療部	精神保健医療担当課長
22		川崎市総合リハビリテーション推進センター	所長
23		川崎市健康福祉局障害保健福祉部精神保健課	課長
24		横浜市健康福祉局障害福祉部 精神保健福祉課	課長
25		相模原市健康福祉局地域包括ケア推進部 精神保健福祉課	課長

1 3. 新潟県におけるてんかん診療連携—西新潟中央病院—（2024 年）

国立病院機構西新潟中央病院副院長 遠山 潤

国立病院機構西新潟中央病院臨床研究部長 福多真史

まとめ

- 2023 年度の西新潟中央病院の新規てんかん患者数は、最近 8 年間でもっとも少なかった 2022 年度よりも増加したが、2019 年度以前までには回復していなかった。また県外からの紹介患者の割合は 2022 年度よりもやや減少していた。
- てんかん外科件数は 2022 年度よりも 10 件以上減少していたが、2024 年に導入された手術支援ロボットにより、今後てんかん外科件数の増加が見込まれる。
- 研修セミナーや市民向けの講演会などは Web 開催で行われ、高い視聴者回数を維持していた。

1. 診療実績

現在当院のてんかんセンターは、2024 年度 4 月からは小児神経科医 7 名（てんかん専門医 4 名）、精神科医 1 名（てんかん専門医）、脳神経外科医 5 名（てんかん専門医 4 名）、脳神経内科医 1 名の 14 名で診療を行っている。てんかんの診療機器としては、1.5 テスラ MRI、SPECT、MEG、ビデオ脳波記録 5 台などで、例年と変わりはない。

2023 年度のてんかん新規患者数は 434 名で、最も少なかった 2022 年度よりも増加したが、2019 年度以前のレベルまでは回復していない（図 1）。COVID-19 のパンデミックの影響により、受診控えの傾向が継続しているものと思われる。

2023 年度の初診時診断では、例年と比較してその割合に著変はなかった。非てんかん症例は 121 名（27.9%）で、これは 2022 年度が 30%を超えていたので、その割合は少し減少していた（図 2）。

紹介元の診療形態は神経専門医（脳外科、脳神経内科、精神科、小児神経科など）とそれ以外に分けたが、ほぼ同様の割合であった。（図 3）。てんかん専門医からのご紹介の患者数は前年の 15 人から 6 人に減少した。

紹介元の地域は新潟市が 248 名（57.1%）、新潟県全体では 402 名（92.6%）で、割合としては、2022 年度の県全体の割合が 88.1%であったので、県外から紹介患者の割合は相対的に減少していた（図 4）。とくに近県である富山県が 9 人から 2 人に、山形県が 4 人から 1 人に、群馬県の 2023 年度は 0 であった。福島県と長野県は前年度とほぼ同数であったが、山形県の日本海側、福島県の会津地方、長野県の北部、群馬県の北部、富山県などのてんかん専門施設が少ない地域でのてんかん治療難民に対するてんかん啓発活動が必要と思われる。

2023 年 1 月から 12 月までの当院でのてんかん外科の手術件数は 49 件で、2021 年、2022 年に比較して

図1



図2

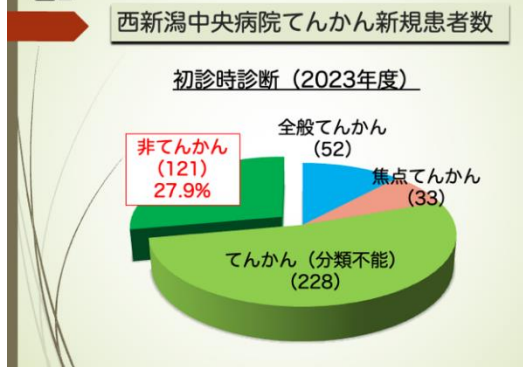


図3

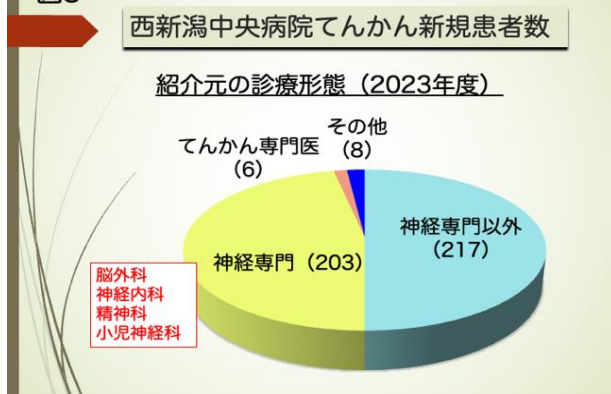
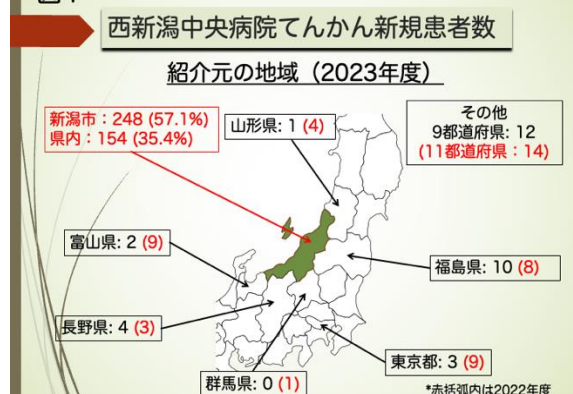


図4



10 件以上減少していた（図 5）．世界的にも傾向が続いている側頭葉切除の件数の減少や定位温熱凝固術の減少に起因するものと思われる．

2024 年 1 月から手術支援ロボットシステムである ROSA one brain system が当院に導入された．これにより，広範囲に焦点が存在する症例，脳深部に焦点が疑われる症例などに対しても，積極的に定位的深部脳波検査(SEEG) を行う症例が今後増加するものと思われる．SEEG 症例が増加すれば，その後の焦点切除などの根治的治療は言うまでもないが，2023 年に承認された視床前核に対する脳深部刺激療法あるいは迷走神経刺激療法などの緩和的治療の適応となる症例の発掘にもつながり，最終的にはてんかん外科手術件数の増加につながるものと期待している．

図5

西新潟中央病院てんかん外科件数



2. 教育・啓発活動

研修活動は，2023 年度も引き続き Web 開催で行われた．医師向けのとんかん夏季セミナーは 2022 年度の 46 名から 56 名に増加し，看護師研修会は 2022 年度が 501 名から 672 名に増加した．臨床検査技師研修会は 2022 年度が 338 名だったのが，2023 年度は 251 名に減少したが，実習型研修を再開して 10 名の検査技師が参加した．学校や保育園の先生などに向けた専門職のためのてんかん研修は，Web 研修会にしてから参加人数が大幅に増加し，現地開催時は 100 名未満だったのが，2022 年度は 1370 名，2023 年度は 1492 名であった．Web 開催に変更してもっとも参加人数が伸びた研修会である．市民向けの講演会は 2023 年度は 2 回開催され，1 回目が 178 回，2 回目が 149 回といずれも 100 名を超える市民の方に視聴いただいた．今後も研修セミナーや一般向けの講演会は，Web 開催の形態で，教育・啓発活動を行っていく予定である．

3. 新潟大学および地域の基幹病院との診療連携

2015 年 10 月から新潟大学脳神経外科との診療連携ははじまり，高磁場 MRI（3 テスラ，あるいは研究用の 7 テスラ），FDG-PET 検査を大学に依頼して，てんかん外科の術前評価を行っている．特に 3 テスラ MRI と FDG-PET は焦点てんかんにおいての有用なモダリティで，近年検査を依頼する件数が増加している．さらには脳研究所統合機能センターの 7 テスラ MRI を用いたてんかんの画像研究にも取り組んでいる．

新潟県の他の地域との連携に関しては，県北部の県立新発田病院，中越地区の長岡赤十字病院，魚沼基幹病院，上越地区の県立中央病院などを地域の基幹病院として，今後さらなるてんかん診療連携の強化をはかる予定である．

4. 今後の課題と改善点

2023 年度の新規患者数は回復傾向だったが，まだ COVID-19 のパンデミック以前のレベルまでは回復していない．2024 年に手術支援ロボットが導入されたことによって，より多くの薬剤抵抗性てんかん患者がてんかん外科の恩恵を受けられるように，一般市民へのてんかん診療の啓発活動を継続することが重要であると思われる．

*てんかん治療連携協議会委員

新潟県福祉保健部障害福祉課長 島田久幸

新潟県福祉保健部障害福祉課主任 服部麻耶加

新潟県精神保健福祉センター所長 阿部俊幸

新潟大学脳神経外科助教 平石哲也

日本てんかん協会新潟県支部代表 矢部日出海

西新潟中央病院副院長 遠山潤

西新潟中央病院てんかんセンター長 福多真史

1 4. てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度石川県拠点機関としての活動状況報告書

医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 てんかんセンター
廣瀬 源二郎、中川 裕康

1. てんかん地域診療連携体制整備

本院は 2013 年にてんかんセンターを設置、2018 年 10 月に厚労省および自治体（石川県）によるてんかん地域診療連携整備事業として『石川県てんかん診療拠点機関』として選定された。てんかんセンター設置時から県内の医療従事者を対象とした最新のてんかん診断や治療に関する知見を得るための研修会並びにてんかん患者およびその家族を中心に住民のてんかんに関する知識や理解向上を図るための公開講座を毎年開催する等、てんかん治療の向上並びに患者さんと家族に対する相談支援や、てんかんに関する正しい知識の普及啓発に努めてきた。さらに専門医育成を目的とした脳波判読カンファレンス「浅ノ川総合病院てんかんカンファレンス」を毎月開催、現在では医師だけでなく多職種が参加し、県外からの参加者もいるカンファレンスとなった。2024 年 9 月からは「北陸てんかん・脳波カンファレンス」と名称を変更、日本臨床神経生理学会（脳波分野）の研修病院である福井赤十字病院と共同開催となり、県内だけでなく北陸地域のてんかん治療の向上に努めている。北陸唯一のてんかんセンターとして石川県のみならず富山県、福井県の医療機関からの紹介や患者も多く、着々とその実績を積み重ねてきている。全国の拠点機関とも連携をとり、てんかん患者のため適切なてんかん治療や種々の援助を広めていく所存である。

2. 事業進捗状況

1) 石川県てんかん治療地域連携協議会

2018 年に当院てんかんセンター長である廣瀬源二郎を代表として「石川県てんかん治療地域連携協議会」が設置された。2024 年度は下記 21 名を世話人として活動を行っている。

2025 年 3 月に年 1 回の世話人会、第 12 回全国てんかんセンター協議会総会 JEPICA2025 金沢大会の開催を予定している。

◆石川県てんかん治療地域連携協議会世話人

職種等	人数
脳神経外科医	1 名（てんかん専門医：1 名）
脳神経内科医	2 名（てんかん専門医：2 名）
精神科医	1 名
小児科医	4 名（てんかん専門医：4 名）
てんかんコーディネーター	2 名（看護師 2 名）
石川県健康福祉部	3 名
石川県保健福祉センター	1 名
石川県教育委員会	1 名
日本てんかん協会（波の会）	3 名
事務局・会計	3 名

2) てんかん診療拠点機関の診療実績と患者受診状況

2024 年 1～12 月の当院てんかんセンターにおけるてんかん診療実績は下記の通り、ほぼ例年通りであった。

◆てんかん診療実績（2024 年 1～12 月）

◇てんかん診療の実績

項目	小児科	脳神経内科	脳神経外科	合計
てんかん外来新患者数（年総数）	41	111	202	354
てんかん再来患者数（1 日あたり平均）	5.3	5.8	16.5	21.6
てんかん入院患者数（年総数）	27	22	300	349
てんかん在院患者数（1 日あたり平均）	0.21	1.13	19.44	20.78

ビデオ脳波モニタリング施行患者数（年総数）	29	10	11	50
てんかん手術患者数	0	0	21	21

◇てんかん手術内訳患者数

術式	人数
焦点切除術	2
深部電極設置	2
脳梁離断術	2
VNS 刺激装置植込み術	3
VNS 刺激装置電池交換術	12
合計	21

◇てんかん患者受診状況調査

項目	類別	人数
受診患者（実数）	入院	349
	外来	1352
受診患者（年齢別）	成人	1185
	小児	226
受診患者数（性別）	男	760
	女	651
長時間ビデオ脳波モニター検査数（延べ数）		183
外科手術数		20
紹介患者数		442
逆紹介患者数		399

◇てんかん病名を持つ患者の地域別紹介件数

診療科	石川県	福井県	富山県	その他	合計
脳神経内科	110	2	30	1	143
脳神経外科	193	16	35	2	246
小児科	42	4	6	1	53
合計	345	22	71	4	442
	78.1%	5.0%	16.1%	0.9%	
		21.9%			

3) てんかん診療拠点機関のてんかん診療支援コーディネーター業務

てんかんコーディネーター4名（看護師：2名、社会福祉士：2名）がてんかんに関する相談業務に当たっている。看護師と社会福祉士が連携し、治療だけでなく、地域資源や社会保障制度などを活用し、より良い生活が行えるよう支援を勧めている。

◆相談実績（2024年1～12月）

61件	(内訳)	・ 社会保障制度の活用について	：	45件
		・ 受診について	：	7件
		・ 車について	：	3件
		・ 日常生活について	：	2件
		・ 治療について	：	2件
		・ 転院について	：	1件
		・ 転職について	：	1件

4) 地域医療への啓蒙活動

医療従事者を対象としたてんかんの診断や治療などの最新の知見についてのセミナーは、当院てんかんセンターが中心となって開催する第12回全国てんかんセンター協議会総会 JEPICA2025 金沢大会の開催をもって実施とする。地域住民を対象としたてんかんに関する知識や理解向上を図るための公開講座は、3月26日のパープルデーに関連して3月23日（日）に県民公開講座を開催予定。

◆第12回全国てんかんセンター協議会総会 JEPICA2025 金沢大会

日 時：2025年3月22日（土）～23日（日）

場 所：金沢商工会議所、金沢市文教会館、金沢ニューグランドホテル

テーマ：包括的てんかん医療の現状把握

◆パープルデー県民公開講座

日 時：2025年3月23日（日）16:50～

場 所：金沢商工会議所1階大ホール

演 題：てんかんについて知ってほしいこと 知っておきたいこと

講 師：浅ノ川総合病院 てんかんセンター副センター長 中川 裕康 先生

5) 学校におけるてんかん教育の推進

てんかん患者の家族などから教育現場へのてんかん教育の要望が多い。教育機関側も「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の施行やてんかん発作時の対応として坐剤に加えて、ブコラム®口腔用液投与が認められたことから、てんかんに対する関心が高まっている。今年度もそのニーズに対応すべく、教員や養護教諭、学校看護師などを対象にてんかんセミナーを2回開催した。また、てんかん発作の観察や対応、薬剤管理、医療的ケアなどに関して、個別の状態に応じた相談や指導を希望するニーズに対して、てんかん専門医が特別支援学校6校を訪問し、医学的アドバイスを行った。

◆教員等対象としたてんかんセミナーの開催

てんかんセミナーを教員対象と養護教諭・学校看護師対象の2日に分けて開催。

◇教員対象

日 時：2024年8月1日（木）14:00～15:30

演 題：学校におけるてんかんのある児童生徒の支援～基礎編～

会 場：県立明和特別支援学校（ハイブリット開催）

講 師：中川 裕康 先生（浅ノ川総合病院小児科）

◇養護教諭、学校看護師

日 時：2024年8月5日（月）14:00～15:30

会 場：県立明和特別支援学校（ハイブリット開催）

講 師：黒田 文人 先生（金沢大学附属病院小児科）

◆医療的ケア指導アドバイザー巡回事業

てんかん発作の観察や対応、薬剤管理、医療的ケアなどに関して、個別の状態に応じた相談や指導を希望するニーズに対して、てんかん専門医が特別支援学校6校を訪問し、医学的アドバイスを行った。

◇中川 裕康 先生（浅ノ川総合病院小児科）による訪問指導

2024年8月1日 （金） いしかわ特別支援学校

2024年9月27日 （金） 小松瀬領特別支援学校

2024年10月7日 （金） 石川県立七尾特別支援学校

◇黒田 文人 先生（金沢大学附属病院小児科）による訪問指導

2024年11月18日 （月） 県立明和特別支援学校

2024年12月2日 （月） 錦城特別支援学校

6) 介護・福祉施設の職員などへのてんかん啓蒙活動

◆知的障害者ガイドヘルパー養成研修

日時：2024年10月12日（土）

演題：てんかんの理解と対処法

会場：石川県文教会館

講師：中川 裕康 先生（浅ノ川総合病院小児科）

7) てんかんビデオ脳波モニター記録の症例検討会

月 1 回の症例検討会「浅ノ川総合病院てんかんカンファレンス」をハイブリッド方式で第 4 月曜日の午後 6 時 15 分から 8 時に行った。県内の医師や看護師、臨床検査技師などの多職種に加え、県外の医師も参加している。9 月からは日本臨床神経生理学会（脳波分野）の研修病院である福井赤十字病院と共同開催の形式となり、「北陸てんかん・脳波カンファレンス」と名称を変更、更に活発な検討が行われている。

2024 年は、10 回開催、出席総数は 161 名（月平均：16.1 名）、検討症例数は 32 症例（月平均 3.2 例）であった。症例検討会の参加者からてんかん専門医の誕生を期待している。詳細は下記の通りであった。2024 年 1～12 月の当院てんかんセンターにおけるてんかん診療実績は下記の通りであり、ほぼ例年通りであった。

◆てんかんカンファレンス開催実績（2024 年 1～12 月）

開催月	参加人数	症例
1 月		休み
2 月	11	①Lennox-Gastaut 症候群の脳梁離断術 ②焦点全般合併てんかん ③周産期脳出血てんかん（血友病 A 合併）+PNES ④中心側頭部棘波を示す自然終息性てんかん（SeLECTS）
3 月	14	①左前頭葉てんかん+限局性皮質異形成 ②全般てんかん+脳梁形成異常 ③フィンテプラ®の説明
4 月	14	①右前頭葉または外側側頭葉てんかん ②乳児てんかん性スパズム症候群 ③右側頭葉てんかん+限局性皮質異形成 ④FCD 病理解説
5 月	20	①左側頭葉てんかん ②左前頭葉てんかん+FCD 頭蓋内電極留置+根治術 ③左前頭葉てんかん ④左前頭葉てんかん（運動亢進発作）
6 月	13	①特発性全般てんかん ②多焦点てんかん+Smith-Magenis syndrome ③左前頭葉てんかん
7 月	13	①乳児てんかん性スパズム症候群 ②PNES+ADHD ③Lennox-Gastaut 症候群
8 月		休み
9 月	18	①Dandy-Walker 症候群に伴う焦点全般合併てんかん（診断と VNS 適応について） ②band heterotopia に伴う Lennox-Gastaut 症候群（診断と VNS 適応について） ③成人発症非けいれん性欠神てんかん重積（症例と脳波提示） ④mu rhythm & Wicket rhythm（講義）
10 月	17	①左前頭葉～側頭葉てんかん+右側頭葉てんかん脳炎後てんかん（診断と治療について） ②左前頭葉てんかん FCD type Ia 焦点切除術後（手術所見術後脳波病理 FCD 分類の論文紹介）
11 月	22	①両側側頭葉てんかん ②焦点てんかん（左前頭葉てんかん）
12 月	19	①難治性てんかん重積状態 ②乳児てんかん性スパズム症候群 ③若年欠神てんかん（診断思春期女性だが VPA 使用について）
10 回	161 名	32 症例

以上

15. 令和6年度 山梨県てんかん地域診療連携体制整備事業報告書

山梨大学医学部附属病院てんかんセンター 加賀佳美

令和6年度の活動報告

1. 研修医、専門医への教育活動

山梨大学医学部附属病院 てんかんカンファレンスの開催

以下の通り、山梨大学にて Web/現地のハイブリット開催を行い、関連病院などからも多数の参加者があり、てんかん専門医育成のための研修もかねたカンファレンスを開催した。

- 1 月 VPA を置換した際に発作を繰り返した 20 代女性の一例
- 2 月 ご両親が補完代替医療を希望する 18 トリソミー児
- 3 月 けいれん重積におけるペランパネル静注薬の位置づけ
- 4 月 PNES が疑われた 1 例（ビデオ脳波同時記録）
- 5 月 てんかん患者の社会生活
- 6 月 VPA を継続している女性の症例
- 7 月 怠薬、特に LEV のみ忘れへの対応
- 8 月 てんかんを疑われて紹介になった PNES の症例
- 9 月 てんかん専門医試験受験体験記
- 10 月 日常診療に役立つ、てんかんと脳炎・脳症の最新の知見
- 11 月 定型発達の 10 か月男児：発作間欠期脳波異常を伴わない繰り返すスパズム
- 12 月 原因不明の脱力で紹介された症例（ナルコレプシー）

今後も月 1 回のカンファレンスを行い、山梨県内のてんかん専門医の育成とてんかん関連施設との研修を行っていく予定である。

2. 一般市民への啓蒙活動

・2025 年 2 月 8 日 てんかん市民セミナー 対面開催 42 名の参加があった。

国立病院機構甲府病院小児科の中村幸介先生をお招きし、てんかんの最新医療について理解を深めた。一般参加者から活発な質疑が行われた。

3. 山梨県てんかん地域連携協議会の開催（令和6年2月8日）

てんかん拠点病院より加賀センター長、佐野副センター長、埴原脳神経外科医師、志村支援コーディネーター、医療関係者として笛吹脳神経外科 上野院長、甲府脳神経外科病院 小林脳神経内科部長、当事者（家族）として、てんかん協会山梨支部代表 葛西氏、県関係機関として富士東部保健所 中根保健所長、事務局らが参加して対面で行われた。

1) てんかん支援拠点病院の活動実績の報告

山梨大学医学部附属病院てんかんセンター（支援拠点病院）より令和6年度の実績について説明した。

2) 昨年の議題を踏まえて令和5年度に行った事業として、救急隊員向けにけいれん・てんかん発作時の救急対応 e ラーニング資料を作成したことが、山梨大学てんかんセンターから報告された。また、e ラーニングを受講した救急隊員へのアンケート結果が事務局から報告された。そのうえで、一部の質問に対して山梨大学てんかんセンターで回答を作成することとなった。

3) 来年度以降の事業として、てんかん患者の就労支援について話し合われた。山梨県における現状について、障害者就業・生活支援センターの新谷氏から説明があった。各委員から意見を集約しつつ、来年度以降の啓発活動などにどのように取り組むべきかについて話し合われた。

山梨てんかん
市民セミナー

日時：2025年2月8日（土） 14時00分-15時30分
場所：山梨大学医学部キャンパス臨床講義棟大講堂

「てんかんと暮らす」

・開会あいさつ
山梨大学小児科学部内准教授・てんかんセンター長 加賀 佳美先生

講演 1部 14:00-14:30
座長：山梨大学精神科講師 安田 和幸先生

「てんかん発作を起こしたら？」

演者：山梨大学小児科特任助教授
副てんかんセンター長 佐野 史和先生

講演 2部 14:30-15:30
座長：山梨大学脳神経外科講師 埴原 充人先生

「てんかんと日常生活」

演者：国立病院機構甲府病院小児科医長 中村 幸介先生

・閉会あいさつ
山梨大学小児科学部内准教授・てんかんセンター長 加賀 佳美先生

会場はこちら
（国立病院機構
大講堂）

※会場は山梨大学医学部キャンパスです。
（〒409-3896 山梨県中井町下馬場116）
震国キャンパスではございませんので、
ご注意ください。

【お問い合わせ先】
山梨大学医療支援課 石川
TEL.055-273-9732

主催：山梨大学附属病院てんかんセンター（事務局）は山梨県受託事業によるものです。

1. 概要

2. てんかん診療実績

- ### 3. てんかん相談業務

4. てんかん普及啓発活動

- [illegible]

バーブルデーは世界からてくてく来よう！

どなたでも
ご参加いただけます！

3/20 木

前夜決行

イベント 13:30～
講演会 14:30～
ライトアップ 日没後～

会場：信貴メディアガーデン
〒599-8501 大阪府堺市東区信貴1-1-1
（信貴メディアガーデン）

13:30～15:00 入場券販売中！
15:00～16:00 入場券販売中！

16:00～17:00 入場券販売中！
17:00～18:00 入場券販売中！

18:00～19:00 入場券販売中！
19:00～20:00 入場券販売中！

20:00～21:00 入場券販売中！
21:00～22:00 入場券販売中！

22:00～23:00 入場券販売中！
23:00～24:00 入場券販売中！

24:00～25:00 入場券販売中！
25:00～26:00 入場券販売中！

26:00～27:00 入場券販売中！
27:00～28:00 入場券販売中！

28:00～29:00 入場券販売中！
29:00～30:00 入場券販売中！

30:00～31:00 入場券販売中！
31:00～32:00 入場券販売中！

32:00～33:00 入場券販売中！
33:00～34:00 入場券販売中！

34:00～35:00 入場券販売中！
35:00～36:00 入場券販売中！

36:00～37:00 入場券販売中！
37:00～38:00 入場券販売中！

38:00～39:00 入場券販売中！
39:00～40:00 入場券販売中！

40:00～41:00 入場券販売中！
41:00～42:00 入場券販売中！

42:00～43:00 入場券販売中！
43:00～44:00 入場券販売中！

44:00～45:00 入場券販売中！
45:00～46:00 入場券販売中！

46:00～47:00 入場券販売中！
47:00～48:00 入場券販売中！

48:00～49:00 入場券販売中！
49:00～50:00 入場券販売中！

50:00～51:00 入場券販売中！
51:00～52:00 入場券販売中！

52:00～53:00 入場券販売中！
53:00～54:00 入場券販売中！

54:00～55:00 入場券販売中！
55:00～56:00 入場券販売中！

56:00～57:00 入場券販売中！
57:00～58:00 入場券販売中！

58:00～59:00 入場券販売中！
59:00～60:00 入場券販売中！

60:00～61:00 入場券販売中！
61:00～62:00 入場券販売中！

62:00～63:00 入場券販売中！
63:00～64:00 入場券販売中！

64:00～65:00 入場券販売中！
65:00～66:00 入場券販売中！

66:00～67:00 入場券販売中！
67:00～68:00 入場券販売中！

68:00～69:00 入場券販売中！
69:00～70:00 入場券販売中！

70:00～71:00 入場券販売中！
71:00～72:00 入場券販売中！

72:00～73:00 入場券販売中！
73:00～74:00 入場券販売中！

74:00～75:00 入場券販売中！
75:00～76:00 入場券販売中！

76:00～77:00 入場券販売中！
77:00～78:00 入場券販売中！

78:00～79:00 入場券販売中！
79:00～80:00 入場券販売中！

80:00～81:00 入場券販売中！
81:00～82:00 入場券販売中！

82:00～83:00 入場券販売中！
83:00～84:00 入場券販売中！

84:00～85:00 入場券販売中！
85:00～86:00 入場券販売中！

86:00～87:00 入場券販売中！
87:00～88:00 入場券販売中！

88:00～89:00 入場券販売中！
89:00～90:00 入場券販売中！

90:00～91:00 入場券販売中！
91:00～92:00 入場券販売中！

92:00～93:00 入場券販売中！
93:00～94:00 入場券販売中！

94:00～95:00 入場券販売中！
95:00～96:00 入場券販売中！

96:00～97:00 入場券販売中！
97:00～98:00 入場券販売中！

98:00～99:00 入場券販売中！
99:00～100:00 入場券販売中！

100:00～101:00 入場券販売中！
101:00～102:00 入場券販売中！

102:00～103:00 入場券販売中！
103:00～104:00 入場券販売中！

104:00～105:00 入場券販売中！
105:00～106:00 入場券販売中！

106:00～107:00 入場券販売中！
107:00～108:00 入場券販売中！

108:00～109:00 入場券販売中！
109:00～110:00 入場券販売中！

110:00～111:00 入場券販売中！
111:00～112:00 入場券販売中！

112:00～113:00 入場券販売中！
113:00～114:00 入場券販売中！

114:00～115:00 入場券販売中！
115:00～116:00 入場券販売中！

116:00～117:00 入場券販売中！
117:00～118:00 入場券販売中！

118:00～119:00 入場券販売中！
119:00～120:00 入場券販売中！

120:00～121:00 入場券販売中！
121:00～122:00 入場券販売中！

122:00～123:00 入場券販売中！
123:00～124:00 入場券販売中！

124:00～125:00 入場券販売中！
125:00～126:00 入場券販売中！

126:00～127:00 入場券販売中！
127:00～128:00 入場券販売中！

128:00～129:00 入場券販売中！
129:00～130:00 入場券販売中！

130:00～131:00 入場券販売中！
131:00～132:00 入場券販売中！

132:00～133:00 入場券販売中！
133:00～134:00 入場券販売中！

134:00～135:00 入場券販売中！
135:00～136:00 入場券販売中！

136:00～137:00 入場券販売中！
137:00～138:00 入場券販売中！

138:00～139:00 入場券販売中！
139:00～140:00 入場券販売中！

140:00～141:00 入場券販売中！
141:00～142:00 入場券販売中！

142:00～143:00 入場券販売中！
143:00～144:00 入場券販売中！

144:00～145:00 入場券販売中！
145:00～146:00 入場券販売中！

146:00～147:00 入場券販売中！
147:00～148:00 入場券販売中！

148:00～149:00 入場券販売中！
149:00～150:00 入場券販売中！

150:00～151:00 入場券販売中！
151:00～152:00 入場券販売中！

152:00～153:00 入場券販売中！
153:00～154:00 入場券販売中！

154:00～155:00 入場券販売中！
155:00～156:00 入場券販売中！

156:00～157:00 入場券販売中！
157:00～158:00 入場券販売中！

158:00～159:00 入場券販売中！
159:00～160:00 入場券販売中！

160:00～161:00 入場券販売中！
161:00～162:00 入場券販売中！

162:00～163:00 入場券販売中！
163:00～164:00 入場券販売中！

164:00～165:00 入場券販売中！
165:00～166:00 入場券販売中！

166:00～167:00 入場券販売中！
167:00～168:00 入場券販売中！

168:00～169:00 入場券販売中！
169:00～170:00 入場券販売中！

170:00～171:00 入場券販売中！
171:00～172:00 入場券販売中！

172:00～173:00 入場券販売中！
173:00～174:00 入場券販売中！

174:00～175:00 入場券販売中！
175:00～176:00 入場券販売中！

176:00～177:00 入場券販売中！
177:00～178:00 入場券販売中！

178:00～179:00 入場券販売中！
179:00～180:00 入場券販売中！

180:00～181:00 入場券販売中！
18

5. てんかん研修実施

開催日	研修会名・講演会名	テーマ	参加対象者
5月14日	福祉医療講演会	特別支援学校でのてんかんについて	長野県長野養護学校教諭
6月10日	信州大学医学部附属病院てんかんセンター開設記念講演会	信州大学医学部附属病院になぜてんかんセンターが必要か	医療関係者
6月10日	信州大学医学部附属病院てんかんセンター開設記念講演会	Sickkidsで出会った大坪先生とてんかん外科	医療関係者
6月23日	長野県てんかん県民講座	てんかんと共に生きる	療養者、家族、医療、就労、福祉、教育関係等
7月21日	全国てんかん対策連絡協議会	てんかん地域支援施設からの報告	てんかん支援拠点病院、厚生労働省の担当者や患者団体等てんかん対策の関係者
7月30日	特別支援学校保健委員会研修会	てんかんの基礎知識と発作への対応	特別支援学校 養護教諭
10月8日	令和6年度長野県医療的ケア児等支援人材育成事業	てんかん専門医に学ぶ”てんかんの研修会”	通所支援事業所、保健所、学校、入所施設、訪問看護ステーション、市町村等で医療的ケア児等に関わる支援者、保健師、行政担当者等
11月13日	警察教養における講演	てんかんと自動車運転	交通事故事件捜査専科生(24名) 警察署交通課員等(約20名)

6. 長野県てんかん治療医療連携協議会（てんかん医療提供体制検討会議）

令和6年1月ハイブリッド開催。

● 構成員

氏 名	区 分	所 属 ・ 職 名
大久保 千鶴	家 族	親の会えんがわ 代表
荻原 明美	医 療	北アルプス医療センターあづみ病院 副診療部長
金谷 康平	医 療	こころのホスピタル事業部長
田澤 浩一	医 療	信州大学医学部脳神経外科 講師
永原 正裕	当事者	長野赤十字病院神経内科 部長
福山 哲広	医 療	日本てんかん協会長野県支部（松本市立清水小学校教諭）
矢崎 健彦	行 政	信州大学医学部小児医学教室 准教授
森 浩二	医 療	長野県精神保健福祉センター 所長
		長野県医師会 総務理事

● 事務局

氏 名	所 属 ・ 職 名
北原 理恵	信州大学医学部附属病院 てんかん診療支援コーディネーター
三水 静江	信州大学医学部附属病院 てんかん相談支援部門 保健師
宇佐美 真也	健康福祉部医師・看護人材確保対策課 主事
亀井 智泉	長野県医療的ケア児等支援センター 副センター長 （健康福祉部障がい者支援課内）
山口 奈央	産業労働部労働雇用課 雇用対策係 主任
井坪 信	教育委員会事務局特別支援教育課 指導主事
若狭 雅幸	警察本部交通部運転免許本部東北信運転免許課 安全運転相談係 課長補佐
鈴木 三千穂	健康福祉部保健・疾病対策課 課長
中島 広介	同 課長補佐兼心の健康支援係長
山崎 夏季	同 心の健康支援係 保健師

1 7. 令和 6 年度 静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

院長：今井克美

統括診療部長：臼井直敬

地域連携係長：谷津直美

医療社会事業専門職：橋本睦美

専門職：小瀧 真（～令和 6 年 9 月）、
森下大輔（令和 6 年 10 月～）

まとめ

・当院は 2025 年にてんかんセンター開設 50 周年を迎える。2024 年 12 月にてんかん病棟を 4 病棟から 3 病棟へと再編したが前年とほぼ同じ診療実績を維持している。乳児から高齢者を対象に、てんかんを専門とする医師約 25 名（小児科、神経内科、精神科、脳外科）と多職種メディカルスタッフが短期検査入院から長期治療入院まで対応している。

・静岡県では当院を拠点にてんかん治療医療連携協議会を年 2 回開催し、活動報告、評価、計画立案を行っている。てんかん病診療連携システムを静岡市静岡医師会と運用し、周辺地域への展開を進めている。円滑に診療連携を行った実績のある施設、診療科、医師に対するてんかん診療連携登録証の発行数は徐々に増えている。

・てんかんホットラインでは、当院受診歴の有無を問わずてんかんに関する相談を受け付け、大規模災害発災時は 24 時間対応できる体制をとっている。様々な職種を対象としたてんかんセミナーを年 1 回ずつ対面開催した。県内の特別支援学校職員を対象とするてんかんセミナーや静岡県民を対象とした市民公開講座を開催し、好評であった。院外 HP では、てんかん情報センターの内容をアップデートし、複数のパンフレットを無料公開している。てんかん啓発活動を町に出て行う趣旨で、静岡市中心部のイベント参加によるてんかん啓発活動やプロサッカーチーム藤枝 MYFC とのコラボを継続している。パープルデー活動はライトアップする場所を増やすとともに、市民への啓発活動も予定している。

・1、2、3 次の縦の医療連携構築の強化はもちろんのこと、3 次医療機関においても施設によって得手不得手な分野があり、3 次医療機関の横の診療連携活性化も望まれる。

1. 静岡県の連携体制の概況

当院は 1975 年に国内で初めてとなるてんかんセンターを開設するとともに難病（てんかん）診療基幹施設に指定されており、2025 年にてんかんセンター開設 50 周年を迎える。静岡県のてんかん地域診療連携体制整備事業は 2015 年から厚労省と県の事業として継続している。静岡てんかん・神経医療センターを拠点に、西部の総合病院聖隷三方原病院、中部の静岡済生会総合病院、たぐちクリニック、東部の伊豆医療福祉センターなどの医療機関と、静岡県健康福祉部障害者支援局長、静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課精神保健福祉室長、静岡県精神保健福祉センター所長、静岡県西部保健所長などの行政担当者、てんかん患者、てんかん患者家族を構成員とする静岡県てんかん治療医療連携協議会を年 2 回開催し、活動報告、評価、次年度計画立案などを行っている。

静岡市静岡医師会と当院および静岡市内主要病院とのてんかん病診療連携システムを 2021 年 12 月に開始し、その内容を静岡市静岡医師会ホームページ内のイーソーネット医療連携システムにて公開し、継続運用している。てんかん患者の静岡市葵区および駿河区における医師会会員からの当院へのご紹介と、病状の安定しているてんかん患者さんの当院から医師会会員への情報提供・戻し紹介のためのクリニカルパスの運用例も増加しており、静岡地区の連携体制を強化に寄与している。近隣の二次医療機関訪問によるてんかんに関する病病連携のための意見交換会は 1 回施行した。

病病連携促進事業 ※病病連携について意見交換を

実施

訪問日	医療機関名
2024 年 7 月 2 日	藤枝市立総合病院



当院との間で円滑にてんかん診療連携が行われてきた医療機関、診療科、医師について、2020 年よりお申し出に応じててんかん診療連携登録証を発行することで、てんかん患者が安心して連携医療機関を受診できるような取り組みをしている。現在までの発行件数は、県内 15 件、県外 16 件となっている。

2. 活動状況

診療体制

てんかん初診外来は小児科・精神科・脳神経内科・脳神経外科医師（合計約 25 名）が小児・成人合わせて 4-6 名/日の診療予約を受け付けている。初診外来を通さずに初診前電話相談を通じての直接入院や、てんかん重積治療や長時間脳波等目的の検査入院も受け入れており、迅速な初診対応ができるように体制を整えている。

てんかん再診体制は 4-7 名/日の医師が診療し、成人てんかん医と小児てんかん医はともに毎日診療を行っている。定期的な当院通院に加えて、患者の状態に応じて地元の病院・クリニックと連携して当院受診を半年から 1 年に 1 度の検査時や状態変化時のみとするなど、様々な診療形態を提案している。

てんかん科の常勤医師は約 25 名（てんかん専門医 14 名、神経学会専門医 8 名、小児神経専門医 4 名、脳神経外科専門医 3 名など）で、てんかん院内認定看護師、薬剤師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理療法士、ソーシャルワーカー、保育士、放射線技師、管理栄養士、臨床検査技師と共に包括的なてんかん診療に取り組むとともに、各種相談にも対応している。

てんかん病棟は 4 病棟を維持してきたが、新型コロナ感染流行の頃から入院患者数の減少が続くため、職員配置適正化と病棟運営効率化のため 2024 年 12 月から 1 病棟を休棟し、A3 病棟（てんかん外科関連等）、A 4 病棟（小児てんかん等）、A 5 病棟（思春期・成人てんかん等）の 3 病棟 146 床の運用としている。

診療実績

外来初診てんかん患者数は、2023 年度は 1183 名/年、てんかんと神経難病を合わせた当センターの紹介率 84.7%、逆紹介率 211.4%と高い数字を維持しており、医療連携がより一層進んでいることを反映している。外来再診患者数の平均は 87 人/日であった。居住都道府県別の割合は、（初診、再診、新入院）別に、静岡県（40.6, 59.8, 23.3%）、神奈川県（20.3, 8.0, 20.3%）、愛知県（9.6, 9.2, 10.6%）、三重県（3.9, 4.6, 6.9%）、東京都（4.7, 8.0, 7.1%）、岐阜県（3.1, 1.1, 4.5%）、大阪府（2.6, 0, 1.9%）、長野県（2.5, 3.4, 2.4%）、山梨県（1.5, 0, 1.8%）、埼玉県（1.4, 0, 2.6%）、兵庫県（0.8, 1.1, 2.0%）など東海道と周辺地域が多数を占めるが、日本全国及び外国（中国など）からの患者も受け入れた。

てんかん病棟新入院患者数は 2023 年度 2749 名、入院中のビデオ脳波モニタリング患者数は 2056 名/年（小児 1413、成人 643）であった。

てんかん外科治療は、2023 年度は 73 件で、内訳は側頭葉切除 35 件、側頭葉外皮質切除 24 件、多葉離断・切除 4 件、半球離断 2 件、脳梁離断 4 件などであった。頭蓋内電極留置は 3 件のみで、大半の症例では侵襲的な頭蓋内脳波を経由することなく手術が可能であった。

てんかんの食事療法は 2-43 歳の 33 名に継続中で、食事療法の内容はケトン食 23、修正アトキンス食 9、低炭水化物指数食 1 である。当院のホームページにおいて「ケトン食 簡単おいしいレシピ集」を公開し、随時追加・アップデートをしている。



相談事業

厚生労働省てんかん地域診療連携体制整備事業のてんかん診療支援コーディネーターとして 7 名（常勤 6 名、非常勤 1 名）が認定を受け、てんかんホットライン（専用電話回線、専用電子メール）等からの相談に対応している。てんかんホットラインでは、当院受診歴の有無を問わず、患者や家族、医療・福祉関係者からのてんかんに関する相談を国内・国外から受けている。専用電話回線による相談受付は平日 9～17 時に実施し、時間外と土日祝日は急ぎの場合のみ当直医師が対応している。大規模災害発災時は 24 時間受け付ける方針のもと、能登半島地震関連では 1 月 2 日から 4 月 3 日まで 24 時間受け付けを実施した。電子メールは必要に応じてメディカルスタッフの協力を得ながらてんかん専門医が対応している。2024 年 4 月～2025 年 1 月における相談者の年齢、居住地、相談内容は表のとおりである。

件 数	患者年齢											合計
	0-4 歳	5-9 歳	10-14 歳	15-19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳～	不明	
2023 年度	32	23	33	42	60	30	19	68	55	5	114	481

地域別件数		居住地	
静岡県内	静岡県外	海外	不明
61	298	26	96

相談内容 (重複記載)		病状 治療 相談	運転 免許 ・資格	社会 制度 ・保険	就労 雇用 進路	結婚 妊娠 出産	日常 生活 対応等	学校等 病名 告知	他医療 機関 紹介	Dr・ SW より	そ の 他	合計
相談 内容	受診 相談											
2024 年度	209	226	14	16	4	2	74	0	0	0	0	545

相談後の対応方法（重複記載）

相談後の対応	相談のみ	当院受診・直入	当院受診検討	医療機関紹介	その他	合計
2024 年度	311	105	59	36	13	524

研修事業

医師、看護師、その他のメディカルスタッフのてんかんに関する個別研修を随時受け入れている。2024 年度は、小児科医 5 名 1 2 機会、脳神経内科医 7 名 7 機会、脳外科医 1 名 1 機会、精神科医 4 名 3 機会、産婦人科医 1 名 2 機会（各 1－5 日間）、看護師 1 施設 2 名 1 機会（2 日間）、検査技師 2 施設 2 機会 4 名（各 1－2 日間）、心理士 1 機会 1 名（1 日）、を受け入れた。

てんかん研修セミナーを毎年、医療関係者（医師、看護師、臨床検査技師等）および、福祉・教育等の専門職を対象に開催している。COVID-19 流行の始まった 2020 年からは開催を見送っていたが 2022 年秋から順次対面にて再開し参加者からも好評である。

医師・看護師を対象とするてんかん学研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2025 年 1 月 24-25 日	小児てんかん学 研修セミナー	医師、ソーシャルワーカーによる講義 （対象：医師）	25 名 （対面）
2024 年 11 月 21-22 日	てんかん看護 セミナー	医師、看護師、検査技師、薬剤師、作業療法士、ソ ーシャルワーカーによる講義 （対象：看護師）	35 名 （対面）
2024 年 11 月 15-16 日	成人てんかん学 研修セミナー	医師による講義 （対象：医師）	20 名 （対面）

教育・福祉専門職対象のてんかん研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2024 年 8 月 24 日	小児てんかん 専門職セミナー	医師、看護師、保育士、理学療法士、心理療法士に よる講義	38 名 （対面）
2025 年 2 月 13 日	成人てんかん 専門職セミナー	医師、看護師、作業療法士、薬剤師による講義	38 名 （対面）

脳波検査技師対象のてんかん研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2024 年 11 月 28 日	臨床検査技師のため の脳波検査セミナー	医師、臨床検査技師による講義と実習	15 名 （対面）

特別支援学校職員などを対象にてんかん発作への対応等に関する講演会を静岡県内の特別支援学校において不定期に行った。

学校関係の講演会

開催日	学校名	内容	参加人数
2024 年 5 月 29 日	静岡県養護教員 6 年次研修	・てんかんと頭部外傷における 救急処置（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	13 名 （対面）
2024 年 6 月 12 日	静岡県中央 特別支援学校	・てんかんとは（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	20 名 （対面）
2024 年 7 月 12 日	志太榛原地域 養護教諭対象 講演会	・てんかんとは（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	69 名 （対面）
2025 年 1 月 7 日	南伊豆町立 南伊豆東小学校	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	17 名 （対面）
2025 年 1 月 30 日	加藤学園 暁秀初等学校	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	25 名 （対面）
2025 年 2 月 10 日	沼津市立 浮島中学校	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	11 名 （対面）

他施設からの研修等受け入れ

開催日	病院名	内容	参加人数
2024 年 7 月 4～5 日	山口県立総合医 療センター	長時間脳波の看護について	2 名 看護師
2024 年 12 月 3～4 日	埼玉県立小児医 療センター	てんかんの包括医療外科診療などに ついて	16 名 医師 3, 看護師 4, 薬剤師 2, 放射 線技師 1, 検査技師 2, 心理士 2, 作業療法士 1, 栄養士 1

他施設に講師として派遣

開催日	病院名	内容	参加人数
2024 年 5 月 10 日	相模台病院	・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師）	15 名

埼玉県立小児医療センターが JEPICA に加盟されるにあたり 2024 年 12 月 3～4 日に 16 名がご来院くださり、当院のてんかん診療体制や活動をご紹介しますとともに意見交換を行った。当院としても新たな刺激となり、得るものが大きかった。

啓蒙活動

静岡県西部、中部、東部地域において年 1 回ずつ、てんかんについての市民公開講座とてんかん専門医による個別相談会を日本てんかん協会静岡県支部との共催で行っている。

市民公開講座（個別相談会）

開催日	対象	開催地	内容	参加人数
2024 年 8 月 31 日	静岡県民	沼津市	・講演会（医師） ・てんかん発作の対応と実演 （院内てんかん認定看護師） ・個別相談	台風のため中止
2024 年 9 月 28 日		清水市		50 名 対面 個別相談 2 件
2024 年 10 月 12 日		浜松市		20 名 対面 個別相談 4 件

てんかん研修セミナーや各種講演会に参加できない人のためにホームページ上にてんかん情報センターを開設し（右記 QR コード）、疾患の説明から日常生活の過ごし方に至るまで幅広い内容の情報とQ&Aを公開し、随時追加・修正している。



2023 年に作成した「臨床検査技師のためのてんかんデジタル脳波検査ガイドブック」を当院ホームページ上で公開し無料ダウンロード可能とするとともに、検査技師や医師の求めに応じて無料配布している。

てんかんを持つ人の就労を支援するために作成したパンフレットと動画をてんかん情報センター内で閲覧をできるようにし、静岡県庁には訪問企業への配布を依頼している。

てんかんの啓発は病院の中でできることは限られるため、町の中に出て行って積極的に活動することが重要と考え、静岡市中心部で年 1 回開かれる静岡市主催「こころのバリアフリーイベント」では当院ブースを設置し、一般市民を対象にてんかんについての啓発活動を行っている。今年度は 2025 年 3 月 15 日（日）に予定している。

静岡県藤枝市のプロサッカーチーム藤枝 MYFC は藤の花のパープルをイメージカラーとしていることから、当院のてんかん啓発運動とのコラボを 2022 年から始めている。ホームゲームの日には試合会場にてんかん啓発のブースを設置し、てんかんに関するパンフレットとパープルデーに関するグッズを配布している。2024 年は 2 月 24 日（土）の開幕戦で、パープルデーにちなんだグッズとてんかん啓発チラシを入場ゲートで配布した。

パープルデー関連では、静岡市役所の協力により、静岡市役所葵塔（3 月 1～26 日）に加えて駿府城公園異櫓（3 月 24～26 日）もライトアップの予定である。3 月 19～26 日には静岡けやきライオンズクラブの協力により日本最長の吊り橋である三島スカイウォークと三島楽寿園をライトアップし、20 日（祝）にはてんかん啓発のためのパンフレットとグッズを三島スカイウォーク入場者に配布予定である。院内では 3 月 26 日には演奏会、大道芸パフォーマンス、様々なワークショップや参加型活動を含む院内セレモニーを予定している。

今後の課題

当院はてんかんに関する医療資源に恵まれており、より多くの患者さんにご利用いただきたいと考えている。1, 2, 3 次医療機関の縦の診療連携の強化が進められているが、1, 2 次医療機関からご紹介いただく患者さんの中には、その後の地元医療機関での対応やてんかんセンター病院との診療連携に消極的な説明をされたという事例が未だにあるのが残念である。3 次医療機関においても、患者の年齢、診療科、検査体制、外科や食事療法への対応、包括医療など、施設によって得手不得手な分野があり、3 次医療機関の横の診療連携の活性化も望まれる。



18. 愛知県てんかん治療医療連携協議会 2024 年度報告書

愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長

愛知医科大学精神科学 教授

兼本浩祐

名古屋大学大学院医学系研究科脳神経外科 教授

名古屋大学医学部附属病院てんかんセンター センター長

齋藤竜太

本資料作成者 名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 助教 山本啓之

まとめ

2018 年度に開始された愛知県てんかん地域診療連携体制整備事業は、名古屋大学医学部附属病院を拠点機関としながら複数のてんかん診療機関がコンソーシアム型の連携をはかっている。てんかんの知識啓発は Covid-19 による制限中に行ってきた講習会の現地+web のハイブリッド開催のノウハウを生かしながら多くの参加者を得ている。引き続き、てんかんの診療連携、啓発をはかっていく。

1. 概要

愛知県により 2018 年 11 月 30 日に名古屋大学医学部附属病院が拠点機関に指定された。愛知県にはてんかん診療を積極的に行っている医療機関が多くあり、単一の医療機関を拠点とするのは実情に合わないと考えられた。そのため、協議会には幅広く県内の医療機関の医師が参加し、円環状につながったコンソーシアム型の診療連携体制が構築された。(下図)。適宜委員を任命しさらなる診療連携を図っている。

2. 事業

1) 協議会

2023 年 12 月 9 日に第 7 回愛知県てんかん治療医療連携協議会をハイブリッド会議形式で開催した。2023 年度の活動報告、2024 年度の活動予定などが確認された。

協議会の委員は以下の通りである。

会長 兼本浩祐 愛知医科大学精神科

1. 拠点機関

齊藤竜太	名古屋大学脳神経外科
勝野雅央	名古屋大学脳神経内科
夏目淳	名古屋大学小児科
池田匡志	名古屋大学精神科
石崎友崇	名古屋大学脳神経外科
鈴木将司	名古屋大学脳神経内科
加藤秀一	名古屋大学精神科・親と子どもの心療科
山本啓之	名古屋大学小児科（コーディネーター）
伊藤祐史	名古屋大学小児科（コーディネーター）

2. てんかん治療を専門的に行っている医師

兼本浩祐	愛知医科大学精神科
若林俊彦	名古屋ガーデンクリニック
福智寿彦	すずかけクリニック
東英樹	名古屋市立大学精神科
齋藤伸治	名古屋市立大学小児科
奥村彰久	愛知医科大学小児科
石原尚子	藤田医科大学小児科
前澤聡	名古屋医療センター脳神経外科
岡田久	森川クリニック
森川建基	森川クリニック
寶珠山稔	名古屋大学医学部保健学科
廣瀬雄一	藤田医科大学医学部脳神経外科学
三浦清邦	愛知県医療療育総合センター中央病院小児神経科



- 麻生幸三郎 信愛医療療育センター
川上治 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院脳神経内科
藤谷繁 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院脳神経外科
糸見和也 あいち小児保健医療総合センター神経内科
- 保健医療行政を担当する県職員
こころの健康推進室長
 - 精神保健福祉センター、保健所の代表者
精神保健福祉センター所長
瀬戸市保健所長
 - てんかん患者及びその家族の代表者
前田孝志 日本てんかん協会愛知県支部
患者ご本人

2) 医療者の研修事業

2025年1月11日に「医療者のためのてんかん講習会」を、ハイブリッド開催した。

医療者のためのてんかん講習会

日時：2025年1月11日 13:00-15:30

開催場所：国立病院機構名古屋医療センター

ハイブリッド開催

企画者：前澤聡（名古屋医療センター脳神経外科）

プログラム

総合司会：前澤聡 先生（国立病院機構名古屋医療センター 手術部長・脳神経外科医長）

13:00～13:05 開会のあいさつ

齋藤竜太 先生（名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学 教授）

13:05～13:35 講演1（講演25分、質疑応答5分）

座長：山本啓之 先生（名古屋大学医学部附属病院 小児科 助教）

「こどものてんかんの最新トピックス」

夏目淳 先生（名古屋大学大学院医学系研究科 障害児(者)医療学寄附講座 教授）

13:35～14:05 講演2（講演25分、質疑応答5分）

座長：兼本浩祐 先生（愛知医科大学精神神経科 名誉教授・愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長）

「てんかんと就労や啓発など社会的な取り組みについて」

福智寿彦 先生（医療法人福智会 すずかけクリニック 院長）

14:15～14:45 講演3（講演25分、質疑応答5分）

座長：前澤聡 先生（国立病院機構名古屋医療センター 手術部長・脳神経外科医長）

「てんかん治療の新時代：名大てんかんセンターの外科治療戦略」

石崎友崇 先生（名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科

名古屋大学医学部附属病院 てんかんセンター 脳とこころの研究センター病院助教）

14:45～15:15 講演4（講演25分、質疑応答5分）

座長：小林麗 先生（国立病院機構名古屋医療センター 教育研修部長・神経内科医長）

「てんかんの地域医療について一看護師の立場から」

原稔枝 先生（国立精神・神経医療研究センター病院 看護師長）

15:15～15:20 閉会のあいさつ

兼本浩祐 先生（愛知医科大学精神神経科 名誉教授・愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長）

3) 啓発のための市民公開講座

・市民公開講座

「てんかん市民公開講座」

日程：2025年2月11日（祝）

時間：14:00-16:30

2024年度 愛知県てんかん治療医療連携協議会
医療者のためのてんかん講習会
開催日時 2025年1月11日(土) 13:00-15:20 (12:30受付開始)
開催場所 国立病院機構名古屋医療センター 特別会議室(管理棟5階) 名古屋市中区三の丸四丁目1番1号
開催方法 現地およびWeb配信
対象 医師、看護師、ST、OT、PT、臨床検査技師、薬剤師、臨床心理士、PSW、MSW、介護士、メディカルクラークなどあらゆる医療職、福祉職の方
事前申込締め切り日 1月7日(水)
参加費無料
プログラム
開会のあいさつ 13:00-13:05 開会 齋藤竜太 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学 教授)
第1講 13:05-13:35 「こどものてんかんの最新トピックス」 講演 夏目淳 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 障害児(者)医療学寄附講座 教授) 質疑 山本啓之 先生(名古屋大学医学部附属病院 小児科 助教)
第2講 13:35-14:05 「てんかんと就労や啓発など社会的な取り組みについて」 講演 兼本浩祐 先生(愛知医科大学精神神経科 名誉教授・愛知県てんかん治療医療連携協議会 会長) 質疑 福智寿彦 先生(医療法人福智会 すずかけクリニック 院長)
第3講 14:15-14:45 「てんかん治療の新時代：名大てんかんセンターの外科治療戦略」 講演 石崎友崇 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科 名古屋大学医学部附属病院 てんかんセンター 脳とこころの研究センター病院助教) 質疑 前澤聡 先生(国立病院機構名古屋医療センター 手術部長・脳神経外科医長)
第4講 14:45-15:15 「てんかんの地域医療について一看護師の立場から」 講演 原稔枝 先生(国立精神・神経医療研究センター病院 看護師長) 質疑 小林麗 先生(国立病院機構名古屋医療センター 教育研修部長・神経内科医長)
閉会のあいさつ 15:15-15:20 閉会 齋藤竜太 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学 教授)
お申し込み方法 必要事項を記入の上、下記のいずれかの方法でお申し込み下さい。 ① Googleフォーム ② 電話 ③ FAX ④ メール
お申し込み先 Googleフォーム: https://forms.gle/... 電話: 052-733-1111 FAX: 052-733-1112 メール: info@epilepsy-aichi.jp

場所：あいち小児保健医療総合センター
 プログラム
 座長：糸見 和也 先生（あいち小児保健医療総合センター
 診療支援部長/神経内科医長）
 14：05-14：30 講演①
 久保田 哲夫 先生（安城更生病院 小児医療センター長）
 「てんかんの基礎知識」
 14：35-15：00 講演②
 川口 将広 先生（あいち小児保健医療総合センター
 神経内科医長）
 「小児のけいれん・てんかん-最近の話題-」
 15：10-15：35 講演③
 跡部 真人 先生（豊川さくら病院 児童精神科医長）
 「発達障害のあるお子さんのてんかんと生活」
 15：40-16：15 講演④
 大野 敦子 先生（豊田市こども発達センターのぞみ診療所
 副診療所長）
 「医療的ケアのあるお子さんのてんかん」
 16：20-16：30 ご家族とのフリーディスカッション

2024年度 愛知県てんかん治療医療連携協議会
「てんかん市民公開講座」
 開催日時 2025年2月11日(火・祝)
 14:00-16:30
 開催場所 あいち小児保健医療総合センター
 大会議室(地下1階)
 愛知県大府市森岡町七丁目426番地
 参加費無料 事前登録制
 定員70名(現地随時締め切り 2月4日(火))
 プログラム
 14:00~14:05 開会のことば あいち小児保健医療総合センター 総合診療科部長 糸見和也先生
 第1部 14:05~14:30 講演1 てんかんの基礎知識 安城更生病院 小児医療センター長 久保田哲夫先生
 14:35~15:00 講演2 小児のけいれん・てんかん-最近の話題- あいち小児保健医療総合センター 神経内科医長 川口将広先生
 15:00~15:10 休憩
 第2部 15:10~15:35 講演3 発達障害のあるお子さんのてんかんと生活 豊川さくら病院 児童精神科医長 跡部真人先生
 15:40~16:15 講演4 医療的ケアのあるお子さんのてんかん 豊田市こども発達センターのぞみ診療所 副診療所長 大野敦子先生
 16:20~16:30 ご家族とのフリーディスカッション
 16:30 閉会のことば あいち小児保健医療総合センター 総合診療科部長 糸見和也先生
 お申し込み方法
 ①か②のいずれかの方法で、必要事項をご記入の上、お申し込みください。
 ①Googleフォームによる事前申込制
<https://forms.gle/PmwcgGQwW6SSaA>
 ②メールでお申し込み
 E-mail: medical.epi@mu.med.nagoya-u.ac.jp
 運営事務局 愛知県てんかん治療医療連携協議会 名古屋大学医学部附属病院てんかんセンター
 〒466-8550 名古屋市中区西区町65 TEL 052-744-2234

4) 拠点機関活動

脳神経外科、脳神経内科、精神科、小児科の医師、看護師、薬剤師、検査技師、精神保健福祉士、リハビリテーション部門などの多職種による症例検討会を毎月開催し、てんかん患者さんがより良い生活ができるよう治療方針のみならず、福祉サービスの利用など多方面での支援方法を検討している。その中でも今年度から病院の医療ソーシャルワーカーが毎回参加することとなった。症例検討会を通じて拠点機関内の医療者にむけての知識啓発を継続している。

3. 成果と課題

本事業は都道府県単位で一つの拠点機関を指定することが前提とされている。しかし、実情として複数の医療機関が拠点としててんかん診療を行っている地域では単一の拠点機関を指定することが困難であることが考えられる。愛知県でも複数の医療機関がてんかん診療を積極的に行っており、それぞれの機関により得意としている分野は異なっている。そのため複数の医療機関がコンソーシアムとして拠点を形成することで有機的に連携し相補的な拠点形成をすることが必要であると考えられた。そのため、協議会には幅広い医療機関から参加し、多施設が横に連携して県内の各地域の患者さんがバランスよくてんかん診療を受けられる体制を目指している。

てんかんは有病率が高く、生涯にわたって罹患しうる疾患である。また症状も千差万別であり、当然のことであるが拠点機関にすべてのてんかん患者を集約できるものではない。複数の医療機関が横に連携した診療体制を構築することを、県内の患者、家族、医療機関のスタッフに広報し、病状に応じた適切な診療を受けられるようにすることが必要である。またてんかんの初期診療から二次・三次診療を担う県内の医療機関について情報共有し、診療レベルの向上、診療ネットワークの形成、診療マップの提供をしていけるように活動を続けることが必要である。そのため市民公開講座、医療者のための講習会を開催し知識、認識の共有に努めてきた。

今年度は市民公開講座は現地のみの開催とした。それにより患者さんご本人およびご家族、関係者とのフリーディスカッションの時間を設けることができ、有意義な交流をはかることができた。医療者向けの講習会ではハイブリッド開催とすることで、web参加で参加が可能な開催形式とした。これにより、さらに多くの方への知識啓発ができたと考えている。

今後の課題としては、医療機関の広域的な偏在の問題がある。本事業は都道府県単位となっているが、実際の医療圏は都道府県を超えて連携されている。愛知県では県庁所在地である名古屋市に人口の重心があるが、名古屋市から鉄道で30分の圏内には人口30万人超の他県の都市が複数存在する。これらの県ではてんかん拠点が指定されておらず、愛知県および静岡県へ紹介されている現状がある。今後は県の単位を超えた連携も視野に入れていく必要があるが、県の事業となっており県外での活動が規定されていない。これらは全国拠点との連携を通じて解決を模索していきたい。

19. 令和6年度京都府てんかん地域診療連携体制整備事業：

拠点病院からの活動報告

京都大学医学部附属病院 てんかん診療支援センター

センター長 池田昭夫

てんかん診療支援コーディネーター 林梢

運営委員 松橋眞生

1) 概要

京都府では2022年12月1日付で京都大学医学部附属病院がてんかん支援拠点病院の指定を受けた。京都大学医学部附属病院と京都府立医科大学附属病院、京都府医師会を中心とした医療機関と行政が連携し、府内のてんかん診療の均てん化と標準化に向けて取り組んでいる。本年度は新たな取り組みとしててんかん治療医療連携協議会の委員を拡充し、一般向け公開講座を企画している。

2) 診療実績

京都大学医学部附属病院では、てんかん患者様への包括的な医療・福祉支援を目的として2018年11月にてんかん診療支援センターを設置した。関連する診療科、看護部、検査部、事務部による運営委員会を定期的に開催し方策を協議している。

てんかんの専門外来の体制（2025年2月現在）

	月	火	水	木	金
小児科	横山 淳史 吉田 健司			横山 淳史	
脳神経内科	池田 昭夫 松本 理器 小林 勝哉	宇佐美 清英	小林 勝哉	池田 昭夫 戸島 麻耶	松橋 眞生 立田 直久
脳神経外科	菊池 隆幸		菊池 隆幸		
精神科神経科				植野 司	

※精神神経科医師による診察は、脳神経外科診察室での神経心理外来枠にて提供している。

2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）の診療実績

てんかん外来新患数：小児科 30 例/年 成人科 280 例/年

てんかん入院患者数：小児科 60 例/年 成人科 125 例/年

長時間ビデオ脳波モニタリング施行数：小児科 80 例/年 成人科 38 例/年

てんかん外科手術：14 例/年

3) コーディネーターによるてんかん相談実績（2024年4月～2025年1月）

毎週月/火/水/金曜日の10-14時にコーディネーター（2024年2月現在、非常勤医師が担当）による相談窓口を設置している。

相談者について（のべ件数）

	本人	家族	医療機関	関係機関	合計
対面	16	5	0	0	22
電話	36	50	7	6	99
合計	52	55	7	6	121

相談内容（のべ件数、主な相談内容）

受診先	31
診断・治療に関する一般的な内容	25
福祉制度	19
就労	12
妊娠・出産	8
運転免許	3
その他	23

4) てんかん治療医療連携協議会

2024 年 7 月に委員の中心となる機関である京都府健康福祉部、精神保健福祉センター、てんかん協会、京都府立医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院の関係者が参加し運営委員会を開催。具体的な活動内容の検討を行った。

さらに、警察や教育、就労関係機関を含めて委員の選出を行い、2025 年 3 月 5 日には協議会本会議を開催予定である。

5) 教育・啓発活動

以下のうち、※の分は、厚生労働科学研究費（難治性疾患政策研究事業）「稀少てんかんの診療指針と包括医療の研究」（今井班）の班会議（2024 年 11 月 4 日に Zoom で開催）で「今井班の班会議メンバーに、多施設において有用な企画は情報提供を行う」提案が承認されたことに基づいて、当方からの情報提供を行なった。

（1）一般の方を対象とした教育・啓発活動

① 府民公開講座

2023 年度(2024 年 3 月 10 日)に初回のオンラインでの一般の方向けの講演会「府民公開講座」を開催し、109 名が参加した。本年度は、2024 年 10 月 20 日に、「てんかんとはどういう病気か?」、「小児てんかん 日常生活での留意点」、「てんかんの薬 薬とうまく付き合おう」の 3 つのテーマを取り上げ、70 名が参加した（添付資料 1）。また同講座の録画映像を一般に視聴できるようにしている（詳細については当院 HP 内に記載 <https://u.kyoto-u.jp/oipy>）。

② パープルデーイベント

2024 年 3 月 26 日に京都府、日本新薬と共催でライトアップイベントを開催した(京都タワー、京都府庁旧本館)。本年度も同施設をライトアップすると共に、京都府北部での啓発活動として中丹東保健所庁舎もライトアップし、同保健所内にてんかん啓発のチラシを掲示予定である。

（2）医療関係者を対象とした教育・啓発活動

① 定例カンファレンス

病院内外の医療関係者を対象に、月 1 回の脳機能てんかんカンファレンス（京都府内及び隣接府県の多くの病院・診療科連携の症例検討会）、週 1 回の脳波判読会（院内、京都府内、全国の都道府県の医師を対象）をオンラインで実施している。

*② 京都てんかん診療講演会

医療関係者の web 講演会「京都てんかん診療講演会」を京都府、一般社団法人京都府医師会、京都府立医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院の共催で 2021 年度より開催している。2023 年度は 2024 年 3 月 21 日に「てんかんと多職種連携」を開催し 111 名が参加した。福祉制度を取り扱ったことについて特に良い反響をいただいた。本年度は 2025 年 2 月 13 日に、「てんかんの急性期からのシームレスな対応」をテーマに開催した。京都府北部および南部地域を含む急性期医療に従事する医師およびてんかん専門医医師より講演とパネルディスカッションを行った。179 名の参加があり、てんかんの急性期対応についての関心の高さが伺えた（添付資料 2）。

*③ Epilepsy web seminar

企業との合同啓発事業として年 4 回「Epilepsy web seminar」を web セミナーとして開催している。本年度はこれまでに「女性の抗発作薬の使用上の注意～従前の催奇形性から神経発達障害まで」「てんかんと偏頭痛-臨床で役立つポイント、研究との接点-」「*てんかん外科手術と脳神経内科医」についての講演を行なった。

（3）啓発資材の提供

京都大学病院てんかん診療支援センターでは、添付のように、院内だけではなく、広く京大病院だけでなく外部のてんかん患者さん及び他施設の診療医、medical staff への啓発資材、医療関係者への臨床で利用できる資材（4 5 種類）を、PDF でダウンロードできるように提供している。（著作権がある資材は全て本利用のために許可を取得済み）http://epilepsy.med.kyoto-u.ac.jp/supportcenter_j/information

6) 課題と今後の予定

京都府では、医療圏によるてんかん三次診療が可能な専門機関への受診率の偏りが課題となっている。第 4 回京都てんかん診療講演会で提起された問題をもとに、地域かかりつけ医と専門機関との情報共有・連携を、急性期からのシームレスな対応も含めて、円滑に進められるよう様々な枠組みでの対応を検討している。

一例として、てんかん診療地域連携事業とは別の枠組みとはなるが、企業との協力のもと非専門医向けの講演

と相談セッションを設けた「てんかん診療 STEP UP」を行った。整備事業としては、他施設合同カンファレンスへの参加施設の拡充、てんかん相談窓口の有効利用、また第4回京都てんかん診療講演会での議論にもとづき、京都大学医学部附属病院での遠隔脳波診断、遠隔診療の提供に向けて準備を進めている。また、当方の今までの活動を、日本てんかん協会からの依頼原稿としてまとめたものが、2026年3月号の「波」に掲載予定である。

資料 1

京都府てんかん地域診療連携体制整備事業

第2回てんかんに関する
府民公開講座
～てんかんを正しく知ろう～

日時 2024年10月20日(日) 13:00～14:00

開催形式 オンライン(zoomウェビナー)

てんかんは赤ちゃんから高齢者まで誰でも罹患する慢性の国民病であり、およそ100人に1人に起こります。また、生涯に渡り1回のみの発作に限れば、10人に1人に起こります。一般の方にてんかんを正しく理解できるよう、専門の医師が解説します。

小児てんかんって何？
てんかんってどんな病気？
てんかんのお薬って？

左記のQRコードまたは以下のURLよりお申込みいただけます。後日、ご参加用リンクを送付いたします。
事前登録 URL: <https://u.kyoto-u.jp/wg6b5>
～ウェビナー開始前まで登録可能です～

共催 京都府 京都府立医科大学附属病院 京都大学医学部附属病院
後援 京都府医師会(申請中) 日本てんかん協会京都府支部

プログラム・詳細は裏面をご覧ください

資料 2

第4回てんかん診療講演会
『てんかんの急性期からのシームレスな対応』

日時 2025年2月13日(木)
18時30分～20時30分

定員 オンライン(Zoomウェビナー)

対象 府内でてんかん診療に関わる可能性のある全ての医療関係者・医療系学生

共催 京都府
京都府医師会
京都府立医科大学附属病院
京都大学医学部附属病院

京都府てんかん地域診療連携体制整備事業

お申込み
右のQRコードまたは下記URLよりお申込みいただけます
後日、ご参加用リンクを送付いたします
申込URL: <https://u.kyoto-u.jp/wg6b5>
直前までお申し込みが可能です

本講演会では、日本医師会生涯教育講座の単位が付与されます

第1部: けいれん発作 1.0単位
第2部: けいれん発作 0.5単位

20. 大阪府てんかん地域診療連携体制整備事業 令和6年度の活動について

大阪大学医学部附属病院てんかんセンター
貴島晴彦

まとめ

大阪府のてんかん地域診療体制拠点事業は令和元年7月8日に拠点病院として大阪大学医学部附属病院が指定され開始となった。令和4年度からはこれまでの3年間の実績がみとめられ継続して大阪大学医学部附属病院がてんかん地域診療体制拠点として大阪府から指定されている。令和6年度も大阪府の特性を活かしたてんかん地域診療拠点体制を構築することを目指した。主な事業計画として、継続的な事業として啓発活動、教育、ネットワーク整備とした。また、府内でのコーディネーターの連絡網の整備、情報交換を実現している。これらは、特に地域での診療連携の向上に加えて、患者の利便性、さらに患者の社会資本の有効利用や社会参加につながるものである。

1. 概要

大阪府はてんかん地域診療体制拠点事業に参加している道府県の中では最も人口の密集している地域であり、日本で唯一いわゆる僻地が存在しない自治体であるとも言われている。また、てんかんを扱う医療施設も府内に点在している。そのため、本整備事業では協議会のメンバーが府内の複数の施設から参加している。また、それぞれの施設の診療内容、所在地や交通の面でも特徴がある。単一の施設のみでてんかんに関わる多くの問題解決を担う必要には迫られていない。しかし、キャリアオーバーに関わる問題については、この数年は本事業を通じて議論が行われている。特に令和6年度はこれまでの事業の継続した活動に加えて、令和5年度に引き続きコーディネーター間のネットワーク形成、さらに6年度から教育施設への啓発についても活動に盛り込んだ。一昨年よりオンラインでの視聴可能な教育用のビデオコンテンツを作成している。

大阪府てんかん治療医療連携協議会を例年通り2回実施した。

第1回 令和6年6月28日（金曜日）

第2回 令和7年1月23日（木曜）

2. 大阪府のてんかん整備事業

2.1. 啓発活動、教育

医療従事者、関係機関職員、てんかん患者・家族、教育機関などに対する研修

【協議会主催】

第二回大阪府てんかん治療医療連携の会

2025年2月1日 14:30～16:30 大阪大学中之島センター

第一部 :てんかん治療医療連携の現状①

★各施設から現状をご報告いただき、問題点の Discussion

大学病院てんかんセンター

総合病院てんかん外来

てんかん専門クリニック

一般クリニック

第二部 :てんかん治療医療連携の現状②

★てんかん診療のトピックス2点を取り上げ、Discussion

てんかんに伴う精神症状に対する診療の現状

てんかんコーディネーターの現状

大阪府てんかん治療医療連携の会は昨年度から企画した事業であり、医師、コーディネーター、パラメディカル、患者団体が一堂に会して、情報の共有を行うことを目的としている。

【大阪大学医学部附属病院てんかんセンター】

若手医師向けの Web コンテンツ公開 2022

(配信期間:2022年12月23日～2024年3月31日)

「すべての医師に知って欲しい!てんかんの話」

「小児てんかん診療入門」 講師：青天目信（小児科）
「成人のてんかん・診断編」 講師：押野悟（脳神経外科）

若手医師向けの Web コンテンツ公開 2023

（配信開始 2023 年 12 月 21 日～）

「小児てんかんの薬物治療 ABC」 講師：下野 九理子（小児科）
「精神科医から見たてんかん診療について」 講師：畑 真弘（神経科・精神科）

若手医師向けの Web コンテンツ公開 2024

「成人てんかんの治療について」 クーウイミン（脳神経外科）

学校関係者向け Web セミナーまたはコンテンツを年度内に配信予定

医療従事者向けてんかんセミナー2024

2024 年 11 月 6 日 大阪大学てんかんセミナーの開催

「笑い発作を伴う前頭葉てんかん」

入里 直樹先生（大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学）

「当院におけるフェンフルラミンの投与経験」

菅野 直記先生（大阪大学医学部附属病院 小児科 医員）

「発達期脳に及ぼすてんかん発作の影響」

「皮質形成異常を有する CDK5 欠損マウスを用いた検討」

高橋 悟先生（旭川医科大学小児科学講座教授）

【市立吹田市民病院】

第 5 回てんかんスキルアップセミナー～明日から使える診療のポイント～様々なてんかんの脳波

WEB 配信 2024 年 9 月 17 日

第 17 回 Epilepsy Expert Meeting Web Seminar

2024 年 5 月 14 日

Stroke & Epilepsy セミナー 「てんかんの診断と治療」

WEB 配信 2024 年 10 月 2 日

「Neurology 力」を強化する急性期の脳波：アドバンスド（音成秀一郎）

WEB 開催

【大阪市立総合医療センター】

市民医学講座 こどものひきつけ 2024

2024 年 9 月 21 日 14:00 ～ 16:00

大阪市立総合医療センター さくらホール

- 1 「てんかんの基礎知識 ～けいれん救急対応も含めて～」
小児脳神経内科 医長 福岡正隆
- 2 青年期のてんかんで気をつけたいこと
神経内科部長 三枝隆博
- 3 世界的なてんかん啓発機会パープルデーを大阪で
事務部長 河田宏一
- 4 てんかん外科の概要：離断術を中心に
小児脳神経内科 医長 井上岳司
- 5 子供のてんかん外科を経験して
てんかん当事者のお父様
- 6 シンポジウム 「てんかん外科について考える」

【近畿大学主催】

医療・介護現場で働く方のためのてんかん学びセミナー

2024 年 11 月 8 日開催

【日本てんかん協会大阪府支部】

てんかん啓発イベント「パープルデー大阪」

2025 年 3 月 20 日（祝） あべのハルカス近鉄本店

【その他】

小児てんかん診療アップデート

2024 年 12 月 10 日開催

てんかん診療の Update～女性とてんかん～

2025 年 3 月 17 日開催予定

2.2. 患診療情報の共有と病院間ネットワークの形成

てんかん診療マップへ追加登録

大阪府下のてんかん診療医療機関を周知し、患者が自らアクセスしやすくなることや、他院へ紹介する際の医療設備・診療内容を分かりやすく検索することができる様にてんかん診療マップを作成している。

令和 6 年度に大阪府内てんかん診療マップの更新のために全施設にアンケートを実施した。

<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/home/epilepsy/search/>

診療マップ登録全施設 159施設

検索仕様の見直しをおこなった。

Nanacara for Doctor に「お知らせ（大阪府限定）」を作成し、随時講演会などの情報を取得できるシステムを平成 5 年度に構築し、運営を継続している。

2.3. てんかん相談窓口

てんかん患者や家族のための相談窓口を 2020 年 9 月よりてんかんセンターホームページ上に設置し、運用を開始している。回答者は大阪大学医学部附属病院てんかんセンターに所属する医師あるいは協議会のメンバーである。相談内容としては、現在の治療内容に関する質問、利用できる医療福祉サービスの照会、医療機関や相談窓口についての問い合わせがあった。

・てんかんセンターHP からの相談事業継続

今年度は 1 月時点で 17 件の相談があった。治療に関する相談が半数以上。適宜担当者から回答した。

・通院中患者および家族の相談対応を患者包括サポートセンターにて対応。

1 月時点 87 件。かかりつけ医紹介、転院先案内、社会資源の紹介、説明など。

3. 大阪府のてんかん医療体制における課題の抽出と共有

- 移行医療について、特に自閉症、知的障害や身体障害がある合併症を持つてんかん患者について。特に成人期。
- 精神症状合併の対応について
- 発作時の診療について
- てんかん診療を謳っていても実際には十分に対応できない施設があるのではないか。
- 二次医療機関との繋がりが見えにくい。
- 診断書の要望にどのように対応するのか。特に就労に関して。
- ビデオモニターのできる施設が限られている。

21. 2024 年度 神戸大学医学部附属病院てんかんセンター 報告

神戸大学医学部附属病院 てんかんセンター長 篠山 隆司

2024 年度 活動報告

2022 年 5 月 てんかんセンター開設後、てんかんセンターの重要事項を審議するため定期的に運営委員会を開催し、診療科横断的にてんかんの包括的診療を展開しています。

2024 年より慢性頭蓋内電極による侵襲評価を導入しました。2025 年度は定位的头蓋内脳波 SEEG や脳深部刺激療法 DBS（視床前核）の導入を予定しています。

運営委員会メンバー



2024 年 10 月、日本てんかん学会
包括的てんかん専門医療施設として認定



●診療実績

長時間ビデオ脳波モニタリング 198 件
てんかん外科手術 3 件

●相談窓口 相談対応実績

2022 年 12 月 1 日相談窓口開設

脳神経内科(木曜日：13:00～17:00)・脳神経外科(水曜日：9:00～12:00)・小児科(火曜日：13:00～17:00)で対応しています。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
脳神経内科	2	2	2	3	4	1	1	3	1	1		
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
小児科	1	0	0	1	0	0	0	1	1	3		
精神科神経科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

てんかん指導医、専門医（常勤）：小児科 永瀬 裕朗 医師

てんかん専門医（常勤）：小児科 山口 宏 医師、脳神経外科 藤本 陽介 医師、脳神経内科 尾谷 真弓 医師

市民公開講座
2024年11月17日（日）11：00～ハイブリッド開催
参加者 83人（会場 25人、Web 58人）

地域連携研修会
2024年12月15日（日）11：00～ Web 開催
参加者 62人



神戸大学医学部附属病院 てんかんセンター
兵庫県てんかん地域連携研修会

2024年12月15日(日) 11:00~13:00

開催場所: 開催Zoom (Zoom Webinar)

【事前申込不要】

下記URL/二次元コードよりご参加ください

URL:<https://us06bwmf.zoom.us/j/83479375916>
(ウェビナーID:834 7937 5916)



てんかんを理解し支えよう

— 支援者の方と共に —

日 時 : 2024年12月15日(日) 11:00~13:00

場 所 : 開催Zoom (Zoom Webinar)

【事前申込不要】

下記URL/二次元コードよりご参加ください

URL:<https://us06bwmf.zoom.us/j/83479375916>
(ウェビナーID:834 7937 5916)

対 象 者 : 医療従事者、教育関係者など

I. 講演会

1. てんかん診断と治療薬

2. てんかんのある子どもの教育
— 学校園で求められる知識、発達障害との関連 —

3. てんかんの看護と生活支援



脳神経内科 助教 嶋 勉 健人

小児科 総合教授 永瀬 裕樹

看護部 看護課 橋本 美和

II. 質疑応答

主催：神戸大学医学部附属病院（兵庫県てんかん支援拠点病院）

お問い合わせ先（事務局）：epilepsy@med.kobe-u.ac.jp

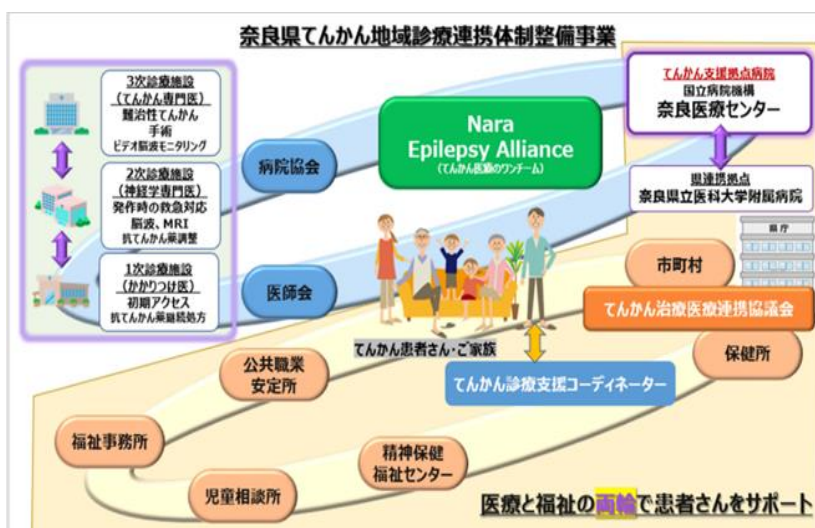
※本研修会は、兵庫県てんかん地域連携推進体制整備事業として開催いたします。

2 2. 奈良県てんかん対策地域診療連携整備体制事業（2024 年度）報告

国立病院機構奈良医療センターてんかんセンター 田村健太郎

まとめ

- ・奈良県におけるてんかん対策地域診療連携整備体制事業は、2021 年 4 月、てんかん診療拠点機関として、国立病院機構奈良医療センターが指定され、奈良県立医科大学附属病院が連携機関として機能することで、活動している。2024 年 4 月からは、乳幼児以外のすべてのてんかん外科手術が当院でも可能となっている。
- ・医療・福祉との連携をはかるために、医療・行政・患者代表メンバーからなる「てんかん治療医療連携協議会」を開催した。
- ・てんかん患者をサポートするために、医療者のチームとして、「Nara Epilepsy Alliance（以下 NEA）」の会合を定期的に行っている。
- ・奈良県下のてんかん専門医の多くが当院での診療を行っており、専門医同士が相談できる体制となっている。
- ・てんかん教育普及・啓発のため、医療関係者向けの研修や医療関係者以外（患者・患者家族・学校関係等）の研修も行った。
- ・てんかん患者の医療・福祉に関する相談窓口となる「てんかん診療支援コーディネーター」の育成を積極的に行うとともに、相談業務を行っている。



【活動報告】

1) てんかん治療医療連携協議会（以下、協議会）の実施

2023 年 3 月 23 日 第 1 回目の協議会を開催した。この際に、「奈良県てんかん治療医療連携協議会設置要綱」を協議会メンバーで確認。

第 1 回協議会では、協議会メンバーのうち「てんかん患者およびその家族」が未選出だったが、2024 年 1 月、公募により、波の会奈良県支部代表田中宏明氏が選出された。その後、2025 年 1 月 30 日に第 3 回目の協議会を開催した。

この協議会においては、協議会委員の紹介（表 1）・てんかん支援拠点病院実績報告（田村より報告）を行った。

表 1 協議会構成員

	構成員
てんかん治療を専門に行っている医師	会長 奈良医療センター院長 永田清 副会長 奈良県立医科大学救急科 福島英賢 事務局 奈良医療センター脳神経外科 田村健太郎

	医師会 橋本クリニック 橋本浩 小児科 奈良県立医科大学 榊原崇文 脳神経内科 南奈良総合医療センター 小原啓弥 精神科 奈良県立医科大学 水井亮
県疾病対策課 精神保健福祉センター	奈良県医療政策局疾病対策課課長 小池浩司 精神保健福祉センター精神科 伊東千絵子
てんかん患者およびその家族	波の会奈良県支部代表 田中宏明

2) 波の会奈良県支部との連携

2025 年 3 月には、てんかん支援拠点機関（奈良医療センター）と波の会と共催でパープルデー企画（JR 奈良駅旧駅舎ライトアップ）、秋に市民公開講座を実施予定である。

3) NEA（Nara Epilepsy Alliance）会合

てんかん患者が、適切な医療が受けられるように、県内のてんかん医療を提供する病院・診療所が連携して、てんかん医療の諸問題を検討する会議である。奈良県内のてんかんの診療を行う医療機関の医師を中心としたメンバー（詳細は 2021 年度報告書参照）で 2021 年 11 月に発足した。

引き続き、2024 年度も 12 月 12 日に NEA を開催し、NEA メンバーの変更・拠点病院報告を実施した。

4) 奈良医療センターてんかんセンターの診療状況

現在、当院では、脳神経外科・脳神経内科・小児神経科の医師（常勤・非常勤含む。うち、てんかん専門医 8 名）がてんかんセンター外来を担当している。月に約 600 名の外来患者が来院される。難治症例については、県下のてんかん専門医同士が連携して診療にあたる体制をとっている。

てんかん診療の質の確保にはかせない長時間ビデオ脳波検査は、ここ数年、年間約 100－120 例を行っている。奈良県下では、充実したビデオ脳波モニタリングシステムが行える医療機関が限られており、他院からの依頼も多い。脳波解析専門技師 3 名が専門的に検査を担当・解析業務にも携わっている。小児から成人まで幅広く対応している。

てんかん外科適応症例については、当院で長時間ビデオ脳波検査を行ったのち、カンファレンスでてんかん外科の適応等を決定、2024 年 4 月からは、乳幼児の手術は奈良県立医科大学附属病院あるいは他病院に紹介、それ以外の症例は当院で施行している。また当院は機能的定位脳手術施設認定を受けており、視床前核 DBS も今年度から開始している。

5) 研修・啓発活動の主催

◆院内研修・院外研修

◇てんかんカンファレンス（医療従事者対象）

奈良医療センターのさくら講堂にて、第一木曜日 17：30 より、近隣病院のてんかん専門医が参加して、長時間ビデオ脳波検査の解析・難治症例に対する治療方針等を検討している。医師のみならず、多職種の参加があり、毎回、約 20 名程度が参加している。

また、2022 年 1 月より、NEA メンバーに対して、WEB 配信も行っている。

◇患者・医療関係者・一般市民向けの研修

	内容	講師	対象
2024 年 9 月 20 日	奈良県立聾学校勉強会 てんかんについて	田村健太郎（医師） 辻友博（社会福祉士）	聾学校職員
2024 年 11 月 9 日	日本てんかん協会医療講演会	田村健太郎（医師） 辻友博（社会福祉士）	一般市民
2024 年 11 月 20 日	学校保健委員会勉強会 「てんかん」	田村健太郎（医師） 矢崎耕太郎（医師） 金田和奈（看護師） 辻友博（社会福祉士）	養護職員・特別 支援学校職員

2025 年 3 月 26 日 (予定)	パープルデー企画 「JR 奈良駅旧駅舎の紫のライトアップ」		一般市民
-------------------------	----------------------------------	--	------

4) 相談事業・てんかん診療支援コーディネーターの育成

外来に「てんかん相談室」を設置している。てんかん患者・家族が気軽に立ち寄り、てんかんに関連する様々の相談ができる場所である。対応するのは、てんかん診療支援コーディネーター（以下、コーディネーター）である。2024 年 11 月から、てんかん外科無料相談会を開催し、田村が担当している。

コーディネーターは、国立精神・神経医療研究センター主催の研修会・全国てんかんセンター協議会（JEPICA）参加で研修を受けた者が正式に認定される。奈良県におけるコーディネーター登録者は、看護師 10 名 社会福祉士 2 名 療養介助員 1 名 医師 1 名となっている（2024 年 1 月現在）。院外にも、コーディネーター登録が増えるように活動を広めており、今年度、3 名が登録された。

2021 年 5 月から相談業務をはじめているが、2021 年 5 月～2024 年 12 月に、142 件の相談があった。本人からの相談 31%、家族からの相談 48%、医療関係者からの相談 12%だった。相談方法としては、直接面談が約半数、メール・電話等での相談が約半数である。相談内容は、心理社会的問題に対する相談 30%・受診相談 28%・制度やサービスについての相談 15%であった。

5) てんかん支援ネットワーク（てんかん地域診療連携体制整備事業により運営されている。インターネット上で公開中）の整備

奈良県下の各医療機関に郵送にて、登録の可否についてたずね、ホームページを整理。県下医療機関のてんかん医療への連携の意思について実態把握をおこなっている。また、てんかん患者がより適切に、医療機関につながりやすいように整備を進めている。

23. 鳥取県のてんかん地域診療連携事業活動の概要 ー2024 年度ー

鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野 てんかん診療連携協議会委員長 岡西 徹

まとめ

2024 年度のてんかん地域診療連携事業として、てんかん治療医療連携協議会を県単位と学内にて開催した。地域の医療者向けのてんかん講演を鳥取大学内にて行った。

啓発活動としては小・中・特別支援学校教員、福祉施設職員を対象に地域内 14 校、2 施設にオンラインでの総合講義を行った。市民向けの公開フォーラムを米子コンベンションセンターにて行った。

今後、本事業活動の啓発を様々な機関や施設に向けて行う必要性があると考えます。

1. 概要

鳥取県の推計人口は令和 5 年 12 月 1 日現在 53 万 6556 人で、男性 25 万 6861 人、女性 27 万 9695 人である。外国人が 10357 人、1 年の出生数が 3462 人、死亡者数が 8381 人である。1 年で 6297 人の減少、増減率-1.16%と減少傾向にある。

日本てんかん学会専門医は 7 名（東部 1 名、中部 1 名、西部 5 名；小児科 5 名、脳外科 1 名、精神科 1 名）である。2015 年にてんかん地域診療連携体制整備事業のもとで鳥取大学医学部附属病院がてんかん診療支援拠点病院となり 9 年目を迎えた。2023 年度における本事業の活動の概要について報告する。

2. てんかん地域診療連携事業

1) 第 1 回てんかん治療医療連携協議会

2024 年度第 1 回治療医療連携協議会を 2024 年 8 月 1 日にオンライン会議にて開催し、事業計画策定の概要、相談体制、研修会、普及啓発活動、予算案について協議し、また、令和 5 年度の活動実績を報告した。

(1) 拠点機関における事業計画の策定の概要

委員の変更。・地区別：東部地区：3 名、中部地区：1 名、西部地区：7 名・職種別（重複あり）：医師：6 名、行政：2 名、精神保健福祉センター：1 名、保健所：1 名、看護職その他：3 名、コーディネーター：2 名・令和 6 年度事業計画書及び年間スケジュール

(2) 相談体制・診療拠点機関のてんかん診療支援コーディネーター

2 名体制で実施（月・木曜日：13 時～16 時；火・金曜日：10 時～13 時）。電話相談が主体。必要があれば面談も行う。・相談体制の周知：関係機関（医療・行政・教育・福祉機関）への事業ポスター、リーフレットを送付し掲示を依頼。ホームページを活用し事業活動情報を公開。

(3) 研修会

令和 6 年度は、東部・中部・西部地区毎に対面による研修会開催を計画。

(4) 市民への普及啓発活動

令和 6 年度は、市民公開講座 1 回を計画

(5) 予算案

令和 6 年度の予算案について承認。

(6) その他

令和 2 年度に作成した「緊急カード」を継続して作成配布。

2) 第 2 回てんかん治療医療連携協議会

第 2 回治療医療連携協議会を 2024 年 3 月にオンラインにて開催し、今年度の活動を振り返るとともに、次年度に向けた活動計画案を提示する予定である。

3) 支援拠点病院の鳥取大学医学部附属病院における診療科別てんかん患者数

てんかん診療支援拠点病院である鳥取大学医学部附属病院での 2024 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までのてんかん患者数（保険診療病名から）を調査した。なお、複数回受診でも 1 回としてカウントした。保険診療病名であるため、特に精神科の患者数は多めに出ている可能性がある。脳神経内科、脳神経小児科、精神科、脳神経外科、精神科が主にてんかん診療を行っていると思われる。

診療科ごと件数：遺伝子診療科 1、感染症内科 1、眼科 1、救急科 27、形成外科 4、呼吸器・膠原病内科 31、呼吸器外科 7、血液内科 21、耳鼻咽喉科頭頸部外科 10、歯科口腔外科 3、腫瘍内科 5、循環器内 21、小児科 31、

小児外科 3、消化器外科 9、消化器内科 14、女性診療科 10、心臓血管外科 11、腎センター・腎臓内科 5、新生児医療センター2、整形外科 7、精神科 241、内分泌代謝内科 3、乳腺・内分泌外科 6、脳神経外科 254、脳神経小児科 430、脳神経内科 517、泌尿器科 10、皮膚科 3、放射線科 1、麻酔・ペインクリニック外科 14

4) てんかん地域医療連携研修会

【中部地区】2024年10月10日 講師：植田俊幸（鳥取県立厚生病院精神科医長） 研修会名：「てんかんの基礎と脳波の読み方」 会場：鳥取県立厚生病院、対象：医療従事者、参加人数：15名

【東部地区】2024年2月予定 講師：前垣義弘（鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野准教授）

5) 一般市民対象の研修会

(1) 鳥取県小・中・特別支援学校教職員と福祉施設職員対象にオンラインセミナー 講師：岡西徹（鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野准教授） 研修会名：「てんかんってどんな病気？」14校、2施設参加

6) 啓発活動

(1) 市民公開講座

2024/1/7 にあいサポートとっとりフォーラム 24（米子コンベンションセンター）にて、荒井勇人医師（鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野）により、演題名「新しい視点で見る研究報告とドイツペーテルのレポート」の講演を行った。てんかんの福祉に自治体全体で大きく取り組むドイツペーテルの状況を説明した。

2024/3/9 に米子市市民公開講座として米子コンベンションセンターにて岡西徹医師が「てんかんの外科治療」について講演した。

2025/2/16 にも市民公開講座および、面談形式の相談事業を予定している。

(2) パープルデーのイベント

2024/3/26 に西部地区の湊山公園の桜の木を紫色にライトアップした。

2025/3/24 から1週間、東部地区、中部地区、西部地区の公共施設や病院でライトアップを予定している。

7) 相談事業

てんかん診療支援コーディネーターは、てんかん診療支援拠点病院の鳥取大学医学部附属病院内に相談室を設置している。2024年度は、2名体制で事務を兼任しながら専任で実施している。

ホームページの内容が分かりにくいと思われた部分を改善した。

2名のコーディネーターともに看護師資格があり、非常勤（パートタイム）の勤務形態で、月・木曜日の13時～16時、火・金日の10時～13時に勤務し、主に電話による相談業務を行っている。希望があれば面談も行っている。

相談事業のほかに、HPの活用や更新、ポスター、リーフレットの配布し、相談窓口情報の提供など、本事業の事務処理も行っている。国立精神・神経医療研究センターのてんかん全国支援センター主催のてんかん支援コーディネーター研修会に、コーディネーターが受講し、相談業務のレベルアップを行った。

(1) 相談件数

2024年1月～2024年12月末時点での相談件数は18件であった。また、相談対象者は、患者の家族からの相談が最も多かった。同じ相談者から複数回の相談もあった。

(2) 診療ネットワーク

鳥取大学医学部附属病院への紹介・受診7件

他の医療機関への紹介：3件

行政・福祉機関への紹介：2件

(3) 相談内容

1. 運転免許センター、福祉施設、幼稚園より、本事業のリーフレット・緊急カードの追加希望があった。
2. 県外のてんかん治療中の患者家族より、今後の生活が心配、どうしたらよいかとの相談があった。
3. 県内の病院の地域連携室職員より、てんかん患者の鳥取大学医学部附属病院への紹介について問い合わせがあった。
4. 家族がてんかん治療中であるが、発作が増加しているため専門医の紹介や長時間ビデオ脳波モニタリング検査について知りたい。
5. 家族がてんかん治療中であるが、収まっていた発作がおこるようになったので専門医の紹介をして欲しい。
6. クリニック通院中であるが、服薬せずに発作がおこっていない。主治医より鳥取大学医学部附属病院の受診を提案したが、てんかん診療について聞きたい。

7. 鳥取県内の病院でウェスト症候群の治療中であるが、ホルモン療法の適応や予後、子供へのかかわり方等について聞きたい。鳥取大学医学部附属病院の受診は可能であるか。
8. 3～4年前から年に1回程度の発作を起こしている。その都度違うクリニックや病院を受診。様子観察でおわっている。現在はかかりつけのクリニックでてんかんの薬を内服しており1年ぶりに発作をおこした。詳しい検査をうけたいと思っている。どうしたらよいか。
9. 家族がてんかん治療中であるが、土曜日にも受診できるクリニックをさがしている。
10. 鳥取県家庭支援課職員より本事業の相談システムについて、常設かどうか等の問い合わせがあった。
11. 家族が車の運転中に意識消失し事故をおこした。鳥取大学医学部附属病院で詳しい検査をしてほしい。
12. 子どもが成人し、てんかん治療が認知症専門医に移行してから発作が増加した。専門医に受診したい。
13. 鳥取大学医学部附属病院に通院中の患者について、服薬、車の運転、生活支援などについて該当外来看護師から問い合わせがあり、患者と面談した。
14. これまで受診していた病院からの紹介先では、検査をしてもらえない状況であるためセカンドオピニオンを検討している。専門医の意見を聞きたい。

(4) 相談後の対応

- 1 への対応：それぞれにリーフレットと緊急カードを郵送した。
- 2 への対応：支援制度について説明し、居住地域の役所の福祉課やてんかん協会支部の連絡先を情報提供した。
- 3 への対応：脳神経小児科、脳神経内科、脳神経外科、精神科のうち必要な診療科への外来担当医あての紹介で予約がとれることを伝えた。
- 4 への対応：希望があれば、鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診できることを伝えた。長時間ビデオ脳波モニタリング検査についての詳しい説明も可能であることを伝えた。
- 5 への対応：希望があれば、鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診できることを伝え、紹介の手続きについて説明した。
- 6 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診は可能で、受診結果で、必要な検査をしていくことを説明した。現在の主治医に紹介状を依頼することをすすめた。
- 7 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院脳神経小児科に紹介で受診の方向になった。
- 8 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院または居住地域の博愛病院受診を提案した。
- 9 への対応：鳥取県内でてんかん診療を行っているクリニックを伝えた。
- 10 への対応：常設ではなく、月、火、木、金の受付時間内に電話相談を、また、電話で予約後に面談を行っている。面談室と時間の確保ができれば当日の面談も可能であることを伝えた。
- 11 への対応：希望があれば、鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診できることを伝え、紹介の手続きについて説明した。
- 12 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院の専門医が出張で診察を行っている病院での受診が可能であることを伝えた。
- 13 への対応：コーディネーターが面談を行い、患者が困っていることや思いを聞き、必要と思われる支援制度についての説明と居住地域の福祉課への相談を提案した。
- 14 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院へのセカンドオピニオンを提案した。

(5) 総括

- * 昨年度、小・中・特別支援学校の職員へ行ったオンライン講義を、対象を福祉施設職員へも広げ行う事が出来た。今年度も多数の学校と福祉施設の参加があり、学校教員の関心の高さがうかがえた。今後もてんかん地域連携体制整備事業の活動を地域に広げて活動をしていきたい。
- * 今年度も、てんかん治療医療連携研修会を対面により、県内3カ所で実施し、また、現地開催による市民への啓発活動や小学校の教職員対象の研修会も実施した。
- * 相談件数は 患者本人 4 件 家族、知人 9 件 地域の方 0 件 企業 0 件 医療従事者 2 件 行政・福祉・教育関係者 4 件 であった。
- * 本事業のリーフレットと緊急カードの追加請求があった。
- * コーディネーターへの相談は、前年より5件増加した。
- * 県内のてんかん専門医は7名登録されているが、地域や専門分野が偏在している。今後も、県内の各所でてんかんにおける研修会などを開催し、てんかん診療を担う医療機関との連携体制を強化する必要がある。
- * HP や広報活動により引き続き相談事業の認知を図り、啓発活動を継続していく必要性を感じている。
- * てんかん診療支援拠点病院にてんかんセンターとしての機能がないため、診療支援拠点病院や県内の医療機関、保健所、医師会、教育機関、行政機関、企業等に向けて広報活動や本事業のPR活動を積極的に行う必要があると考える。

2 4. 岡山県におけるてんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度）

岡山大学病院てんかんセンター 田中將太、秋山倫之

まとめ

岡山県内の診療連携向上のため、岡山県てんかん診療ネットワーク (Okayama Prefectural Epilepsy Network, OPEN) において、診療上の課題等についての討論や情報提供、てんかんに関する講演資料の配布を行っている。教育事業としては、幼稚園・学校教職員への講習、救急隊員への講習を行った。症例 web カンファレンスの月 1 回開催、てんかんコーディネーターをはじめとする医療ソーシャルワーカーによる相談・診療連携業務も続けている。疾患啓発として、てんかん月間やパープルデーのイベント（ライトアップやスポーツチームとのコラボ活動）を行った。

1. 概要

今年度は、以下の事業を行った。

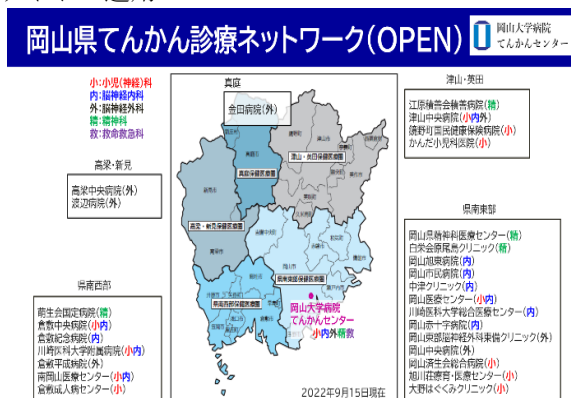
- 岡山県てんかん診療ネットワークメーリングリストと専用サイトの運用
- てんかんに関する講習会
- てんかん症例 web カンファレンス
- てんかんコーディネーターによる相談・診療連携業務
- 疾患啓発活動（てんかん月間、パープルデー）

2. 活動状況

1) 岡山県てんかん診療ネットワーク (Okayama Prefectural Epilepsy Network: OPEN) の運営

岡山県県南の連携施設は比較的充実しているが、県北は連携施設が依然として少なく、この拡大が課題である。

てんかん診療に関わる医療職からなるメーリングリスト (OPEN-ML) と参加者専用ウェブサイトの運営を続けており、診療にかかわる議論や情報提供、てんかんに関する講演の資料配布等を行っている。



2) てんかんに関する教育

- てんかんセンター講習会（2024 年 8 月 30 日、2025 年 2 月 14 日）
8 月は幼稚園・学校教諭を対象とし、てんかんという疾患の概要、発作への対応法、学校におけるミダゾラム口腔用液の使用法について講演を行った。2 月は救急隊員を対象とし、てんかん発作への対応法と病院前治療について講演を行った。

2024年度
第1回 岡山大学病院てんかんセンター講習会
てんかんの診断と治療・対応法

てんかんの患者さんは100人に1人おられます。
基本的知識と現場での対応法（ビデオあり）についてお話しします。
現場で発作を止める治療薬「プロカム®」についても説明します。

日時：2024年8月30日（金）18時00分～19時30分
場所：Web開催（Zoomを使用）
対象：幼稚園、学校教職員
人数：90人まで（先着順）
参加費：無料

参加人数の把握と会議のリンク送信のため、
参加希望（所属名もお願いします）の方は、
8月22日（木）までに
下記担当者へメールでご連絡ください。
事前質問ご希望の方はご連絡ください
（質問者の氏名は伏せます）。

講演内容
てんかんとは
岡山大学病院小児神経科 医師 塚原理恵
てんかん発作への対応法
岡山大学病院小児神経科 医師 時岡礼恵
事前質問への回答、質疑応答

問い合わせ先：岡山大学病院医事課 岩田・辻
Tel: 086-235-7581
Mail: iika-soukatsu@adm.okayama-u.ac.jp
岡山大学病院てんかんセンター
https://epilepsy.hospital.okayama-u.ac.jp/
本講習会は、てんかん地域診療連携体制整備事業
（厚生労働省、岡山県）の一環として行っています

2024年度
第2回 岡山大学病院てんかんセンター講習会
**てんかん発作への対応と
病院前治療について**

てんかんの患者さんは100人に1人おられます。
基本的知識と現場での対応法についてお話しします。

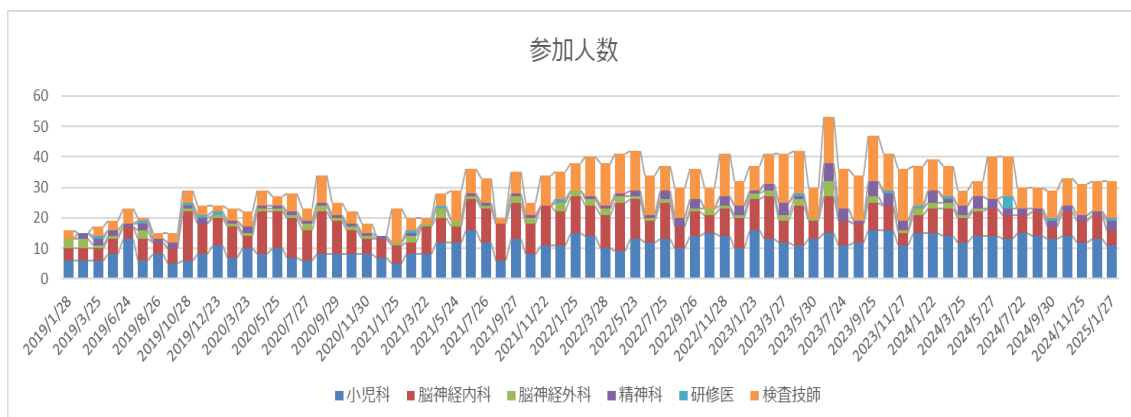
日時：2025年2月14日（金）18時00分～19時30分
場所：Web開催（Zoomを使用）
対象：救急隊員
人数：90人まで（先着順）
参加費：無料

参加人数の把握と会議のリンク送信のため、
参加希望（所属名もお願いします）の方は、
2月6日（木）までに
下記担当者へメールでご連絡ください。
事前質問ご希望の方はご連絡ください
（質問者の氏名は伏せます）。

講演内容
てんかんについて
岡山大学病院小児神経科 医師 土屋弘樹
てんかん重症状態の病院前治療
岡山大学病院小児神経科 医師 時岡礼恵
事前質問への回答、質疑応答

問い合わせ先：岡山大学病院医事課 岩田・辻
Tel: 086-235-7581
Mail: iika-soukatsu@adm.okayama-u.ac.jp
岡山大学病院てんかんセンター
https://epilepsy.hospital.okayama-u.ac.jp/
本講習会は、てんかん地域診療連携体制整備事業
（厚生労働省、岡山県）の一環として行っています

- てんかん症例院内カンファレンス：月 2 回開催、多職種による症例検討。
- てんかん症例 web カンファレンス：岡山県内の医療従事者が主な対象。月 1 回開催。

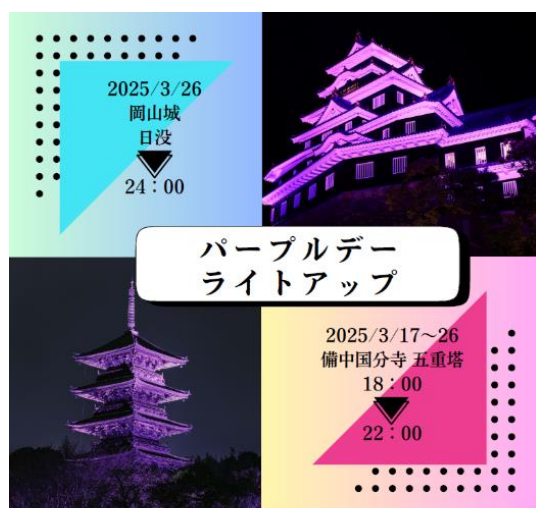


3) 相談業務

てんかんコーディネーターは、社会福祉士が 1 名（常勤、兼務）である。社会福祉士は総合患者支援センター（てんかんセンター相談窓口を設置）に所属しており、同センターの他の職員もコーディネーター業務の補助を適宜行っている。

4) 疾患啓発活動

- てんかん月間（2024 年 10 月）
啓発ポスターや資料展示・配布。
- パープルデー（2025 年 3 月下旬の予定）
啓発ポスターや資料展示・配布。
備中国分寺五重塔のライトアップ。
岡山城のライトアップ。
岡山県庁前プロティのライトアップ。
卓球 T リーグチーム岡山リベッツ、バレーボール V リーグチーム岡山シーガルズとのコラボによる応援メッセージの SNS 配信、ポスターの配布、ブース出展など。



パープルデーとは

カナダのキャシディー・メーガンさんによって始められた活動で、世界各国の人にてんかんへの理解を深めてもらうとともに、てんかんを持つ人への応援メッセージを込めて紫色(てんかんの国際的イメージカラー)の物を身につける日です。

主催：岡山県てんかん治療医療連携協議会
共催：岡山大学病院てんかんセンター
協力：岡山県、総社市、岡山市
担当：岡山大学病院てんかんセンター 秋山 倫之 (086-235-7372)



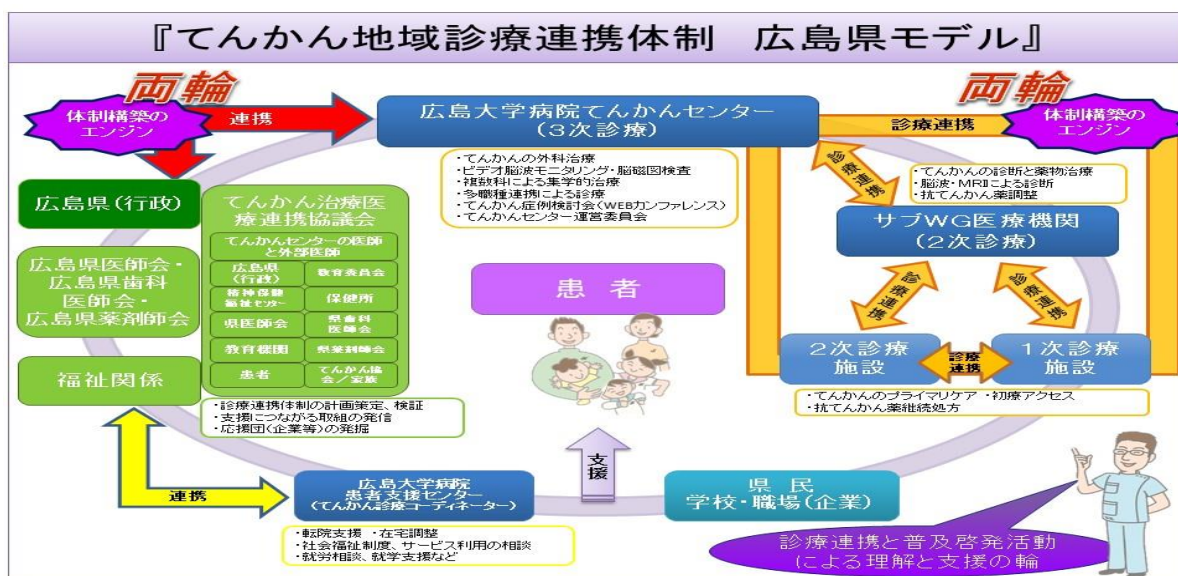
岡山県てんかん治療医療連携協議会
岡山大学病院 てんかんセンター

25. 広島県てんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度）

広島大学病院てんかんセンター 飯田 幸治

広島大学病院（広島県指定てんかん支援拠点病院）では

- てんかん治療医療連携協議会およびサブワーキンググループを設置し、引き続き診療連携体制の構築について検討を行っている。また、事業効果の検証として、広島大学病院において指標に基づくてんかん患者調査を継続して行っている。
- 研修・普及啓発活動では、教育関係者向け研修会（特別支援学校教職員向け）7 回、医療従事者向け研修会 1 回の計 8 回開催し、てんかん疾患の正しい知識や最新情報の伝達、てんかん診療の質の向上および啓発を図った。令和 5 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行したことにより、現地開催が主体となったが、オンライン併催のハイブリッド形式で開催したセミナーでは全国から参加者があり、広島県の活動を全国的に周知することができた。また、コロナ禍により中止となっていた J リーグサッカーチームのサンフレッチェ広島（チームカラーが紫）と広島大学病院てんかんセンターとのコラボレーション企画が 5 年ぶりに開催され、多くのサポーターにてんかんに対する理解をもってもらい、てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現を目指している。（コラボの様子は広島大学病院てんかんセンターホームページにて紹介している。）
- 本事業推進の方向性を分かりやすく周知するために「広島県モデル」を作成し実施している。このモデルの特徴は、広島県（行政）と医療機関（特にサブワーキンググループ医療機関（2 次診療））を体制構築のエンジンとして、患者を中心にこの両輪で多職種連携を回している点である。



- 広島県循環器病対策推進協議会における部会（広島県循環器病相談支援・情報提供推進部会）と協力し、脳卒中後遺症（主に脳卒中後てんかん）の患者支援をすすめるとともに、広島県循環器病（脳卒中・心血管疾患）情報サポートサイト HP に広島大学病院てんかんセンターの URL をリンクし本事業の案内を行っている。また R5. 11. 19 開催の広島市のてんかん市民フォーラムでは、特別企画として同部会会長の中国労災病院治療就労両立支援センターの豊田章宏先生から脳卒中後の社会復帰・就労について、さらに広島県健康福祉局健康づくり推進課の山下十喜課長から広島県の循環器病対策についての案内を行っており、今後は、本整備事業の担当課である、広島県健康福祉局医療介護基盤課と連携しながら疾患啓発をすすめていくこととしている。

1. 活動報告

1) てんかん治療医療連携協議会

てんかん治療医療連携協議会では事業計画の策定、事業効果の検証などを行っている。

委員数：16 名

構成：医師 5 名（広島大学病院医師 4 名，外部医師 1 名），医師会 1 名，歯科医師会 1 名，薬剤師会 1 名，てんかん患者 1 名，てんかん患者の家族 1 名，行政関係者 5 名，医療福祉大学関係者 1 名

開催回数：2 回（R6/5/8，WEB 併催，R7/3/26WEB 併催予

- 2) てんかん治療医療連携協議会サブワーキンググループ
サブワーキンググループでは WEB カンファレンスでの症例検討、連携体制の仕組作りの検討を行っている。

委員数：13 名

構 成：広島大学病院医師 4 名，2 次診療施設（全保健医療圏の中核となる医療機関）9 名

開催回数：2 回（R6/6/21 WEB 併催，R7/2/12 WEB 併催）



- 3) 遠隔てんかん症例検討会

広島大学病院てんかん症例検討会では，てんかんセンターの複数診療科の医師と看護部，薬剤部，診療支援部，および臨床研究開発支援センターなど組織横断的に人員が参加して，症例検討，治療方針の決定を行っている。

症例検討会は WEB 会議システム（Zoom）を利用して遠隔カンファレンスで行っており，サブワーキンググループ医療機関のみならず県内外の医療機関からの参加があり，広島大学病院との間で症例発表，検討を行うことで，てんかん診療のレベルアップとてんかん診療ネットワークの構築を図っている。

（R6/4 月～R7/2 月開催分）

参加人数：計 314 名（広島大学病院 143 名，サブWG 医療機関 108 名，その他医療機関 63 名）

症例提示数：28 症例

- 4) 研修会

- ① 教育関係者向け研修会

・てんかんを持つ児童の教育現場（特別支援学校）において，てんかん発作への適切な対応や最新治療法の情報共有を行うため，広島県内の特別支援学校にて研修会を開催した。

開催回数 7 回 参加人数：計 534 名

- ② 医療従事者向け研修会

・医師，臨床検査技師を対象とした「広島てんかん脳波セミナー（HEES）」を開催し，脳波判読技術のレベルアップとてんかん診断の質の向上を図った。

開催回数：1 回（LIVE 同時配信）参加人数：218 名（内来場 43 名 LIVE 視聴 175 名）

< 研修会開催一覧 >

教育関係者向け研修会				
開催日	研修会名	場所	研修内容	参加人数
R6. 7. 23	特別支援学校での研修講演学習会	広島県立呉南北特別支援学校	小児のてんかん～検査から診断・日常生活での留意点～	6 1 名
R6. 7. 24		広島県立三原特別支援学校	てんかんの分類と症状・発作対応について	4 4 名
R6. 7. 24		広島県立広島特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	1 2 2 名
R6. 7. 31		広島県立広島北特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	9 0 名
R6. 8. 21		広島県立黒瀬特別支援学校	てんかんに関する理解と支援～てんかん発作の見方・対応の仕方～	5 6 名
R6. 8. 26		広島県立廿日市特別支援学校	小児のてんかん～検査から診断・日常生活での留意点～	1 0 0 名
R6. 8. 27		広島県立呉特別支援学校	小児のてんかん～検査から診断・日常生活での留意点～	6 1 名
医療従事者向け研修会				
R6. 9. 21	広島てんかん脳波セミナー（HEES）	広島県医師会館	てんかん学の講義，脳波判読の基本	来場 43 名 LIVE 175 名

特別支援学校におけるてんかんセミナーアンケート調査（2024 年度）

【調査目的】

広島大学病院はてんかん地域診療連携体制整備事業の活動として、てんかんに関する正しい知識・理解の普及啓発を行うことを目的に、広島県内の特別支援学校教職員を対象としたてんかんセミナーを実施してきた。本事業開始の 2015 年度より今年度までに、広島県内ほぼ全ての特別支援学校においててんかんセミナーを実施、てんかん疾患の基礎知識、発作への適切な対応方法、最新治療法等を紹介している。また、2022 年度からアンケート調査でセミナー参加者の意見やニーズを把握しており、今年度も引き続きアンケート調査を実施した。

【調査方法】

広島県立特別支援学校 7 校において、2024 年 7 月 23 日～8 月 27 日までに実施したてんかんセミナー参加者（特別支援学校教職員）を対象に、別紙質問事項 1～12 について、オンラインまたは調査用紙を用いてアンケートを実施。

【調査結果】

セミナー参加者 534 名中、363 名から回答を得られ、集計・分析を行った。

	合計	呉南	三原	広島	広島北	黒瀬	廿日市	呉
参加人数	534	61	44	122	90	56	100	61
回答数	363	33	29	89	60	37	57	58
回答率	68%	54%	66%	73%	67%	66%	57%	95%

（質問 1）参加者の職業・・・養護教諭 2%、教諭 91%、管理職 3%、看護師 1%、その他（栄養教諭等） 3%

（質問 2）参加者の 62%はこれまでにてんかんセミナーを受講したことがある、38%は初めての受講

（質問 3）学校でてんかん患者の生徒に接する機会は、毎日 45%、時々 33%、ない 22%

（質問 4）参加者のうち約半数の 45%は学校でてんかん発作に出会って困ったことがある、24%は困ったことがない（対応できる）という回答。一方、3 割弱の 31%は学校でてんかん発作に出あったことがないという回答。

（質問 5）てんかん疾患についてどの程度知っているかは、よく知っている 2%、ある程度知っている 75%、よく知らない 23%

（質問 6）てんかんセミナーで学びたい内容は、多いものから順に、発作への対応方法 28%、てんかん疾患の基礎知識 15%、発作の種類 15%、抗てんかん薬について 14%、小児のてんかん 12%で、学校での発作対応や発作の種類、てんかん疾患の基本的な知識、抗てんかん薬について学びたいという回答

（質問 7）セミナー内容の分かりやすさについて、非常に分かりやすかった 41%、分かりやすかった 45%をあわせて 86%が分かりやすかったという回答であった

（質問 8）満足度は、大変満足 46%、満足 40%、普通 12%、あまり満足できなかった 1%であった。

（質問 9）今後もてんかんセミナーを受講したいかは、ぜひ受講したい 46%、機会があれば受講したい 53%、受講したくない 1%であった。

（質問 10）このようなセミナーが必要と思うかという質問に対して、363 名中 359 名が必要と回答しており、必要な理由は、多いものから順に、特別支援学校で働くうえで必要不可欠 17%、発作を起こした生徒に適切に対応する為 17%、基礎知識を知るため 14%、てんかんの生徒に接する機会があるため 13%、専門医から学べる機会だから 11%、最新の情報を知るため 10%、疾患理解につながる 9%、定期的に研修を受ける事で知識が定着できる 9%であった。

（質問 11）もしご自身や家族の方に、てんかんかもしれない症状があった場合にどうするかという質問では、約半数の 49%が地域かかりつけ医を受診、次いで、受診先をインターネットで探す 25%、まずは総合病院に受診 19%、受診せず経過をみる 3%、わからない 2%、その他 2%（救急車を呼ぶ、広島大学病院を受診等）

（質問 12）セミナーで最も勉強になった点は、発作種類・対応方法に関する回答が最も多く、次いで、発作症状や対応方法の動画、最新の治療薬について、疾患の基礎知識、治療法・手術についてが多かった。

（検討が必要と思われる意見・要望等）

普段からぼーっとして呼びかけに反応できない児童もいるので発作（欠伸発作等）が起きているかどうか判断が難しいときがある。

てんかんを持つ生徒の保護者理解が薄いなど感じることもある。

薬の飲み忘れについて、あまり危機感を感じていない保護者がいる。
研修会の前に事前に相談内容をアンケートに取って質疑応答の時間をもう少し増やしてほしい。

【考察】

てんかん患者の児童・生徒が多く在籍する特別支援学校では、日々てんかんを持つ児童・生徒に接する機会があるため、発作を起こした生徒に適切な対応ができるよう知識の習得が必要だと考える教職員が多く、最新の情報を得るため、知識の再確認をするために定期的にセミナーを受講したいという意見が多かった。また、参加者の約8割はてんかん疾患について、よく、またはある程度知っているという回答であったが、一方で約半数は学校でてんかん発作に出会って困ったことがあると回答しており、てんかん疾患の知識を持つ教職員は多いものの、実際に発作対応で困ったことがある教職員が多くいることが明らかになった。さらに、3割弱は学校で発作に出会ったことがないと回答しており、てんかんセミナーが必要だと思う理由からも、特別支援学校におけるてんかんセミナーの必要性・重要性は高いと考えられる。

セミナー内容の満足度は概ね高く、最も勉強になった点としては、学校現場で必要とされる発作時の対応方法や発作種類、最新の治療薬や治療法、基礎知識などが多く、特に発作症状や対応方法は、映像を見ることで言葉だけの説明よりイメージしやすく分かりやすかったという意見が多くあった。また、てんかんは誰もがなりうる疾患であることが勉強になったという回答もあり、てんかんへの正しい理解にもつながったと考えられる。

研修会内の質疑応答時間を増やしてほしいという要望もあり、学校側に事前に質問事項を提示してもらい、その質問に対して講師に回答してもらうよう今後検討したい。

【結論】

本調査結果から、今回のてんかんセミナーは、学校現場において必要とされる発作時の対応や発作種類など実践的な内容や最新の治療薬・治療法など最新の情報を紹介するとともに、疾患への正しい理解や啓発にもつながるセミナーであったことが示された。特別支援学校の教職員にとっててんかんセミナーの受講は必要不可欠であり、参加者の約半数は複数回の受講歴があり定期的にセミナーを受講する事で知識を定着させることの重要性も示された。本調査結果を参考に今後の研修会の充実を図りたい。

【2023年度との比較】

2023年時との比較では、各質問項目の比率には概ね変化はなかった。昨年度の比較（2022年度と2023年度との比較）では、質問10 セミナーの必要性、特にその理由についての項目の内、発作を起こした生徒に適切に対応するため、が低下し、逆に、特別支援学校で働く上で必要不可欠、とするもの、は上昇していた。今回の比較ではこれらの内訳の比率には大きな変化は認められなかった。発作時の対応や各支援学校におけるてんかん理解の重要性の認識が深まり、継続していることを反映していると思われるが、特筆すべきは、この質問10で、必要と認知されているのは経年的にほぼ100%となっており、すでに長年セミナーを行っているものの、今後の継続はやはり必要だということの再認識につながるものと考えられた。

5) 普及啓発活動

①市民フォーラムの開催

・広島市にて「第47回日本てんかん外科学会開催記念 てんかん市民フォーラム」と題して市民フォーラムを開催した。

(R6.6.23開催 来場100名)

本フォーラムは、令和6年2月1日～2月2日に開催された第47回日本てんかん外科学会開催記念として、てんかんへの理解を深め、最新の治療法を知ってもらい、患者さんが充実した日常生活を送るための情報を提供することを目的に開催された。

・広島市にて「市民フォーラム2024 てんかんを考える てんかんと診断されたら」と題して市民フォーラムを開催した。

(R6.12.15開催 来場141名)

本フォーラムでは、どの年代層でも起こりうるてんかんを発症してしまった場合にどうするか、小児期でのてんかんの特徴や治療、社会生活での注意事項（保育園は？小学校は？通学は？薬は？）について 大人の場合の社会生活での注意事項（就労は？運転は？手術は？）、福祉制度、最新の



技術についてなど、患者さんそれぞれのライフステージに合わせて解決すべき課題について講演した。

質疑応答時間も増やし、できるだけ多くの方からの質問に答えた。

- ・尾道市にて「市民フォーラム2025 てんかんを考えるin尾道」と題して市民フォーラムを開催予定。(R7. 3. 2)

本フォーラムは広島市にて開催された(R6. 12. 15 開催)市民フォーラムの内容を2次医療圏尾道市でも開催する予定である。

携協議会およびサブワーキンググループの際に資料として提示し、今後の活動の参考としている。

開催回数：広島市2回(R6/6/23、12/15) 来場参加人数計：241名
開催回数：尾道市1回(R7/3/2 開催予定)

②J1 リーグサンフレッチェ広島とのコラボレーション

活啓発動として、コロナ渦で中止となつて以来、5年ぶりとなつててんかん疾患啓発活動第8弾を開催した。紫をチームカラーとするサンフレッチェ広島と広島大学病院(てんかんセンター)がコラボレーションし、世界的な啓発の日「パープルデー」(3月26日)に近い日程で開催をしてきたが、サンフレッチェ広島の新スタジアム開業に伴い、12月の開催となった。

サンフレッチェ広島のマスコットをあしらった缶バッジ3000個、てんかん疾患を説明するチラシ3000部を、医療関係者やてんかん協議会メンバー等60名余りの参加者に配布していただいた。

サンフレッチェ広島と広島大学病院(広島県がてんかん支援拠点病院に指定)がコラボレーションすることで多くのサポーターにてんかんに対する正しい理解をもってもらい、てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現を目指している。

※紫は世界的なてんかん疾患啓発活動である「パープルデー(Purple Day)」のイメージカラーで、ラベンダーのパープル(紫)がてんかんの国際的イメージであったことからパープルデーと名付けられている。

6) 事業の効果の検証(てんかん患者調査)

【目的】地域のかかりつけ医(一次診療)から、専門医(二次診療)、地域診療において中核を担う三次診療施設の三者が連携し、患者が適切なてんかん診療を受けられるよう「てんかん診療ネットワーク」の構築を目的として、広島大学病院において患者調査を実施し、診療状況、患者の受診のながれの把握・分析を行った。

【調査対象期間】

2015年(平成27年)12月~2024年(令和6年)12月初診分(9年1ヶ月)

【調査対象患者】

てんかん病名(ICD10コード:G40、G41)がついた初診患者

*抗てんかん薬予防的投与は対象外

【調査方法】

事業評価の指標の項目について、広島大学病院において診療録を調査し集計を行った。

【調査患者数】 2,669人

【調査結果】

(1) 初診目的について

広島大学病院を受診する患者の初診目的は、てんかん診断42%、薬物調整28%、難治性6%、手術目的7%、症候性3%と、てんかん診断目的で紹介される患者が最も多かった。



（２）治療期間について

広島大学病院での治療を経て当院から他の医療機関へつないだ（紹介した）が割合が 49%で最も多く、次いで治療終了（てんかん診断にいたらず）19%、薬物調整等を行い治療中（主たる病院）18%であった。他院へつないだ（紹介した）医療機関は、紹介元へ返した場合が 46%、紹介元以外の医療機関へ紹介した場合が 54%であった。

また、他院へつないだ（紹介した）医療機関を一次・二次診療別でみると、一次診療が 51%、サブ WG（二次診療）が 23%、二次診療が 7%、その他県外の医療機関への紹介が 19%であった。

（３）てんかんセンターへの相談について（※てんかん診療支援コーディネーターが受けた相談含む）
てんかんセンターへの相談は 1,556 件あった。

相談方法としては訪問 6%、電話による相談 9%、地域連携室経由で他の医療機関からの紹介（FAX）が 84%であった。相談への対応としては、受診した場合が 78%、広島大学病院では予約が取れないため他院へ紹介し受診につなげた場合が 9%、相談のみで受診につながらなかった場合が 9%であった。

（４）紹介元医療機関について

広島大学病院への患者の紹介元医療機関を県別でみると、広島県内からの紹介が 60%、広島県を除く中国・四国地方からの紹介が 11%、中国・四国地方以外からの紹介が 5%であった。

また、一次・二次診療別では、一次診療からの紹介が 41%、サブWG（二次診療）からの紹介が 28%、サブWG以外の二次診療からの紹介が 10%であった。

（５）広島大学病院での開始 3 ヶ月と直近 3 カ月の調査結果の比較について

開始 3 ヶ月：2015 年（平成 27 年）12 月 1 日～2016 年（平成 28 年）2 月 29 日 83 人

直近 3 ヶ月：2024 年（令和 6 年）10 月 1 日～2024 年（令和 6 年）12 月 31 日 75 人

初診目的で、薬物調整の割合が 4%から 12%へ増加した。

治療期間別で、他の医療機関へつないだ（紹介した）割合が 8%から 28%へ増加、主たる病院として治療中の割合が 77%から 47%に減少、従たる病院として治療中の割合が 9%から 12%へ増加した。（※従たる病院とは、紹介元で薬物調整を行い広島大学病院へは定期的に通院している状況）

【考察】

本調査の結果から、広島大学病院での初診目的では「てんかん診断」の割合が最も多いが、開始 3 か月と直近 3 ヶ月のデータを比較すると、広島大学病院を受診する初診目的では「薬物調整」の割合が増加、また、広島大学病院から他の医療機関へつないだ割合が増加していることから、広島大学病院がてんかん診療拠点としての役割を担い、広島大学病院での治療を経て紹介元や他院へ紹介し日常の治療はかかりつけ医で行い、広島大学病院（三次診療）では定期的にフォローし、患者に適切な診療を提供するてんかん診療ネットワークの構築が進んでいると考えられる。一方、三次診療施設としての役割りである、てんかん外科（手術）目的の患者割合の増加は乏しく、難治例の紹介とあわせてもあきらかな増加は認められていないことから、てんかんセンターとして三次診療施設の役割りに特化していくという方向性は、現時点では行えていない。

今後の課題としては、広島大学病院への紹介では一次診療からの紹介が多く、初診目的でも「てんかん診断」の割合がまだ高いという現状がある。前述のように三次施設への特化ではなく、広島大学病院は二次診療の役割も分担していると言えるため、引き続き、二次診療施設への普及啓発継続と、一次診療施設への連携拡大、更なる診療ネットワークの構築が必要と考えられる。

26. 令和6年度山口県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

山口県立総合医療センター
てんかんセンター長 藤井 正美

1. 概要

山口県立総合医療センターは、総病床数は504床であり、一般病床490床と感染症病床14床（感染症センター）から成る。

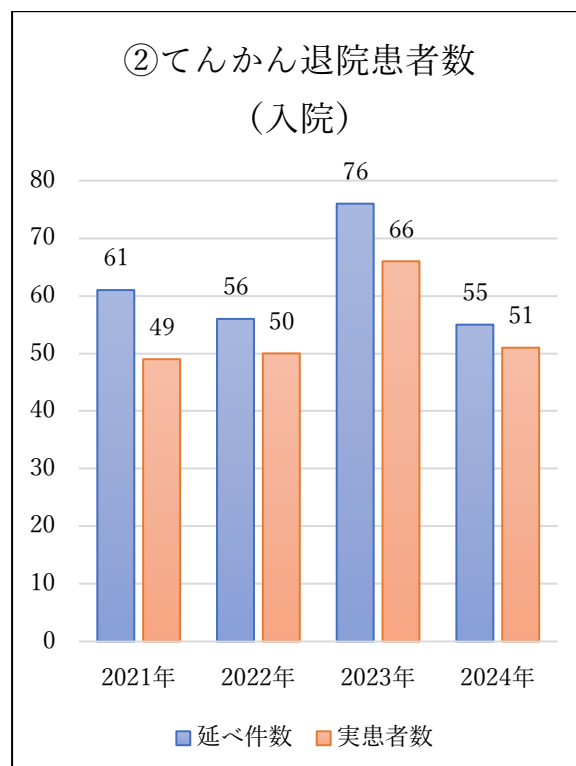
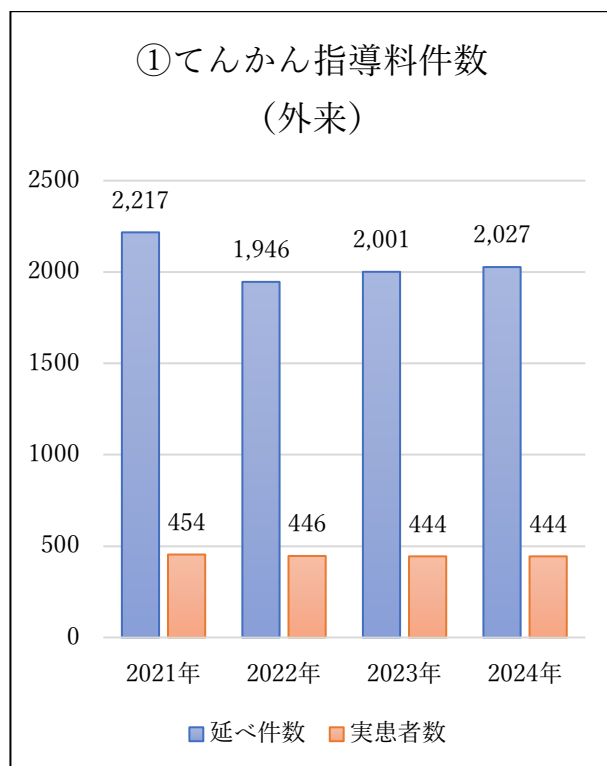
(1) 当院のてんかん診療

当院のみでは全てのてんかん患者さんに対応することはできないため、病院内関連科、大学病院及び県内のてんかん診療を行なっている医療機関との連携体制を強化し、てんかんの地域医療及び先進的研究の発展に寄与する。

- ・長期継続ビデオ脳波同時記録（病室2室）
- ・高密度脳波検査（256ch 脳波）
- ・ICU 持続脳波モニタリング検査、およびNICU amplitude integrated EEG（新生児科）
- ・半導体 PET/CT（難治性部分てんかんで外科切除が必要とされる症例に使用）
- ・妊娠可能な女性のてんかん患者カウンセリング（総合周産期母子医療センター）
- ・外科治療（側頭葉切除術、焦点皮質切除術、脳梁離断術、SEEG、硬膜下電極、VNS、DBS 等）

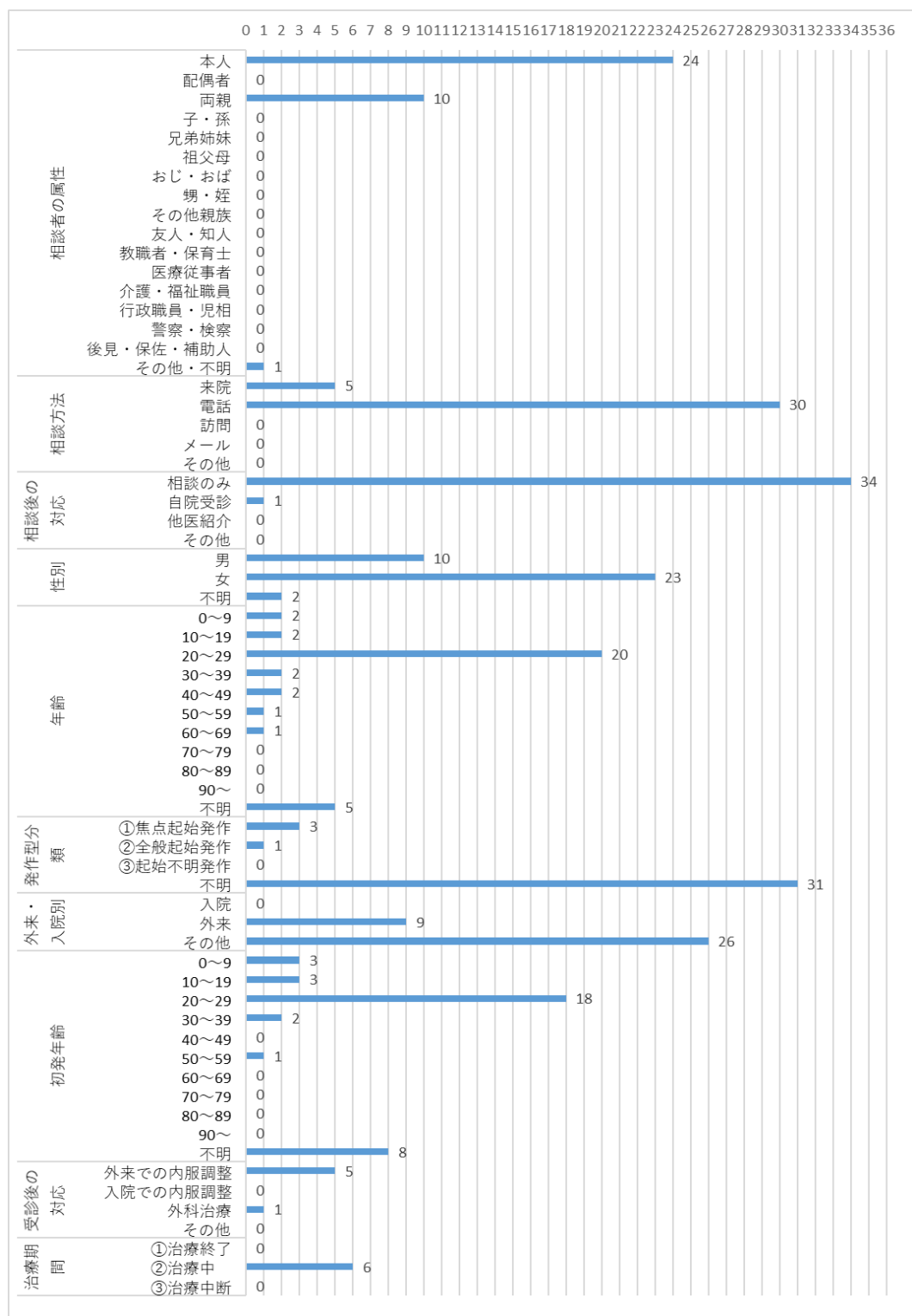
(2) 実績報告

- ・集計データは令和6年4月1日～令和7年1月31日分である。
- ・1月末時点での実患者数推移について、外来は横ばい、入院はやや減少している。



(3) てんかん相談について

- ・集計データは令和6年4月1日～令和7年1月31日分である。
- ・相談件数は35件だが、うち17件は同一の患者であるため、数値に偏りがある。



(4) てんかん症例検討会について

・第5回より院外へ開催案内を配布、ただし配布方法、配布地域は継続検討中。

※第5回は山口県臨床検査技師会山口支部（山口・防府）のみ配布（院外参加者なし）

日時	内容	参加者
令和6年 5月13日	第1回てんかん症例検討会 ・症例1 PNES ・症例2 全般てんかん	脳神経外科・脳神経内科 6名 臨床検査技師：7名 MSW：1名
令和6年	第2回てんかん症例検討会	脳神経外科・脳神経内科 4名

7月8日	・症例1 全般てんかん ・症例2 焦点てんかん	臨床検査技師：5名
令和6年 9月2日	第3回てんかん症例検討会 ・てんかんに関する情報提供 ・症例1 焦点てんかん（右側頭葉てんかん） ・症例2 焦点てんかん（左側頭葉てんかん）	脳神経外科・脳神経内科6名 臨床検査技師：7名
令和6年 11月11日	第4回てんかん症例検討会 ・症例1 PNES ・症例2 PNES/てんかん合併	脳神経外科・脳神経内科5名 臨床検査技師：6名
令和7年 1月20日	第5回てんかん症例検討会 ・症例1 焦点てんかん（左側頭葉てんかん） ・症例2 焦点てんかん（左前頭葉てんかん）	脳神経外科・脳神経内科4名 臨床検査技師：7名
令和7年 3月3日	第6回てんかん症例検討会 ・2症例提示予定	

2. 活動状況

(1) 県民公開講座、てんかん診療医療従事者セミナーを開催

令和6年9月28日(土)、東北大学大学院医学系研究科、てんかん学分野教授の中里信和先生をお迎えし、てんかんをテーマとする『県民公開講座』及び『医療従事者セミナー』を開催した。

ハイブリッド開催 集合型:事前申込必要/定員30名

山口県立総合医療センター 県民公開講座

「てんかん」の正しい理解が社会を動かす。

9.28土

会場 ▶ **山口県立総合医療センター**
開催時間 **14:00-15:15** 受講料**無料**
●開場 13:30

基調講演 14:00-14:15
座長 山口県立総合医療センター 福迫 俊弘
てんかん支援拠点病院における診療の現状
山口県立総合医療センター 長網 敏和
てんかんセンター長(脳神経外科)

特別講演 14:15-15:15
座長 山口県立総合医療センター 藤井 正美
知って安心、てんかんと就労
東北大学大学院医学系研究科 中里 信和
てんかん学分野 教授

受講方法は従来の「集合型」と「YouTubeライブ配信」の2種類です。申込み方法など詳しくは裏面をご覧ください。

集合型 定員**30**名(先着順) ※事前申込必要 **YouTubeライブ配信** 定員**なし** ※事前申込不要

地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立総合医療センター 事務局 〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地 総務課 TEL 0835-22-4411 <https://www.ymghp.jp>

後援/山口県、防府市、山口県医師会、山口県薬剤師会、防府医師会、防府薬剤師会

てんかん診療医療従事者セミナー

2024年9月28日(土)

プログラム

16:00～17:00
「てんかん症例傑作選～入院しなきゃわからない～」
東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野教授
中里 信和 先生

17:00～17:15
「てんかんセンターにおける検査部の取り組み」
山口県立総合医療センター中央検査部
佐々木 宏典 技師

てんかん診療に興味がある医療従事者の方はどなたでも参加できます

【開催場所】〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
山口県立総合医療センター2階大会議室・オンライン (ZOOM)

参加費 無料

【申込方法】Eメールに以下の項目をご記入の上、お申込みをお願いします。
①医療機関名・部署名 ②氏名 ③職種
④参加方法の別 (現地参加・オンライン参加)

【申込先】地域医療連携室：石崎 ishizaki.takahiro@ymghp.jp

てんかん支援拠点病院：山口県立総合医療センター

YouTube

**山口県立総合医療センター県民公開講座
9月28日(土)14:00～配信**

「てんかん」の正しい理解が社会を動かす。

1:27:41

知って安心、てんかんと就労
313 回視聴・9 日前に配信済み

山口県立総合医療センター

2024年9月28日(土) 14:00～15:15に以下の内容でライブ配信を行います。

2 個のパート 【基調講演】・【特別講演】

県民公開講座は現地参加を30名の定員制としており、当日は11名が参加された。YouTube ライブ配信での参加は85名であった。その後、アーカイブでの視聴は450回となっている。

医療従事者セミナーは郡市医師会経由で県内全域の医療機関に広報を行った。参加者は42名（昨年度27名）で、うち37名（同17名）がZOOMでの参加であった。職種別では医師：10名、看護師：5名、薬剤師：9名、臨床検査技師：13名、作業療法士：3名、事務職員：2名であった。

(2) 山口県内における広報・連絡体制の強化

昨年度は山口・防府・吉南の3医師会経由で広報を行ったが、本年度は山口県医師会及び19の郡市医師会を通じて、県内全域の医療機関にEメールで広報する体制を整えた。

医療従事者セミナーの広報については、前述の医師会経由での広報に加え、次の職能団体へも広報を行っている。

（山口県薬剤師会、山口県看護協会、山口県理学療法士会、山口県作業療法士会、山口県言語聴覚士会、山口県精神保健福祉士協会、山口県医療ソーシャルワーカー協会）

(3) てんかん診療に関する医療機関対象のアンケート

本県における、てんかん診療体制の地域偏在対策や、小児期から成人期への移行医療（トランジション）の問題等の把握のため、てんかん診療が可能な医療機関等のアンケート調査を実施した。県内19医師会のメンバーリストを作成のうえ、所属する1,120の医療機関に依頼し、49医療機関から回答があった。

診療可能な医療機関の情報は一覧表に集約し、当院ホームページ上で公開を行う。

(4) 移行期医療に係る実態調査

山口県てんかん治療医療連携協議会の委員に対し、アンケートを実施した。13名の委員から回答があり、小児科医師からは“移行期医療がうまくいっていない”、“紹介先が分からない”、成人科（小児科以外）医師からは“移行期医療がうまくいっている”、“小児科から依頼があればお受けしている”と現状に差異があることが判明した。

(5) 全国てんかん対策連絡協議会

7月21日開催の『2024年度第1回全国てんかん対策連絡協議会』に、当院てんかんセンター長が出席し、実績報告を行った。

(6) 当院における医療従事者の研修援助

てんかんに携わる当院職員の質向上のため、下記研修等に参加した。また、専門的、かつ先進的な取り組みを行っている医療機関見学のため職員を派遣した。

日程	参加者	研修内容
令和6年7月21日	看護師1名 社会福祉士3名 精神保健福祉士1名	てんかん診療支援コーディネーター研修
令和6年7月4日～5日	看護師2名	静岡てんかん・神経医療センターを見学
令和6年9月12日～14日	臨床検査技師3名	日本てんかん学会学術集会
令和6年10月24日～26日	医師1名 臨床検査技師1名	日本臨床神経生理学会学術大会
令和6年12月6日～10日	医師2名	全米てんかん学会
令和6年12月22日	看護師1名 社会福祉士3名 精神保健福祉士1名	てんかん診療支援コーディネーター研修
令和7年2月6日～7日	医師2名	日本てんかん外科学会
令和7年3月22日～23日	医師2名 看護師2名 臨床検査技師2名 社会福祉士2名	全国てんかんセンター協議会総会

27. 徳島県てんかん地域診療連携体制整備事業

徳島大学病院 てんかんセンター 森 健治

まとめ

- ・ 今年度、オンラインの利便性も考慮して、就労関係施設への講座、脳波セミナーをこれまでと同様にオンラインで開催した。一方で、教育セミナーは現地とweb併用のハイブリッド開催で、学校および精神科病院への出張講座は現地のみで開催を行った。
- ・ 県民、市民への公開講座はてんかんセンターホームページで常時動画を公開している。また、てんかん啓発ビデオを作成した。
- ・ てんかん支援拠点病院の機能強化の継続および、県内のてんかん診療の底上げを目指し、これまでの活動を継続する。
- ・ 今後は県下の看護師、MSW、検査技師、ハローワークなどより多職種との連携を構築していく。
- ・ 自立支援制度が条件つきで2医療機関へ適応が拡大され、診療連携に活用できる。
- ・ 災害時の抗てんかん薬備蓄に関してはレベチラセタム点滴静注製剤が追加された。さらにバルプロ酸シロップの追加が望ましいと考えられる。

概要

今年度、オンラインの利便性も考慮して、就労関係施設への講座、市民公開講座、脳波セミナーをこれまでと同様にオンラインで開催した。一方で、教育セミナーは現地とweb併用のハイブリッド開催で、学校および精神科病院への出張講座は現地のみで開催を行った。今後は現地での開催を多くしたい。

昨年までと同様に、本事業では(1)てんかん診療機関・福祉保健のレベル向上、(2)てんかん地域診療連携の構築、(3)てんかんに関する啓発活動の充実、(4)相談および指導体制の向上、(5)てんかんに対する精神症状への対応、(6)小児科から成人科医療への移行（トランジション）に関する対応、(7)災害への対策整備の7つの目標を設定し、活動を継続する。これまでの活動内容を報告し、2025年の徳島県てんかん地域診療連携体制整備事業を策定する。

てんかんセンター診療実績

新患数は2020年138人（小児25人、成人113人）、2021年162人（小児34人、成人128人）、2022年162人（小児35人、成人127人）、2023年159人（小児31人、成人128人）、2024年148人（小児18人、成人130人）であった。逆紹介数が2020年は19人（小児7人、成人2人）、2021年は26人（小児3人、成人23人）、2022年は17人（小児1人、成人17人）、2023年22人（小児0人、成人22人）、2024年11人（小児0人、成人11人）と横ばいにある。

ビデオ脳波モニタリングは2020年は58件（小児31件、成人27件）、2021年は73件（小児40件、成人33件）、2022年は65件（小児22件、成人43件）、2023年は67件（小児20件、成人47件）、2024年は83件（小児22件、成人61件）であった。

外来脳波件数は2020年は1189件（小児652件、成人537件）、2021年1352件（小児796件、成人科556件）、2022年1371件（小児726件、成人科645件）、2023年1197件（小児587件、成人科610件）、2024年1142件（小児534件、成人608件）とこの5年間はほぼ同じである。手術件数は2020年14件、2021年18件、2022年21件、2023年25件、2024年26件とやや増えている。てんかん相談件数は2020年195件、2021年173件、2022年165件、2023年169件、2024年159件。トランジションの症例は、2020年6人、2021年22人、2022年17件、2023年9件、2024年7件であった。てんかん発作が一定期間抑制された症例に関する連携体制、小児科から成人科への移行に関する連携体制が必要である。

また、セカンドオピニオンが2022年に1件（成人科1件）あった。遠隔連携診療は2022年1件、2023年6件、2024年3件であった。

2024年3月2日～3月3日の日程であわぎんホールで全国てんかんセンター協議会総会を開催し、最終日にはてんかん市民公開講座を行った。

1. てんかん診療機関・福祉保健の向上を目的とした活動内容と計画

本事業により、医師、学校関係、産業医などへの教育、研修活動が定期的に行われている。今後は徳島県下の看護師、MSW、ハローワーク、救急隊などより多職種に対する教育、研修活動を拡大させる。

これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2020年 9月4日	第2回徳島てんかん教育セミナー	Web配信	小児のてんかんの特徴と治療辺境地域におけるてんかん診療連携の取組み	50名
2021年 6月6日	第4回徳島脳波セミナー	Web配信	脳波の温故知新	52名
2021年 9月3日	第3回徳島教育セミナー	徳島大学病院 日 垂 メディカル ホール+Web配信	てんかんの若年への支援～進学や成長期に向けて～睡眠てんかん学の臨床	20名
2022年 10月5日	第4回徳島てんかん教育セミナー	徳島大学病院 日 垂 メディカル ホール+Web配信	自動車運転とてんかん診療 ～地方における診療の立場から ～高齢者てんかんの診断と治療	25名
2022年 7月10日	第5回徳島脳波セミナー	Web配信	小児の長時間ビデオ脳波モニタリングのコツ、薬物治療について	50名
2023年 7月16日	第6回脳波セミナー	Web配信	てんかんと精神症状	35名
2023年 9月20日	第5回徳島てんかん教育セミナー	徳島大学大塚講 堂2階小ホール + Web配信	妊娠適齢期のてんかん診療 実臨床でのペランパネル使用経験と SEEG 導入後のてんかん外科	20名
2024年 7月7日	第7回脳波セミナー	Web配信	脳波を信じて、脳波を信じない	59名
2024年 11月28日	第6回徳島てんかん教育セミナー	徳島大学病院日 垂 メディカルホ ール + Web配信	てんかん診療における遺伝学的検査 脳波所見から考えるてんかん・神経発達症 の行動異常～QOL 向上を見据えた小児てん かん治療戦略～	50名

(1) 診療施設のスキルアップ

- ・徳島大学病院てんかんセンター、二次診療施設、一次診療施設のてんかん診療に関するスキルアップを目指す
- ・徳島大学病院てんかんセンターは全国のてんかんセンターと連携し、てんかんセンター診療の質を向上に努める。
- ・てんかんセンターにおける症例検討会(1回/月開催)、てんかんに関する看護師研修会を定期的かつ継続的に行う。脳波セミナーおよび教育セミナーを継続する。
- ・多職種連携によって、生活の質を全般的に改善することが可能な体制作りを試みる。

(2) 教育関係者に対するてんかん講習会

- ・てんかん発作時の対応、日常生活指導
- ・特別支援学校の教員等や学校医等
- ・今後も継続して学校関連施設での講演会を行う。

これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2020年 2月19日	徳島県高等学校教育研究会養 護学会研究会	あわぎんホール		57名
2021年 3月10日	板野支援学校 出張講座	Web配信	てんかんがあっても安心した 学校生活を	23名
2021年7月 29日	鳴門教育大学附属支援学校 出張講座	Web配信	てんかんの診断から外科的治 療まで 小児のてんかんと学校での生 活の注意点	25名
2022年 8月24日	「令和4年度第2回特別支援学 校医療医的ケア担当者研修会」 および「令和4年度公立学校に	Web配信	こどものてんかん診療 ～学校での生活～	133名

	おける医療的ケア担当者研修会」			
2023年8月9日	板野支援学校 出張講座	板野支援学校	小児てんかん 発作時の対応や学校生活も含めて	46名
2024年2月21日	てんかん出張講座（鴨島東こども園、鴨島呉郷保育所、高越こども園、子育て支援課）	吉野川市役所	小児てんかん 発作時の対応やこども園での生活も含めて	43名
2024年4月5日	てんかんセンター出張講座（加茂名小学校）	加茂名小学校	小児てんかん 発作時の対応や学校での生活も含めて	13名

(3) 就労関連施設に対するてんかん講習会

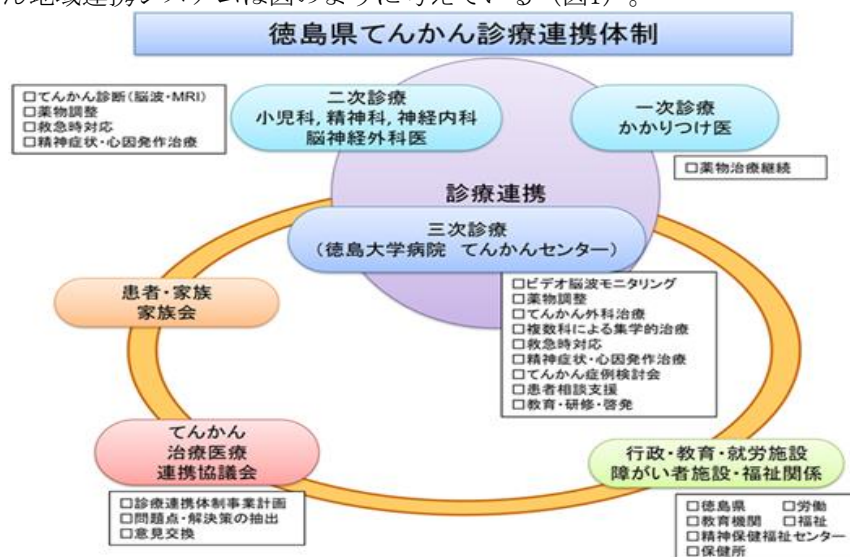
- ・今後も継続して就労関連施設との講習会を開催する。サポートステーションとの連携や事例検討会を行う

これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2020年7月9日	産業医研修	徳島産業保健総合支援センター	てんかん患者さんが安心して仕事ができるように	36名
2020年12月16日	治療と仕事の両立支援勉強会	徳島産業保健総合支援センター	治療と仕事の両立支援勉強会	7名
2021年8月4日	産業保健関係者研修セミナー	徳島産業保健総合支援センター	てんかん患者さんが安心して仕事ができるように	7名
2021年11月25日	産業医研修	徳島産業保健総合支援センター	てんかん患者さんが安心して仕事ができるように	
2022年6月21日	ハローワーク出張講座	Web配信	てんかんってどんな病気～てんかん患者さんが安心して仕事ができるように～	21名
2023年3月13日	とくしま地域若者サポートステーション出張講座	Web配信	てんかんってどんな病気～てんかん患者さんが安心して仕事ができるように～	6名
2023年9月25日	てんかんセンター出張講座	ふらっとKOKUFU + Web配信	徳島大学病院てんかんセンターの活動とてんかん外科の紹介	38名
2024年9月10日	徳島地域若者サポートステーション出張講座	Web配信	てんかんってどんな病気～てんかん患者さんが安心して働くために～	4名

2. てんかん診療連携構築を目的とした活動内容と計画

徳島県のてんかん地域連携システムは図のように考えている（図1）。



徳島県の目指すてんかん地域連携システム（図1）

てんかんに関する診療連携を軸に患者さん・家族会、行政・教育・就労施設・障害者施設・福祉施設が顔の見える連携が徐々に構築されている。定期的に徳島てんかん診療ネットワーク研究会、てんかん治療医療連絡協議会が開催され、緊急カードなどのツールを作成している。
 今後は就労に関する相談施設のアクセスポイントを明示することを計画中である。

(1) 徳島てんかん診療ネットワーク研究会はオンラインで開催した。

これまでの活動（過去5年間）

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2021年 11月6日	第3回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	てんかん診療コーディネーターの役割 てんかんと就労	28名
2022年 9月11日	第4回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	当院における高齢者てんかんの治療経験 徳島県てんかん地域診療連携体制整備事業で何が変わったか？ てんかん地域診療連携における課題と展望	29名
2023年 12月23日	第5回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	てんかんを持つ子を支える-小児科医としてできること- 当院におけるてんかん診療コーディネーターの役割 徳島県医療的ケア児等支援センターについて 小児期てんかんの薬物治療	40名
2025年 2月22日	第6回徳島てんかん診療ネットワーク研究会	Web配信	てんかんに併存する神経発達症や行動障害の診療 当院におけるてんかん診療コーディネーターの役割 神経発達症や行動障害を評価するときに役立つ心理検査 てんかん診療連携と精神科医の役割	

(2) てんかん治療医療連携協議会の設置

第6回てんかん治療医療連携協議会をwebおよび現地でのハイブリッド開催を行った（2023年3月15日）。

てんかん診療に関わる問題点の抽出及び事業計画の策定を行った。これまで通り、開催頻度は1回/年で予定している。

(3) オンライン診療の導入

てんかんの疑いがある患者さんが主治医と同席し、オンラインでてんかん専門医の診察を受ける「Doctor to Patient with Doctor」（保険診療）、とてんかんと診断されている患者さんに対するオンラインセカンドオピニオン外来（自由診療）を行っている。てんかん専門医の偏在化に対するてんかん医療の均てん化に有効である可能性が考えられる。これまでに10例で遠隔連携診療が実施された。

(4) 自立支援制度が2医療機関へ適応が拡大された

各病院に年間3回以上受診する必要があるが、これまでの1医療機関から2医療機関へ適応が拡大された。

3. てんかんに関する啓発活動と計画

今後も啓発活動を継続する。

また、患者さん、家族、医療従事者向けパンフレットを作成している。これまでに「てんかんとは」「てんかん発作の分類」「てんかん発作時の対応・介助について」「小児のてんかん」「高齢者てんかん」「認知症とてんかん」「てんかんと精神症状」「てんかん患者さんが利用できる福祉制度」「てんかんの外科治療」「てんかん患者さんの学校での生活」「てんかんと災害」について作成し、ホームページからPDFとしてダウンロードが可能である。

2023年3月24日よりてんかんセンターのホームページで常時公開講座のビデオを公開している。てんかんに関する啓発ビデオを作成し（図2）、市民公開講座ではコンサートも実施した。2025年3月2日には当事者である加納塩梅様にご講演を依頼している。



図2

てんかんのある人が安心して生活するために

徳島県てんかん地域診療連携体制整備事業
令和6年度 県民公開講座

日 時 令和7年3月2日(日) 13:00～16:20 会場 12:30
(個別相談 16:20～17:20)

開催方式 ハイブリッド方式(会場 および Live配信)
会場 徳島大学大塚講堂(徳島市蔵本町3丁目18-15) 参加費無料

講座

第1部 13:00～14:10 (開会の挨拶) 森 健治 (徳島大学病院てんかんセンター長)

てんかん啓発ビデオメッセージ 福富 弥生 (シンガーソングライター)

『日々進歩するてんかんの診断と治療』
多田 忠曜 (徳島大学病院てんかんセンター副センター長・脳神経外科 講師)

『利用できる制度・社会資源について』
福田 直也 (徳島大学病院てんかんセンター・患者支援センター ツインk7-8)

第2部 14:20～16:20

創作講話『病気だって友だち』
講 演『当事者が変われば社会が変わる』
加納 瑞穂 (講話者講師・日本てんかん協会千葉支部事務局長・医療法人財団緑雲会 多摩病院 看護部長)

(開会の挨拶) 和泉 唯信 (徳島大学病院脳神経内科教授)

個別相談 16:20～17:20
医師、ソーシャルワーカー、総合医を受けた経験のあるてんかん患者さんによる個別相談会実施(疾患や制度に関すること、手術を受けるべきか迷っている方など一対一相談いただくことができます。申込は当日受付にて行います。)

申込方法
を記の二次元コードよりお申込ください。
申込月 2月21日(金)
※WEB申込が難しい方は下記までご連絡ください。
※WEBの方は2/27までに入室用URLを送付します。

主権: 徳島大学病院てんかんセンター TEL 089-633-9546 FAX 0120-325-979
後援: 日本てんかん協会徳島支部、徳島県医師会(学友)

アクセス
会場は立休駐車場(P1)をご利用ください。駐車場料金を準備しておりますので、受付で申し込めます。

図3

これまでの活動

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2021年 3月4-22日	てんかん市民公開講座2021	ケーブルテレビで8回放送	てんかんを学ぼう！ ～みんなで支えよう～	8回放送
2022年 1月30日	てんかん市民公開講座2022	徳島大学病院 日垂メディカルホール＋ ケーブルテレビ放送	てんかんを学ぼう！ ～みんなで支えよう～	会場 17 名 ＋7回放送
2023年 3月24日～	令和4年度てんかん県民公開講座	徳島大学病院てんかんセンターホームページにて公開	てんかんを学ぼう！ ～みんなで支えよう～	429 回再生 (2024/2/7 時点)
2024年 3月3日	てんかん市民公開講座	あわぎんホール	～みんなで応援しよう！！てんかん支援の輪	149 名
2025年 3月2日	令和6年度 県民公開講座	徳島大学大塚講堂	てんかんのある人が安心して生活するために	

4. てんかん患者と家族に対する相談および指導体制の向上を目的とした活動と計画

ほとんどのてんかん発作は2分以内に収まるにもかかわらず、生活の質は大きく障害されていることが知られている。複数の要因が考えられるが、就学、就職、結婚など長期的な幸福に関わる状況にも病気が影響し、充実した社会生活を送ることを阻んでいる。てんかん患者が安心した社会生活を営むためには、診断や治療のみならず、精神障害者福祉制度の利用、就労支援、自動車運転に関する指導などの多くの視点から長期的でかつ多面的な支援が必要である。個人がその生活の中で主体的に回復することを支えるような地域を含めた包括的支援体制を構築することが望ましい。そのような支援体制構築のため、当院にはてんかん診療支援コーディネーターが配置されており、現在認定資格を持つてんかん診療支援コーディネーターが3名在籍している。しかし、今後徳島県下全体のてんかん患者や家族に対する相談体制の向上を考えると、様々な医療機関や関係機関にてんかん診療支援コーディネーターが在籍している状況が望ましく、今後研修等の広報を積極的に行っていききたい。

また、てんかんもしくはてんかん疑いと診断され運転免許取り消しとなった患者が通勤や通院等で移動手段に悩むことは少なくない。車の運転は徳島県民の生活に欠かせないものである。現在、当院てんかんセンター外来患者を対象に運転免許に関するアンケートを実施しており、免許取り消しによりどのように生活に影響を及ぼしたかを調査している。今後アンケート結果は行政機関へ公表し、公共交通機関利用の制度拡充や近年普及し始めているオンデマンドバス等の導入を働きかけたい。

今年度も引き続き医療機関や地域の支援機関等で教育セミナーや出張講座などを開催し、てんかん患者

が過ごしやすい地域となるよう積極的にてんかん啓発活動をおこないたい。

5. てんかん患者の精神症状に対する対応・活動と計画

てんかん患者の40%に何らかの精神症状が合併する。てんかんセンターでは、診療の専門性を高めるための医療体制を構築するとともに、このような専門性をまたぐような事態にも対応していく指命がある。

徳島大学病院内の病診連携においては、精神科医によるてんかん専門外来、てんかん外科手術症例の術前後の精神症状評価、てんかん症例検討会への参加をおこなっている。これまでの連携の成果として、当院精神科神経科にてんかん専門医が生まれた。徳島県内の精神科医としては唯一のてんかん専門医であるが、精神科神経科でのてんかん診療の水準を保ち、若手精神科医がてんかん専門医を目指す基盤が整ってきた。引き続き、精神科医のてんかん専門医の育成をおこないたい。

また、地域医療における病診連携では、包括的な支援者の一員として指命を全うしたい。医療施設、授産施設、生活支援、訪問看護ステーションなどの多施設と連携し、てんかん発作の消失に加えて、生活の質の改善を達成できるような全人的な支援に精神科の専門性から貢献したい。

本事業計画では以下の取り組みを挙げている。

- ・てんかん患者の生活支援を可能にするような多施設連携
- ・てんかん患者の精神症状の啓発
(市民公開講座、てんかん診療連絡協議会)

本事業計画も年を重ねる毎に、院内連携の経験が蓄積し、多施設連携を行っている症例も増えている。施設を超えた支援者同士の交流を促進する目的で、2023年度から地域の精神科病院での出張講座をおこなっている。活発な意見交換が、実際の患者のQOL向上に繋がっており、診察室以外での治療や支援の重要性を痛感した。次年度も継続したい。また、支援につながらないてんかん患者は患者自身が精神症状を自覚していない可能性がある。引き続き、啓発活動を継続したい。

啓発と連携の好循環が続くよう、関係諸機関のご理解とご協力を賜りながら、本事業計画を推進したい
これまでの活動

開催日	会の名称	場所	内容	参加人数
2023年 8月30日	てんかんセンタ ー出張講座	Taoka こころの医 療センター	徳島大学病院てんかんセンターの活動とて んかん外科の紹介 てんかんと心のケア	50名
2024月 7月31日	てんかんセンタ ー出張講座	むつみホスピタル	てんかん診療の基本から最新治療まで～多 職種連携の必要性～ てんかんと心のケア	32名

6. 小児科から成人科医療への移行（トランジション）に関する対応・活動と計画

小児期発症のてんかんのうち、60-70%で寛解を得られるが、一部は成人期へ移行後も発作が持続し、約20%で生涯発作が持続するとされる。このため、小児期発症のてんかん患者の一定数は将来的に成人診療科移行する必要がある。しかし、成人診療科医師の不足、合併症の診療、などの問題により、困難なケースも多い。

徳島大学病院では、てんかんセンター開設に伴い、小児期発症のてんかん患者の成人診療科へ移行が進んでいる。徳島大学病院小児科において、2020年1月から2024年11月までにトランジションの承諾を得て、成人診療科に紹介できた患者は、計56名（男性35名、女性21名、年齢15-58歳（平均29.1歳））であった。2020年5名、2021年22名、2022年13名、2023年7名、2024年9名と、てんかんセンターの活動が軌道に乗るとともに、トランジションが望ましい患者さんの移行が順調に進むようになった。

当院でトランジションした症例のうち、知的障害がある方が40名（71%）であった。ただし、近年は基礎疾患のある方の移行が一定数完了したこともあり、基礎疾患や知的障害のない方の成人移行の割合が徐々に増えてきている。このことは、長年にわたり成人診療科移行が困難であった、知的障害を持たれている患者さんの成人診療科移行が、てんかんセンター開設とともに進んできていることが考えられた。

移行施設にては、院内成人診療科が44名（79%）と多く、他院への紹介に関しても12名（21%）をお引き受けいただいた。移行診療科は、精神科神経科22名（39%）、脳神経外科16名（28%）、脳神経内科16名（29%）、他診療科3名であった（重複あり）。一部の小児期特有の基礎疾患のある患者（Leigh脳症など）では、脳神経内科への紹介の際に、小児科での併行診療を継続することでトランジションの終了を目指している。また、紹介先診療科において、てんかん診療と合併症（身体・精神）診療の診療科を分けて紹介することが必要なケースもある。

徳島大学病院てんかんセンターでは、月に1回のペースで症例検討会を開催しており、その場で重症心

身障がい者など成人診療科への移行に際し困難が予想される事例を検討し、問題点と対策を検討している。小児期発症の特殊な基礎疾患のある患者では、小児科と成人診療科が共診でみる期間を挟むなど、個々の事例に応じた対応を進め、円滑に移行を目指している症例がある。このように徳島大学病院てんかんセンターでは、成人診療科の協力の元、てんかんセンター症例検討会などを利用した院内での移行体制が出来つつある。本年度は、徳島てんかん診療ネットワーク研究会、てんかん診療連絡協議会等を通して県内でてんかん診療が可能な成人診療医療機関との連携強化を行い、引き続き成人診療科移行への必要性を伝えていきたい。

近年、医療の高度化とともに医療的ケア児が増加しており、成人期を迎える患者さんの人数も増えてきた。最終的に小児科からの移行が困難なてんかん患者のケースとしては、重症心身障がい児（者）で在宅人工呼吸管理を受けている方、などがあげられる。このような方々の成人診療科移行に関しても徐々に検討をしていきたい。

7. 災害への対策整備・活動と計画

「てんかん患者さんの災害対策」についてのパンフレットを作成している

徳島県において抗てんかん薬についてはバルプロ酸、フェノバルブ注、セルシン注、ダイアップ坐薬が備蓄されている。新たにレベチラセタム錠とDSが追加され、今回あらたにレベチラセタム点滴静注製剤が追加になった。しかし、バルプロ酸に関しては錠剤のみでは小児例で対応が困難であることと、内服困難例に対する選択肢が少ない。バルプロ酸シロップの追加が望ましいと考えられる。

- ② 今年度に取り組んだものとして、患者・家族からの相談対応として（左）大学病院内に『てんかんセンター相談窓口』を設置し、（右）相談窓口 HP を開設して、オンサイト・オンライン両者の相談事業を開始した。



コーディネーター育成のため、オンライン開催のてんかん診療支援コーディネーター研修会の受講を促して、2名の新規取得者を得た。更に、てんかん学会総会（福岡）、てんかん学会中国四国地方会（徳島）、JEPICA 2025（金沢・予定）に参加して取得を目指す人員を募っている。

- ③ 年度内開催が見込まれている研修として、以下のものがあります。

○学内での非専門医療従事者への講習会（日時未定）

○県民公開講座

日時：令和7年3月16日（日） 14～16時
会場：いよてつ高島屋 ローズホール（松山市）



29. 福岡県てんかん地域診療連携体制整備事業 2024 年度活動報告

福岡県てんかん治療医療連携協議会委員長
九州大学病院 脳神経内科
重藤寛史

1. 概要

てんかんは診断が難しい場合があり、てんかん診断に必須の脳波も判読が困難なことがある。治療においても無投薬でよいものから、単剤、多剤、外科治療、食餌療法まで様々な存在する。適切な診断・治療のためには相応の知識が必要であり、複数の医師による診断が望ましい。対象年齢も乳児から高齢者まで幅広く、医療・福祉の選択肢も幅広い。「てんかん」に対する偏見や理解は地域によって温度差がある。福岡県てんかん支援拠点病院では、これらを踏まえた上で活動を行っている。

てんかん支援拠点病院のてんかん診療体制として、「てんかん脳神経内科カンファレンス」、「てんかんカンファレンス」を定期的に開催し、てんかんの正しい診断を行い、抗てんかん発作薬治療、てんかん外科治療において最適な治療の選択ができるような体制をとっている。拠点病院内にて「てんかん医療運営委員会」を定期的に開催し、移行期医療や精神症状をもつてんかん患者についての対応を検討している。

地域連携に関しては、初学者向け「脳波判読セミナー」を 8 回、中級者向け「福岡臨床と脳波懇話会」を 6 回、WEB を用いて開催し、地域てんかん医療の教育活動を行っている。福岡県てんかん治療医療連携協議会の委員として、九州大学病院医療連携室およびてんかん協会所属の委員を増員し、てんかんに関する情報源を増やしててんかん医療の均てん化を進めている。精神科におけるてんかん医療の啓発として、福岡県精神科病院協会理事会にて拠点病院事業を紹介し、精神科病院に出向いての講演も行っている。

てんかんへの理解を深めるため、「てんかん総合講座」、「福岡県てんかん支援拠点病院研修会」を開催している。2024 年度はそれぞれ 200 人前後の参加者があった。また、来る 3 月に福岡県主催の「精神障害への理解を深める講演会」および拠点病院主催の「市民公開講座」にててんかん啓発活動を行う予定である。

2. 福岡県のてんかん診療体制

1) 九州大学病院のてんかん支援拠点病院としてのてんかん診療体制

てんかんの診断や治療方針は一人だけの医師の判断では困難なことや誤ってしまうことがある。それを防ぐには、複数の医師での検討や医師以外の職種の意見を取り入れることが重要である。九州大学病院では、新患・再来患者に対して、2 週に 1 度の「てんかん脳神経内科カンファレンス」を行い診断や治療方針の確認を行っている。また、従来通り、他施設も WEB にて参加できる「てんかんカンファレンス」を月 1 回開催し、難治性てんかんに対する抗てんかん発作薬治療、てんかん外科治療において最適な治療の選択ができるような体制をとっている。院内では「てんかん医療運営委員会」を定期的に開催し、てんかん医療で問題になっている移行期医療や精神症状をもつてんかん患者についての対応を検討している。

てんかん医療に対する教育的な場として、てんかんや脳波の初学者に対する「脳波判読 WEB セミナー」を開催している。また、脳波への理解を深める勉強会として、九州大学病院だけでなく、福岡大学病院小児科、福岡大学病院検査部、福岡大学筑紫病院脳神経内科、福岡大学筑紫病院小児科、福岡こども病院小児科、小倉医療センター精神科など県内の医療施設が参加する「福岡臨床と脳波懇話会」も引き続き定期的に WEB 開催している。

2) 福岡県てんかん治療医療連携協議会

福岡県てんかん治療医療協議会委員会を 5 月と 2 月の 2 回開催し、活動状況の報告、今後の活動に関する意見交換を行った。てんかん治療医療連携協議会の委員として、九州大学病院医療連携室から 1 名、てんかん協会から 1 名を新たに選出した。てんかん専門医が減りつつある精神科医師へのてんかんの啓発として、福岡県てんかん治療医療協議会委員の発案に基づき、福岡県精神科病院協会理事会で「福岡県におけるてんかん支援事業について」の紹介をし、その結果、精神科病院での出張講演を開催することができた。

3. 活動状況

1) てんかん治療医療連携協議会委員の増員

2 名を増員し、以下の委員構成となった。

九州大学病院	重藤寛史 保健学部門教授 磯部紀子 脳神経内科科長 迎 伸孝 脳神経外科助教 向野隆彦 脳神経内科助教 室岡明美 医療連携センター (神田奈々 てんかん支援拠点病院事務) (松本文子 てんかん支援拠点病院事務)
久留米大学病院	本岡大道 精神神経科准教授
北九州総合病院	石井雅宏 小児科部長
福岡歯科大学医科歯科総合病院	鳥巢浩幸 小児科・小児神経科科長
飯塚病院	高瀬敬一郎 脳神経内科部長
福岡県精神保健福祉センター	楯林英晴 センター長
福岡市精神保健福祉センター	川口貴子 センター長
北九州市立精神保健福祉センター	小松未央 センター長
てんかん協会	岡本 朗 日本てんかん協会常任理事 吉田あけみ 日本てんかん協会福岡県支部長 熊丸恭子 日本てんかん協会福岡県支部
福岡県保健医療介護部健康増進課こころの健康づくり推進室	増本啓介 松田京子

2) 専任事務員増員

1人追加し2人体制とし、地域医療連携室職員のバックアップも併せ、平日の10:00~15:00であればいつでも相談受付窓口電話、てんかんの新患予約に対応できるようにした。

3) 2024年度第1回 福岡県てんかん治療医療連携協議会 2024年5月20日

2024年度第2回 福岡県てんかん治療医療連携協議会 2025年2月4日

4) 第1回 てんかん医療運営委員会 2024年9月30日

第2回 てんかん医療運営委員会 2025年1月20日

第3回 てんかん医療運営委員会 2025年3月5日(活動予定)

5) 福岡臨床と脳波懇話会(月例会)のWEB開催

第561回 2024年4月17日

第562回 2024年5月15日

第563回 2024年6月19日

第564回 2024年9月18日

第565回 2024年11月20日

第566回 特別講演会 2025年1月24日

第567回 2025年2月19日

6) 脳波判読 WEB セミナー

2024年9月24日 脳波判読の基礎

2024年10月8日 モンターージュ、Phase reversal

2024年10月22日 正常亜型、睡眠

2024年11月12日 アーチファクト

2024年11月26日 徐波・意識障害

2024年12月17日 焦点てんかん

2024年12月24日 全般てんかん

2025年1月14日 Critical care EEG

7) てんかんカンファレンス

毎月1回(4月5日、5月17日、6月21日、7月5日、8月30日、9月5日、11月1日、11月30日、1月5日)

17日、1月31日、2月21日、3月12日)

8) 第34回 てんかん総合講座 2024年8月5日

公益社団法人日本てんかん協会福岡支部が毎年行っている「てんかん総合講座」を昨年度に引き続き福岡県てんかん支援拠点病院との協働事業として行った。「成人のてんかんについて」の演題で九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野/九州大学病院 脳神経内科の重藤寛史氏、「てんかんの基礎対応と小児のてんかんについて」の演題で福岡歯科大学医科歯科総合病院小児科・神経小児科の鳥巣浩幸氏の講演が行われた。てんかん当事者にも体験発表をしていただいた。福祉関係者を筆頭に、医療関係者、教育関係者、患者本人、患者家族など212人の参加があった。

9) 第3回 福岡県てんかん支援拠点病院研修会 2024年

11月6日「てんかんと精神症状」をテーマとした研修会をWEBセミナーにて開催した。久留米大学医学部神経精神医学講座の本岡大道氏に「てんかんとうつ症状」、安元真吾氏に「てんかんと精神病症状」、増本政也氏に「心因性非てんかん発作」の演題で御講演いただいた。当日ライブ参加92名、オンデマンド106名で、医師、看護師、福祉士、生活支援員、介護福祉士、就労継続支援員、他様々な職種の参加があった。た。当日ライブ参加92名、オンデマンド106名で、医師、看護師、福祉士、生活支援員、介護福祉士、就労継続支援員、他様々な職種の参加があった。

10) 福岡県会議員によってなされた県議会における一般質問 2025年2月13日
てんかんの啓発、学校現場への対応、就労の問題について協力した。

11) 市民公開講座 2025年3月1日 (活動予定)

てんかんは身近な疾患であるということを啓発する意味を込めて重藤寛史氏(福岡県てんかん支援拠点病院・九州大学病院脳神経内科)が「認知症と高齢者てんかん」をテーマに、家族や非医療従事者が口腔用けいれん薬が使用できるようになり小児神経学会から対応マニュアルが出されたこともありチョン ピンフィー氏(福岡県てんかん支援拠点病院・九州大学病院小児科成長発達医学分野)が「小児のてんかん」をテーマに講演を

12) 精神障害への理解を深める講演会 2025年3月5日

「てんかんの基礎について」をテーマに福岡県てんかん支援拠点病院/九州大学病院 脳神経内科の重藤寛史氏が行う。

13) 全国てんかんセンター協議会 2025年3月22~23日(金沢)

支援拠点病院から医師2名、看護師2名、検査部2名、医療連携センター1名が発表あるいは座長を行う。

医療・福祉関係者のためのWEBセミナー

第3回 福岡県てんかん支援拠点病院研修会

てんかんはメンタルの問題を併存することが多く、また、ストレスや睡眠不足で発作が出やすくなります。そこで今回は、てんかんと精神状態の関係を専門医から学ぶ研修会を開催します。

2024年11月6日(水) 19:00 ~ 20:15 (WEB入室 18:30 ~)

オンライン (Zoom) 福岡県てんかん診療にあたる医師 歯科医師ならびに医療・福祉関係者 250人(定員) **参加費 無料**

プログラム

テーマ ~てんかんと精神症状~

講師・司会	重藤 寛史	九州大学大学院医学研究院・保健学部門 検査技術科学分野・教授、九州大学病院・脳神経内科
てんかんとうつ症状	本岡 大道	久留米大学医学部神経精神医学講座 主任、久留米大学病院・教授
てんかんと精神病症状	安元 真吾	久留米大学医学部神経精神医学講座・助教授
心因性非てんかん発作	増本 政也	久留米大学医学部神経精神医学講座・助教

オンデマンド配信 2024年11月8日(金)~11月29日(金) すべてのお申込み者が閲覧可能です

福岡県医師会会員の方へ 第3回福岡県てんかん支援拠点病院研修会では日本医師会生涯教育講座合計「1単位」取得できます

おのQRコードまたは下のURLにアクセスし 必要事項をご入力の上お申し込みください 申込み完了メールが届いたら受付完了となります

<https://forms.gle/KqCdj7nqHq1vagtZ8>

福岡県てんかん支援拠点病院 九州大学病院 福岡県てんかん診療医連携協議会 九州大学病院学際連携医療開発センター

参加申込締切 2024年11月5日(水)8時

お問い合わせ先 九州大学病院内 福岡県てんかん支援拠点病院事務局 E-mail: koki@epilepsy.kyushu-u.ac.jp

福岡県てんかん支援拠点病院

市民公開講座

タイトル 認知症と高齢者てんかん 小児のてんかん

九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野 重藤 寛史 先生 九州大学医学部 小児科 成長発達医学分野 チョン ピンフィー 先生

日時 2025年 3月1日 10:00~12:00 (開場 9:30~)

会場 博多駅 JR博多シティ会議場〈大会議室 10F〉 アクセス案内: (博多駅)阪急百貨店エレベーター(B3F~屋上)・中央エレベーター(B1F~10F) 上記2ヶ所のエレベーターをご利用ください。 ※10:00以前のご利用は、〈博多駅〉阪急百貨店エレベーターをご利用ください。

定員 130名(先着順)

対象 どなたでもご参加いただけます

申込方法 おのQRコードまたは下のURLにアクセスしてお申し込みください URL: <https://forms.gle/STs867ZakZcVVF7e> Googleフォームの参加申込完了が表示されたら 受付完了となります (複数名で参加される場合は 必ず人数分お申し込みください) (上記申し込みが困難な方は 当日受け付け致します)

申込用 QRコード

お問い合わせ 福岡県てんかん支援拠点病院 九州大学病院 TEL: 092-642-4379 E-mail: epilepsy@jimu.kyushu-u.ac.jp (申込専用) URL: <http://epilepsy.kyushu-u.ac.jp>

30. 長崎県のてんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度）

独立行政法人国立病院機構長崎医療センター てんかんセンター 小野智憲

概要

「てんかん地域診療連携体制整備事業」が長崎県でスタートし6年となる。独立行政法人国立病院機構長崎医療センターてんかんセンター（以下、当センター）は支援拠点病院として、てんかん患者の治療や相談支援、てんかんに関する啓発活動に加え、長崎県内の医療機関とのネットワーク強化など目標として活動を行ってきた。医療機関連携体制整備では、専門的検査や治療を行える「中核医療機関」と地域の「連携医療機関」とのコア・シェル構造による「長崎県てんかん診療連携ネットワーク」を構築した。これは自治体（長崎県）が認定、運営を行う、日本初のてんかん診療連携ネットワークである。今後これらの連携は情報共有や、中核-連携医療機関の活発な患者往来を維持するべく、既存のオンライン連携システムを利用していく計画である。一方、てんかんのある人の福祉や生活の支援目的として「長崎てんかん医療福祉ガイドブック」を2022年に発行した。内容は、てんかんの基礎知識として診断や治療に関することはむしろ最小限とし、患者や家族の生活やライフステージに応じた支援やアドバイスを多く盛りこんだ。また、これらの媒体を活用しつつ、実際にてんかんのある患者や家族の「暮らしの困り」に関する調査研究も2023年に行った。将来的にはそれらの解析結果をもとに、必要な支援のあり方について議論ができればと考えている。

1) 支援拠点病院における患者支援・相談

2019年4月の事業開始以降、年度別の新患紹介患者数は約120～150名/年と事業開始前とは大きな変化はなかった。これは本事業の目的が医療機関に対するブランディングでもなければ、患者の集約化を目指すものでもないのが当然の結果であり、むしろ必要な患者のみが紹介受診となっているのではないかと推察する。一方、てんかんコーディネーターが対応した患者やその家族などからの相談件数、ここでは事務や申請手続きなどの単純な相談案件を除いたものは、事業開始1年目4件であったものが2～5年目は20～30件と5～7倍の増加がみられた。その相談内容は、受診や受療に関することが約80%と多くを占め、診断や治療経過に関する疑問や、セカンドオピニオンも含めた相談が含まれていた。すなわち、適切な治療を受けたいにも関わらず、十分な医療提供に行き届いていない患者が存在することを意味すると思われた。そのほかには生活に関すること、病気への不安、就労に関する内容で、対応するコーディネーターとしては医療や福祉などの専門的知識だけでなく、生活に関することの助言もできるような知識も有しておくべきであると自覚させられた。また、こうして相談の場にアクセスできて「困っている」といえる患者や家族はまだよいとして、アクセスできていない、すなわち「困っている」とどこにも言えない方々がまだたくさんいるであろうことも認識し、支援拠点病院としてどういう整備が必要であるかを今後検討していく材料としたい。

2) 地域医療機関との連携強化

幅広い診療連携ネットワークの必要性

「長崎てんかんグループ」は長崎県内のてんかんを専門とする医療者有志による個人ベースの団体として1990年代より発足し、現在は特定非営利活動法人として活動を継続し、医師を主体に定期カンファレンスやセミナー開催などを行ってきた。当センターはそのグループの活動を継承し、高次てんかん診療を中心的役割として担っており、外科治療、ホルモン療法、免疫療法などといった、特殊性ある治療も多く提供している。また、2021年からは、長崎大学病院でも本格的にビデオモニタリングユニットが稼働し、県内での外科治療件数も増加している。

このように県内のてんかんの専門医療体制が事業開始以降も年々拡張している状況ではあるが、一方でこうした大学医局や専門医の個人ベースの活動には限界も自覚している。人口と有病率ベースで算出した長崎県内の現在治療が必要でてんかん患者数は約8000人である。県内のてんかん専門医数、支援拠点医療機関での受診件数や手術件数などの診療実績から判断すると、大部分の患者は専門医療機関ではなく地域の中で治療を受けていると推測できる。てんかん専門医でなくとも、神経系の専門医であればてんかんの診療には基本的には問題はないので、この状況はむしろ好ましいかもしれない。一方で約30%の患者は治療抵抗性であるが、そのような患者に対してより専門的な診断や治療が提供されているのかは不透明である。てんかんセンターとしての経験上も、いくつかの特定の医療機関からの紹介がこれまでは多くを占めていた。先述のように紹介受診や相談にアクセスできていない患者がいるということを念頭において、本事業ではこれまでの連携体制をより拡張しなければならないという意識を持った。

自治体（県）が主導するてんかん診療連携ネットワーク

多くのてんかん患者をカバーするには、連携ネットワークにはより多くの医療機関の参加が求められる。本事業

業自体は自治体（長崎県）が実施主体となっている利点を考え、診療連携ネットワークも同様に自治体の運営とするのが、多くの医療機関の参加が得られる方策と考え、県と協議、準備を行ってきた。

長崎県との協議過程では、どのようなネットワーク体制モデルを構築するかについて議論した。長崎県ではすでに脳卒中やがんなどにおいて医療連携機能が確立しているが、高度医療機関と地域医療機関との階層制になっている。また、全国てんかんセンター協議会が提案する連携モデルや他県で実施されている連携モデルも同様に一次、二次、三次医療機関という階層制となっている。これは患者の動線、たとえばがん診療では、検診、または症状あり→検査→診断→治療→観察という風な一定の動線がある場合は有効活用できるかもしれない。一方で、てんかんの場合は患者年齢や症状の多様性、診断技術の特殊性、慢性疾患である点、併存症の問題など複合的であるため階層性よりも、容易に専門医療機関へ移動（相談）、またはかかりつけ医へ移動できる体制を構築する方が、利点が大きいと考えた。そこで長崎県では、てんかん「中核医療機関」、および「連携医療機関」によるコア・シェルの構造の医療連携ネットワークを構築することとした。《図1》これはあえて、1次、2次、3次などの階層制度としないことで、地域の医療機関と専門の医療機関を容易に移動できるような、すなわち「垣根の低い」単純往復システムとし、必要な患者への専門治療の提供を行いやすくすることを期待している。また、慢性疾患であるてんかんの患者を継続的にフォローアップし、患者の生活や福祉に対する助言も行えるような仕組みを確立することも狙いの一つである。そして、このような体制整備をより持続的、かつ実効的なものにするためには、おそらく全国初となる自治体（長崎県）自体がてんかん医療機関を認定し、運用する診療連携ネットワークを開始した。地域の総合病院から、単科のクリニックまで、幅広く、導入後48の医療機関のネットワーク参加が実現した。離島も含めて、すべての地域からの医療機関参加が実現し、中にはこれまで関わりの少なかった医療機関などもみられ、今後も本事業や県内のてんかん診療体制の認知がより広まっていくことを期待している。

3) 長崎てんかん医療福祉ガイドブック「てんかんを知ってともに暮らす」の発行

本事業開始後、「パープルデーながさき」をはじめとする市民講座や各種勉強会を数多く開催してきたことはすでに報告した。2020～2021年度は新型コロナウイルス感染症蔓延拡大のため、回数や規模縮小は否めない状況であった。また、各種セミナーや勉強会は出席した参加者が対象となるため効率の点では劣る面もある。

てんかんの患者や家族はてんかん発作だけでなく、併存症による障害のため、多くの場合生活や福祉面の支援を必要としている。上述のてんかん地域診療連携ネットワークでは主に医療面での連携が主体となるため、生活や福祉の支援については十分にカバーできないと予想される。実際に医師、看護師などの医療従事者であっても、生活支援や社会福祉制度については誰もが十分な知識があるとは言えない。したがって、医療機関から患者をどうやって地域での生活支援につなげるかということも課題であった。

以上のような背景を鑑み、本事業では独自の「長崎てんかん医療福祉ガイドブック」を作成し、患者や家族、その関係者、および医療従事者への情報発信を行うこととした。内容は、てんかんの基礎知識として診断や治療に関することはむしろ最小限とし、患者や家族の生活やライフステージに応じた支援やアドバイスを多く盛り込んだ。《図3》

「長崎てんかん医療福祉ガイドブック」は関係機関での配布の他、電子版も自由に閲覧できる(https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/section/epilepsy_guidebook.html)。また、複数のメディアを用いて情報発信することは、現代において最も有効な手段であるため、内容を動画で説明し、Youtube 配信も開始した(<https://www.youtube.com/@nmc.tenkan>)。こうした方法により情報を患者と医療機関に提供することで、インタラクティブな理解向上が期待でき、先述の相談や情報を十分に利用できていない患者らへの支援としても有用な方法と考えている。

4) てんかん治療医療連携協議会

厚生労働省、ならびに長崎県の事業実施要綱に基づき、てんかん治療医療連携協議会を設置した。当県の構成メンバーは医療分野、患者・家族の会、および福祉・行政分野から選出、もしくは推薦された。《表》

5) 患者や家族の「暮らしの困り」に関する調査研究（2023年度実施）

前述のように「長崎てんかん医療福祉ガイドブック」は当院で受けてきたさまざまな相談や経験知に基づいて、てんかん患者家族が知りたいであろうと推測される生活上の注意点、社会・生活支援、医療費・生活費のサポートを中心に収載したものである。てんかんは全年齢に発症する慢性疾患であるが故に、たとえば療育、就学、就職、妊娠や育児、免許取得、障害支援、生活介護など、患者の生活状況に応じた助言や支援が必要であり、そしてそれらについて医療機関から適切に情報提供を受けていないことが多いのではないかと危惧している。そこで、てんかん患者・家族の「暮らしの困り」を把握し、今後の情報提供や支援の在り方を検討することを目的に実態調査を行った。

長崎てんかん医療福祉ガイドブック（初版）を手にしたてんかんの患者・家族およびその関係者を対象にオンラインでアンケート調査を行った。質問紙は長崎てんかん医療福祉ガイドブック（冊子）に回答入力サイトのQRコードを添付し、2022年12月5日～2024年1月30日に配布した。調査内容は、暮らしや将来に対する心配の有無、その相談や情報享受の有無、患者支援サービスの認知度やその利用状況とした。

22名からアンケートの回答を得た。てんかんのある方・ご家族の実に94.1%が「暮らしや将来に対する心配」があると回答した。それに対して、通院先の医療機関から何か説明や指導を受けたことがあるかという問いには、41%がある、59%がないと回答した。受けた説明や指導の内容は、日常生活の注意点や、自動車運転免許についてが多かった。医療従事者やその他の関係者においては75%がてんかんに関する相談を受けていたが、その相談に適切に対応できていないと回答していた。

てんかん患者や家族は、暮らしや将来に対する心配について、情報や支援を受ける機会は少ないかもしれない。今後は、てんかん患者・家族への啓発活動はもちろんのこと、医療従事者、その他関係者に対する暮らしや福祉制度に関する研修会の実施に注力し、医療機関が関係各所と協働して支援できるような、さらなる支援体制づくりが必要である。

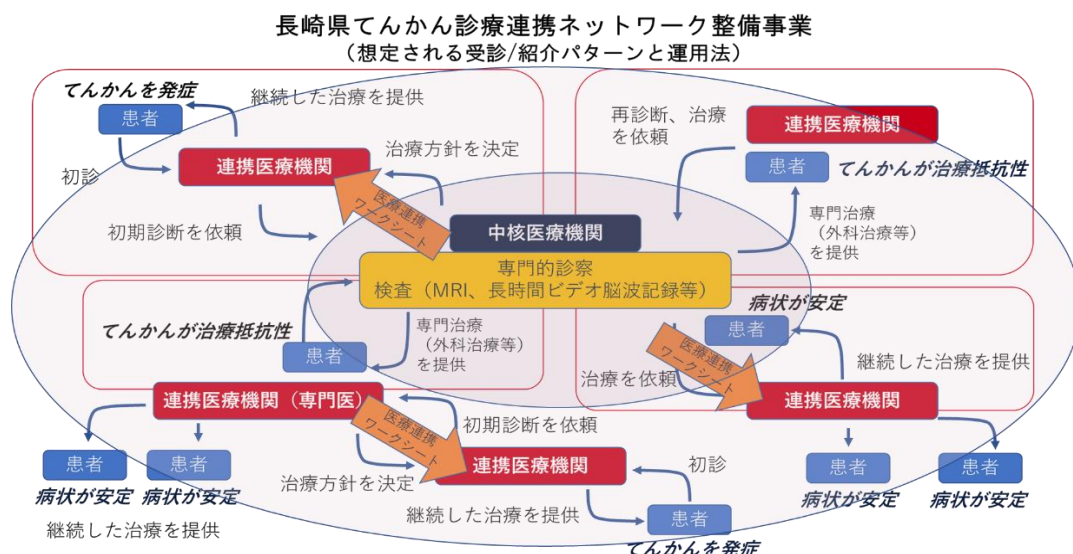
6) 次年度計画

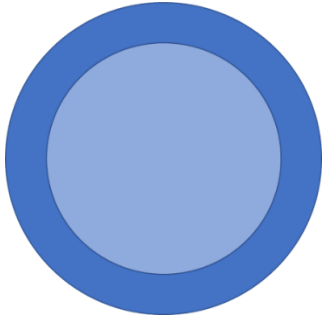
2022年4月より運営開始した「長崎てんかん診療連携ネットワーク」を拡張し、地域の患者への医療提供の均てんかん化をさらに進めて行きたい。またシステムとして、オンラインベースでの情報共有化や中核医療機関と連携医療機関の活発な患者往来を維持するよう連携ワークシートの導入も視野に入れている。てんかんを対象とした移行期医療の現場においても有用なツールとして発展させたいと考えていて、さらにはその他の慢性神経疾患や心身の障害を持つ患者のにも広く応用できるようなモデルケースとなることを目指している。

「長崎てんかん医療福祉ガイドブック」の県内配布も継続して行い、てんかんのある人やその家族への生活支援へと結び付けたい。また、患者や家族の「暮らしの困り」に関する調査研究を継続し、今後必要な支援のあり方についても検討していきたい。

＜表＞ 長崎県てんかん治療医療連携協議会構成委員（計14名、2019年～）

てんかん治療医療連携協議会メンバー	
医療(8名)	患者・福祉・行政(6名)
小児科医師（2名、長崎県こども医療福祉センター、佐世保中央病院）	てんかん患者・家族の会（事務局長）
神経内科医師（長崎大学脳神経内科）	長崎こども・女性・障害者支援センター（副所長）
精神科医師（長崎大学精神科）	長崎労働局（地方障害者担当官）
脳神経外科医師（長崎医療センター）	長崎県教育庁（特別支援教育課教育主事）
長崎県医師会常任理事（長崎北病院）	県立保健所長会（県北・対馬保健所所長）
長崎県精神科病院協会（佐世保愛敬病院）	長崎県精神保健福祉士協会（理事）
長崎県薬剤師会専務理事	
事務局： 長崎県障害福祉課、国立長崎医療センター（拠点病院）	





コア・シェル構造型地域連携システムの理想

- 1) 強固で安定 (= 継続可能な体制)
- 2) Shell 部分の移動がたやすい
(= 中核へのアクセスが容易)
- 3) Core が大きければ全体像も大きくなる
(= 将来の発展性)

《図1》 長崎県が目指すてんかん診療連携モデル (コア・シェル構造)



《図2》 パープルデーながさき 2024 (第7回) と 2025 (第8回) . とともに患者が作成した作品をもとにデザインしたポスターとメッセージとなっている。



《図3》 長崎てんかん医療福祉ガイドブック表紙と目次

3 1. 2024 年度 大分県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

大分大学医学部附属病院 脳神経外科/医療情報部 松田 浩幸

1. 概要

大分大学医学部附属病院は、2023 年 10 月 18 日に大分県よりてんかん地域連携体制整備事業におけるてんかん支援拠点病院の指定を受け、活動を開始した。

2024 年度の体制としては、初年度である昨年度より継続して専任コーディネーター1 名（看護師）と院内のてんかん専門医 2 名（小児科・脳神経外科）が中心となって活動を行っている。

2. 活動内容

1) 大分県てんかん医療・地域連携協議会

2024 年 7 月 11 日に 2024 年度大分県てんかん医療・地域連携協議会を開催、てんかん地域連会体制整備事業・てんかん支援拠点病院の昨年度の事業について報告、本年度の事業計画について検討、承認を得た。

協議会構成員は以下の通り。

	氏名	所属	
1	石田 重信	あけのメディカルクリニック 理事長・院長 一般社団法人 大分県医師会	てんかん専門医
2	岡成 和夫	大分県立病院 小児科 副部長	
3	朝倉 豊美	公益財団法人日本てんかん協会大分県支部代表	家族
4	土山 幸之助	大分県こころとからだの相談支援センター所長	
5	藤内 修二	大分県保健所所長会（大分県豊肥保健所長）	都道府県
6	荻 貴伸	大分県障害福祉課 課長	
7	松田 浩幸	大分県てんかん支援拠点病院 （大分大学医学部附属病院脳神経外科）	事務局兼委員
8	小林 修	大分県てんかん支援拠点病院（大分大学医学部附属病院小児科）	
	佐々木 基子	大分県てんかん支援拠点病院（コーディネーター・看護師）	
	吉田 英彦	大分県障害福祉課精神保健福祉班 課長補佐（総括）	事務局
	津田 里咲	大分県障害福祉課精神保健福祉班 技師	

2) てんかん電話相談窓口

コーディネーターによる市民向け電話相談窓口を開設した。昨年度は年度途中 10 月からの事業開始であったため、実質的には初年度運用である。

・相談内容：4 月から 1 月までに 44 件の問い合わせがあり、そのうちてんかん患者および家族からが 25 件、職場・福祉関係・教育機関等が 10 件であった。当事業の相談窓口では、職場や学校関係者も相談対象として PR しており、有効に機能していることが伺われる。内容としては「治療・検査に関すること」が最も多く 15 件であったが、「受診勧奨」「医療機関紹介」「セカンドオピニオン」各 4 件など医療機関についての問い合わせも多く、後述のてんかん医療機関リストを有効に活用した相談対応を行うことができた。昨年度に引き続き「教育・仕事問題」「生活・療養問題」「心理・情緒問題」の相談も継続してみられ単なる医療相談だけにはとどまらなかった。相談対応時間は 15 分未満が 22 件と半数は短時間であったが、30 分前後、30 分を超えるものも多くみられた。相談者側で質問内容が明確なものに関しては比較的短時間で、心理・情緒関連等は相談時間が長くなる傾向にあり、今後作成する HP など情報提供を充実させることが、相談者側での理解を促進しより有効な相談窓口の利用につながるのではないかと予測される。福祉・教育機関からの相談でミダゾラム口腔溶液の使用法についてのもがあり、保護者との連携でコーディネーターが保育施設・学校へ出張しての訪問指導へつなげることができた。

相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
	4	4	3	3	1	6	4	4	5	10	44

相談者の属性

年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	合計
	0	1	0	8	7	2	5	1	1	25

性別	男性	女性	不明	合計
	10	31	0	41

続柄	本人	親	子	配偶者	親戚等	職場	福祉	行政	医療従事者	波の会	教育機関	友人	合計
	7	14	1	1	2	1	2	0	2	9	3	2	44

相談について

相談時間	10分以内	10～15分	15～20分	20～25分	25～30分	30分以上	合計
	10	12	6	0	7	9	44

相談内容

てんかん支援拠点病院について	4
てんかん専門医について	9
治療・検査に関すること	15
他医療機関紹介	4
関係機関紹介	2
初期受診勧奨	4
セカンドオピニオン	4
自立支援制度について	2
医療費相談	2
医療・福祉に関する不満	1
教育・仕事問題	8
社会福祉制度の相談	3
医療・福祉施設相談	2
生活・療養問題	8
心理・情緒問題	7
運転免許について	1
移行期医療について	4
その他	13

その他)

パープルデーおおいた（ライトアップについての問い合わせ、3件）
 子どもへの病気の説明・育児について（2件）
 VNSについて
 施設でのてんかん研修について
 災害時の処方箋について
 波の会と情報共有（2）

3) てんかん地域連携・診療体制調査、事業ホームページ作成

大分県内の各医療機関に、てんかんに対する診療体制や提供可能な医療についての調査を実施、結果を公表した（進行中、随時更新予定）。大分県ホームページ内より結果を参照可能である。

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12500/tenkan-iryokukan.html>

また、大分大学医学部附属病院ホームページ内に、てんかん支援拠点病院ページを作成中である。本ホームページ作成は、大分県に対する篤志のご寄付より費用が拠出されている。この場を借りてご寄付元へ御礼申し上げます。

4) 啓蒙・啓発活動

・リーフレット作成配布

地域連携協議会での検討より、県障害福祉課と共同で当事業・相談窓口のリーフレットを作成、本年度内に5000部を、県内の保健所・各市町村の障害福祉課、県教育庁研修参加の公立小中学校・高校、精神科病院協会麾下の関係機関、大分県薬剤師会加入の600薬局へ配布を行った。

・市報/広報誌への掲載

県内各市町村の市報（県内全12地域）及び地方紙の広報誌へ、相談窓口の案内を掲載。リーフレットや市報から相談窓口へのアクセスもあった（3件）。

・SNS利用

てんかん拠点病院事業でInstagramアカウントを作成し、相談窓口の日程やイベントの発信を行っている。

・市民公開講座/啓発イベント（2023年度活動）パープルデーに合わせ、2024年3月24日に市民公開講座を開講した。また、前後の期間でライトアップイベントも実施した。市民公開講座は会場・Web併せて100名超の聴講あり、アンケートでも概ね好評であった。

本年度は2025年3月20日に、昨年度より定員増にて開催予定である。



5) その他・連携活動

- ・当事業コーディネーターと、その他の相談窓口（大分県小児慢性疾患相談事業、医療的ケア児支援センター）のコーディネーター・相談員で定期的な情報交換や事例検討ミーティングを開催している。また、この連携について大分県小児保健学会での発表を行った。
- ・電話相談事例から、保育園等へ出張してミダゾラム口腔用液の使用法レクチャーを実施した。また、大分県教育庁での養護教諭対象の講演会からの要望で、学校へ出張しての現地指導を行うことができた。
- ・今年度事業内で新たに2名全国てんかん地域診療体制整備事業認定てんかん診療支援コーディネーター資格を取得した。

3. てんかん診療・診療支援

月1回の多職種てんかんカンファレンスを開催、主に症例検討を行っている。

2024 年（1 月～12 月）のてんかん外科手術件数は 13 件であった。

てんかん地域診療支援として、医師派遣によりてんかん専門外来を県内遠隔地 2 ヶ所に開設、それぞれ週 1 回、月 1 回のてんかん専門外来診療を行っている。

4. まとめ

大分大学医学部附属病院では、2023 年 10 月よりてんかん支援拠点病院の指定を受け活動を開始したため、実質的には本 2024 年度が初年度の活動となった。

電話相談窓口については、開設当初の宣伝効果が薄れたためか、昨年度と比較して件数が減少している。本年度後半にかけてリーフレットや市報などでの広報を行っており、これらの効果を見て、来年度以降の追加での広報活動を検討していきたい。内容としては相談から継続して保育施設・学校への訪問指導など単純な電話相談に留まらないでんかん患者・地域支援を行うことができ、昨年度よりもさらに充実したと考えている。

広報・啓蒙活動は昨年度末に開催した市民公開講座が100名超の参加を得て、潜在的な関心及びニーズの高さを伺わせる結果となった。本年度は定員を増加、イベント内容も補強して実施予定としているが、来年度以降もこれらのニーズに応えられるよう、活動内容の検討、充実を図っていく方針である。

大分県は県内のてんかん診療体制が充足しているとは言えず、地域連携体制整備事業を通じて、診療体制の充実、医療資源の有効活用、医療・介護・福祉等領域間連携の推進を図り、てんかん患者さん・ご家族、関係者の地域での医療・介護へのアクセス改善へ引き続き取り組んでいく必要がある。

3 2. 鹿児島県におけるてんかん地域診療連携体制整備事業（2024 年度）

鹿児島大学病院てんかんセンター 花谷亮典

1. 概要

鹿児島県てんかん治療医療連携協議会構成委員 12 名
鹿児島大学てんかんセンター 医師 2 名（センター長、副センター長）
鹿児島医師会（常任理事）
鹿児島県精神科病院協会（理事）
てんかん協会鹿児島県支部
鹿児島県看護協会
鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会
鹿児島県精神保健福祉士協会
鹿児島県精神保健福祉センター（所長）
県立保健所長会（始良保健所長）
鹿児島県教育庁（保健体育課長）
鹿児島県くらし保健福祉部（精神保健福祉対策監）
事務局：鹿児島大学てんかんセンター（拠点病院）
鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課

2. 活動状況

2024 年度の計画に基づいて、以下の活動を行った（3 月分は予定）。

1) てんかん診療についての普及啓発

①啓発活動

パープルデー：てんかん協会鹿児島支部会員・鹿児島大学てんかんセンターコーディネーターらによる街頭啓発活動、および鹿児島大学てんかんセンター医師による Web 講演会を開催予定。

②行政職員研修

看護師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、事務職などの行政職員を対象に、てんかんに関する講演研修を行った。

③医療者向けセミナー

製薬会社や医師会などと連携し、医師や薬剤師を対象とした研修会を開催した。

2) 県てんかん診療拠点機関の活動

①データの蓄積

②研修活動

院外医師・コメディカルを含めたハイブリッド形式の定期カンファレンスを開催

③啓発活動

医療者に対するセミナーの提供、市民向けの啓発セミナー

④コーディネーター研修支援

認定てんかん診療支援コーディネーター取得のための支援活動を継続している。

⑤県内患者数の把握・分析

⑥県内てんかん診療情報の更新および蓄積

3. 課題解消に向けた取り組み・今後の計画

1) 診療拠点機関のてんかんコーディネーターによる相談・診療連携業務

てんかん診療支援コーディネーターの配置や育成に関わるコストの問題は、各県単位では困難。コーディネーターに興味を持つような啓発を継続。

2) 県内患者の把握

自立支援申請数・地域精神保健福祉資源分析データベースをもとに、県内医療圏ごとのてんかん患者数推移を把握。

3) てんかん診療ネットワーク情報の更新

厚労相研究班により作成された情報の更新作業を、県医師会と共同で継続する。

4) 行政ネットワークとの連携

研修会を通して、窓口となる職員や福祉関係の職員がてんかんに関する知識を習得できるよう、啓発活動を通しててんかんに関する知識や意識の共通化を図る。

5) 学校現場との連携

特に小児患者において学校現場との連携は重要であり、その機会を設けるよう教育関係部署に働きかける。

3 3. 令和 6 年度 沖縄てんかん拠点病院事業報告書

(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

報告者：沖縄赤十字病院脳神経外科部長 沖縄てんかん拠点病院責任者 廣中浩平

文責：沖縄てんかん拠点病院てんかんコーディネーター 饒波正博

活動報告

平成 6 年度の運営スタッフの陣容は、てんかん専門医 2 名（脳神経外科 1 名、小児科医 1 名）、てんかんコーディネーター 2 名（理学療法士 1 名、医師 1 名；社会医療法人へいあん平安病院精神科所属）で、各活動に際し病院事務部課長が適時サポートに入ることになっている。今年度の様に、年度当初の予定に入っていなかった事業を展開した場合、マンパワー的に困難を感じた。

予定に入っていなかった事業の 1 つは、てんかん患者のための大麻由来医薬品/薬物/食品の活用についての報告会の開催、もう 1 つは、第 29 回沖縄てんかん研究会を主催したことである。後者は、県内てんかん医療関係者の勉強会で、当院は会の立ち上げから協力しているが、今回は主催・運営を担当した。

年 2 回のてんかん協議会はネットで開催し、年 2 回のてんかん県民講話は対面で開催した。令和 4 年度より開催していた月 1 回の脳波カンファレンスは令和 6 年 8 月で終了した。インターネットを利用した参加者拡大を模索していたが、個人情報保護の課題が解決できず、それは叶わなかった。カンファレンスは公開していたが、参加者は固定し内輪の勉強会で始終してしまっただけで悔やまれる。

大麻抽出製剤カンナビジオールの全国治験、令和 5 年厚生労働省障害者総合福祉推進事業「てんかん診療拠点病院等における心因性非てんかん性発作等の実態把握（指定課題 23）」に参加し、経験症例を報告した。

県内のてんかん診療状況は、令和 6 年 4 月より琉球大学医学部脳神経外科主任教授に、てんかん専門医が就任した。今後、てんかん手術を行っていくものと思われる。また、てんかん認定医研修施設は 3 か所あり、当院と琉球大学医学部附属病院の他に民間精神科病院がある。令和 6 年度から、そちらでビデオ脳波検査が行えるようになった。これまで当院は、てんかん手術、ビデオ脳波を提供できる唯一の医療機関であったが、他院でもこれらが行えるようになり、連携することでいっそう充実したてんかん診療を提供できると考えている。

1) てんかん診療

ほぼ例年通りの診療内容になった。特筆すべきは、紹介患者が大幅に増えたことである。

2024 年（令和 6 年） 沖縄てんかん拠点病院診療実績（1 月～12 月）	
てんかん外来	
新紹介患者	123 (95)
入院	48 (61)
ビデオ脳波	19 (22)
てんかんの手術	14 (14)
選択的海馬扁桃体切除術	1 (6)
側頭葉切除術	0 (0)
脳梁離断術	5 (2)
迷走神経刺激装置設置術	2 (2)
迷走神経刺激装置電池交換	6 (4)
頭蓋内電極設置術	0 (0)
頭蓋内電極抜去術	0 (0)

カッコ内数字は 2023 年実績

2) てんかん患者生活支援

ピアサポートの視点から、患者会を立ち上げるためにニーズ調査を行っている。

3) 地域連携・啓発活動

- ・てんかん県民講話

第1回：令和6年08月25日

式次第

- 1) 13時30分～：講演
・「私のてんかん闘病記」：沖縄赤十字病院てんかんコーディネーター 照屋江里
・「てんかんに対する公的支援」：
てんかんコーディネーター 饒波正博
- 2) よろず相談会：日本てんかん協会沖縄支部

第2回：令和7年2月23日；

式次第

- 1) 13時～：講演
・「私のてんかん闘病記」：沖縄赤十字病院てんかんコーディネーター 照屋江里
・「てんかんに対する公的支援」：
てんかんコーディネーター 饒波正博
- 2) よろず相談会：日本てんかん協会沖縄支部

**令和6年度 第1回
てんかん県民講話**

日時：令和6年8月25日（日）
13：30～16：00

場所：うるま市健康福祉センター
うるみん（視聴覚室）

13：30～14：00
講演：てんかん闘病記
照屋 江里
沖縄赤十字病院てんかんコーディネーター

14：00～14：30
講演：てんかんに対する公的支援
饒波 正博
医師（沖縄赤十字病院てんかんコーディネーター）

14：30～15：30
てんかんよろず相談

参加費 無料

主催：沖縄てんかん拠点病院

令和6年度 第2回 てんかん県民講話

日時：令和7年2月23日（日） 13：00～15：00

場所：

13：00～13：30 講演：てんかん闘病記
照屋 江里（沖縄赤十字病院 てんかんコーディネーター）

13：30～14：00 講演：てんかんに対する公的支援
饒波 正博（医師/てんかんコーディネーター）

14：00～15：00 てんかんよろず相談

主催：沖縄てんかん拠点病院 参加費 無料

・緊急報告会：令和6年6月30日

演題：てんかん患者のための大麻由来医薬品/薬物/食品の活用
を可能にした大麻取締法の改正について

演者：秋野公造参議院議員

パネルディスカッション

題：カンナビノイド医薬品のこれから

座長：太組一朗（聖マリアンナ医科大学脳神経外科教授）

パネリスト

- ・正高佑志：脳神経内科医（一般社団法人グリーンゾーンジャパン代表理事・一般社団法人日本臨床カンナビノイド学会副理事長）
- ・林明子（日本てんかん協会沖縄支部）
- ・秋野公造参議院議員
- ・第29回沖縄てんかん研究会：令和6年9月6日

・てんかん協議会（ZOOM開催）

- ・第1回：令和6年9月26日（18：30～）
- ・第2回：令和7年3月13日（18：30～）予定

**第29回沖縄てんかん研究会
（現地開催＋WEB配信）**

参加費：1000円（半年会費500円含む、現地会場参加の先生）

2024年9月6日（金）
19：00～20：45

【開会の辞】19：00～19：05 琉球大学医学部脳神経外科学講座 教授 浜崎 禎 先生

【一般演題】19：05～19：25
座長：沖縄協同病院 院長 伊治 広二 先生
「沖縄赤十字病院のてんかん診療」
演者：沖縄赤十字病院 脳神経外科 廣中 浩平 先生

【ミニトーク】19：25～19：45
「活性化型ビタミンB6とてんかん」
演者：琉球大学大学院医学研究科育成医科学講座 仲村 貞郎 先生

【特別講演】19：45～20：35
座長：和花クリニック 院長 大府 正治 先生
「ビデオ脳波から考える小児てんかん」
演者：武蔵小杉小児科・てんかんクリニック 院長 日暮 憲通 先生
【閉会の辞】20：35～20：40 天久台病院 診療部長 前川 敏彦 先生

* 本会は小児神経専門医研修単位の設定を受けております。
共催：沖縄てんかん研究会・沖縄赤十字病院

